



樹齡1200年のイチョウ（一言主神社）

葛城古道は金剛・葛城の山裾の道
 神々と出会うのどかな山里の道
 秋色に色づく素朴な田園風景
 葛城の道・歴史文化館の隣
 古代豪族の鴨一族の氏神高鴨神社
 京都の上賀茂・下鴨神社の元社
 醜い男の代表「葛城の神」
 猶みたし花に明行く神の顔 芭蕉
 大和三山が一望できる
 中央が畷傍山、耳成山、天香久山
 九品寺本堂裏山の千鉢石仏の紅葉
 カラフルな前掛けを懸けた石仏
 葛城一言主神社 いちごんさん
 樹齡1200年といわれる乳銀杏
 境内を黄葉が埋め尽くす

紅葉と石仏（九品寺）



Photo essay

葛城

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵一

秋色に染まる（九品寺）





秋の夕照

弥勒磨崖仏

季節の



散り急ぐ

実景

笠置山

晩秋

撮影 武市通治



晴れ姿

赤い絨毯





雨の奥ノ畑谷（鈴鹿・雨乞岳） 一芝 義雄

北山晩秋（京都北山・雲ヶ畑） 山中 茂



夕照の霞沢岳（北アルプス） 武田 誠司

秋しぐれ（湖西・大谷山） 中川 光郎



初冬の陽だまりハイク - 台高・如来岳 -

奥田 英一郎

●目次

表紙：松田敏男「遠見尾根より黎明の鹿島槍ヶ岳」(北アルプス)

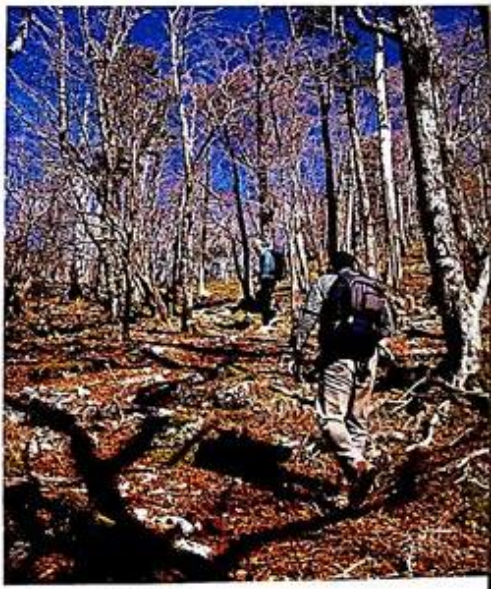
●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版「山岳」の編集多岐関与。(京都平安通社、南アルプス山系小説、東京ギャラリー10号、他)山の版権業「光る山」刊行(東京新聞社版)。京高山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

別冊 関西の山
新伴ダグ 106 11・12月 晩秋 第91号

沿線ハイキングガイド せせらぎ 新ハイサービスチェン 新ハイ関西山行計画	88 82 79 75
新ハイ関西山行報告 総目次(81~90号) 編集後記・広告案内	112 108 99
コース ① 小河口から夕暮山(銀南若杉) ② 久我山(南北山) ③ 伊賀谷山から八丁平(京都北山)	長宗 清司 柴田 昭彦 金谷 昭彦 72 70 68
●文学歴史探訪ハイク① 彦根城を訪ねて(湖北) ●(山のレポート)山の地名を歩く②「タコラ山」	松永 恵一 西尾 寿一 58 66 62
●旗根り通信の新研究① 愛知県内ルートI エリヤ別荘庭園研究 伊能ウヰーク I-Nやまと(最終回) ② JR木津駅と興福寺とJR加茂駅 ③ JR笠置駅と柳生とJR大河原駅(奈良・京都)	上田 侍弘 柴田 昭彦 48 54
●クラビエ (口絵) 吉見久子 武田誠司 中川光郎 一芝義雄 山中 茂 奥田英一郎 回想(山のエッセイ) 便利になった湖北・淮南地域 北海道での出会い	松永 恵一 武市 通治 奥田 英一郎 4 2
●紀行 青田山と後井山(山梨南都) 折立山南方尾根を雪中登高(比良) 三国岳・鳥帽子岳(鈴鹿) 音羽山・経ヶ塚山・熊ヶ岳(宇陀) 運船 標高による山の紹介シリーズ 31 △△91の山 越中沢岳・光岳・恵那山・越谷ノ高 友ヶ岳(奥山) 西表島を東西に横断(先島諸島) 盛蛇森・妹背山(四国) 男休山と白根山(金沢) 運船 三角点を訪ねて② 根来坂から三國峠へ(南本)	鷺見 守康 小山 誠次 長谷川 雅俊 木村 太郎 24 20 16 12 11 10
●巻頭言 山頂から胸のすく大展望を満喫する醍醐味は、登山者の大きな喜びだと思いが、関西にはそんな展望に恵まれた山は少ない。 山の地形は複雑で変化に富んでいるが、大きく分けると尾根と谷で構成される。尾根と尾根を挟んで谷があり、相方の尾根から水を集めて谷がで、急崖では滝となって流れる。山頂はいくつかの尾根が集まる所、山頂へ至る登山道はほとんどがそれらの尾根を伝う道で、谷をつめて行くのはごく限られている。山頂から派生する尾根が多いとそのぶん登山道も多く、山頂へ至るプロセスが楽しめることとなる。尾根はそれぞれに緩急も違い植生も違うので、上りと下りで違う尾根を使えば二つの登山道が楽しめる。このように、関西での山の楽しみ方は、いろいろな登山道を選び、それぞれに違うプロセスを味わいながら喜びを見出すことにある。 関西はほぼ1000m未満の低山ばかり、登山道の無い尾根を、やぶを漕ぎながら行っても登れ、未知の山頂に立つ喜びも大きいだろう。やぶの少ない晩秋、等高線を上手に読んで、そんな無名峰にも挑戦してみよう。 新ハイキング関西(代表) 村田 智敏	長宗 清司 藤村 勝彦 松田 敏男 山田 明男 金谷 昭彦 中島 仁志 田中 明 磯部 純 柴田 昭彦 54 44 40 34 30 28 24 20 16 12 11 10



風を感じる山稜



シカ道に引かれて 思いのままに歩く



便利になった 湖北・嶺南地域

長宗 清司

長年の悲願でもあった、JR北陸本線の長浜駅以遠および湖西線水原〜近江塩津駅間の直流電化工事が完了した。10月21日出のダイヤ改正からは、敦賀駅まで直通の新快速が運行され、地元住民や江若国境付近の山を歩く私たちの足が便利になる。

4、5年前から、この地域を歩き廻っている私たちはまさかこれほどうまくことが運ぶとはつゆ知らず、現実を目の当たりにして、まさに「青天の霹靂」の心境にある。

これからは「朝の集合時間が早過ぎる」という苦情も聞かずに済みそうである。

長浜、敦賀間は、歴史的にも有名な重要文化財が豊富な風致

地区で、高月の渡岸寺十一面観音を中心に、湖北には数多くの観音像が集落の人々の手で護られてきたし、琵琶湖北部の嵯峨岳・余呉湖周辺には城跡・古戦場が点在し、まさに歴史の宝庫である。

近江塩津には、古代に活動した大浦断層によってつくられた「高層湿原」(山門水原の森)の観察・散策路が開設された。国境には、その昔、源氏物語の兼式部が父と越えた「深坂古道」の峠、平家一門によって琵琶湖と敦賀湾を運河で結ぼうという構想が、途中の大岩に阻まれて断念した話などが残っている(この大岩はいまも「壱掛地蔵」の名で残存している)。

さらに、万葉集にも「愛発山」を詠んだ歌があり、鎌倉時代、義経主従が兄の追っ手を逃れて闇の山中、関所を避けてさまよったのも、このあたりである。

これまで、湖北・湖西部の

住民は一丸となって観光開発に地道な努力を重ねてこられた。湖北の観音めぐりバス、マキノピクニックの農園開発、菅浦(農山漁村体験交流施設)や家族旅行村「ピラデスト今津」の温泉・宿泊施設、80歳の尾根を歩く湖西トレイルの整備など、各市町村がこぞってボランティア、友好団体・グループの協力の下、精力的に活動されてそれなりに成果を上げている。

この電化工事が完了によって、さらに小浜線沿線の山々へも楽に出かけられるだろう。交通が不便で立ち入れなかった地域だけに、手づかずの自然が多く残っていて、地元の人々も気づかなかつた広大なブナの原生林を見ることもできる。これを機にぜひ訪ねてほしい沿線である。

ただ残念で淋しいのは、これまで北陸本線を走っていた。白地の車体に太細二本のブルーラインの入った切妻型の形から



随想 (山のエッセイ)

北海道での出会い

藤村 勝彦

7月の10日間余、北海道に遊んだ。メモを調べてみると、何と7年振りであった。

往きの舞鶴港で自転車オジさんを見かけた。小樽に着いてからも偶然が重なって親しく話を交わすようになった。

彼、Oさんは小樽から真狩へ行き、ベタルを踏んで羊蹄山に登った。18時前に道の駅「ニセコ」で落ち合い、当夜は車の中で遅くまで飲み、楽しい夕べを過ごした。

自転車では1日に100kmを走るのは普通で、私がOさんの年齢だった50代後半をなぞってみて、果して出来たであろうか、答えは否である。山スキーも相当なレベルのようで、登山も私とは次元が違い、理解の域を超えている。

翌々日、彼は同宿した薬師温泉を早朝に発ち、苫小牧へ向かった。

彼と別れた翌日、日高へ向かう道すがら、Oさんのたどったルートをたぐるように、ゆっくり移動した。日本の道路は、サイクリングマニアには苛酷で危険がいっぱいである。

日高ではポンヤオロマップ岳と十勝幌尻岳の登山口を下見し、

翌日、十勝幌尻岳(1846m)に登った。すてきな写真をもにしようと思気込んでいたのに、主稜線の名峰たちは霞のかたで全容を現わしてくれなかった。

翌早朝、伏美岳へ向かった。登山口にたどり着くまでに手間どり、中途半端な時間になり、次回の楽しみとした。

Oさんは、10月まで道内をさまようらしい。彷徨というより短期定着、もしくは言葉は悪いが「居坐る」と言ったほうが妥当であろう。

その人の背景を考えるに、見えてくるのは自分をコントロールする、自分をねじ伏せることのできる心の強い人だと思われる。だから、私はスキーや登山の達人はもとより、そういう人にも憧憬を禁じえない。

新ハイ例会自然観察山行

青笹山と篠井山

あおざさ やま しのみ さん

鷺見守康

山梨南部



青笹山山頂

奥山温泉で私たちが降車すると、奥山温泉紹介の民宿に泊まるため、バスは町の中心部へ戻った。翌朝、バスは再度狭い道を奥山温泉まで走って私たちの手荷物を受け取り、それから下山後の待ち合せ場所へ運行することになっている。運転手も大変である。

私たちは施設に入って厨房で湯を沸かし、大休憩所に長机を並べて朝食をとった。

東名高速道富士インターから国道52号線を北上して南部町に差しかかると、前方に堂々たる山容の篠井山が見えてくる。標高は1400以上に満たないが、峻々たる稜線をいたたく大きな山体の独立峰で、抜きん出た存在感を放っている。

青笹山
いつものようにバス前後発で、奥山温泉には未明に到着してしまふ。晩秋の早朝、寒い外気のなかで食事をし、身仕度するのはつらい。そこで宿に早朝5時の入館を交渉した。何回かの電話を要したものの、結果として宿側は要望を入れ、私たちが受け入れるために宿直者を配置してくれた。南部町経営の公共施設にもかかわらず、対応は柔軟であった。

登山口はいくつかあるが、ポピュラーなのは山中深く分け入った奥山温泉からのルートであり、奥山温泉には、日帰り温泉施設と一体になった木の香漂う自炊形式の公共の宿がある。

南部町は、町内の山岳の登山マップを独自で作成しており、登山者にも慣れているようだ。そのことは、翌日の篠井山下山後に立ち寄った町営の日帰り温泉施設「なんぶの湯」でも感じられた。

た。今回は自炊形式の宿泊で、夕食の準備は全員で分担することになっている。このような宿泊は、自然観察山行では初めてのことである。

朝食後、外に出ると青空であった。奥山温泉の駐車場から田代峠への林道を歩く。1時間半ほどで田代峠に着き、峠から奥境尾根を登った。急登につぐ急登で息が切れる。10時過ぎに青笹山頂到着。青笹山は、ガイドブックでは「青笹」だが、山頂の表示は「青笹山」だった。

「青笹山」という名の山は南アルプス南部に位置する青笹山の南にもあり、そちらの方が標高が高い。今回、そちらと間違えた参加者もいたようだ。
山頂は360度の大展望だった。でっかい富士山と南アルプスと南ア深南部の山々の景観をゆっくりと楽しみ、いつものように砂原さんの山座同定が始まった。メンバーの中には、彼女の同定が居合わせた地元ハイカーの意見と違うという人がいたが、私は砂原さんを信じるとうんざりしてはばからなかった。



青笹山・篠井山付近略図

早めの昼食後、ササが切り開かれた稜線を通り、細島峠に向けて出発。
安倍川東山稜の稜線はどこまでもササが切り開かれていて、十枚

山を越え、さらに北へ大縦走もできるようだ。
細島峠からの下りは、広いガレの急斜面に落ち葉が積り、難渋した。ピンクのテープだけはくまめに付けられており、道難だけは克服されるという、地元の声が聞こえるようだ。朝通った林道に出合い、14時15分に奥山温泉に戻った。
温泉で汗を流してから夕食の支度をす。自炊といってもすべてを調理するのは大ごとなので、奥山温泉紹介の肉屋に弁当とオードブル、豚汁の食材などを注文しておいた。男性陣は配膳を担当、女性陣は料理班と後片付け班に分け、ワイワイガヤガヤと準備した。
夕食がおいしかったのは言うまでもない。恒例の反省会も貸切りの気楽さで大いに盛り上がり、露天風呂から見上げた星空がきれいだった。

篠井山

篠井山は名だたるヤマビルの山で、活動の最盛期には登山口で逃げ帰るハイカーもいるという。
奥山温泉から奥山グリーンロッジ方面に進み、大洞橋に差しかかると辺りが開

『万葉集』歌枕紀行

大和葛城山

木村 太郎

大和葛城

葛城高原つつじ園



標刺さましを今を悔しき

(巻七、一三三七)

「五月礼賛」の詩篇で、与謝野晶子は「五月は好い月花の月」と思いを伝えている。ポプラ・マロニエ・プラタナス・つつじ・芍薬・藤・蘇方、花の名を挙げ、手放して五月を賛美している。晶子の花賛歌に触発されたわけではないが、5月の野山を美しく飾るつつじの群生を求めて大和葛城山へ出かけた。5月のゴールデンウィークは、御所駅からロープウェイ登山口駅への道路が渋滞する。そこで、背崩から登ることに決め、富田林駅から水越峠行きのバスに乗った。

農家数戸の坂を登り、天狗谷の沢道を進んだ。鎖のある大岩を越え、水場を後

に急勾配の屋根に取り付く。階段まじりの道は急峻で、時折吹き抜ける風が心地好い。小ピークを越え、道がゆるんで治水石堤を過ぎる。弘川寺に通じる五ツ辻への小道を見送り、ショウジョウバカマの大群生に出会う。五ツ辻への本道に出合い、キャンプ場を抜け、山上のビクターセンターへ着く。大勢のハイカーにまじり、大和葛城山(959m)の山頂に向かった。2等三角点のある山頂に立ち、展望を楽しむ人々に仲間入りする。金剛山や大和青垣の山々は見えるが、大峰や大台方面は春霞がかかっている。

葛城の高間の草野はや知りて

換えて詠んだ歌であらう。

草野を横切り、つつじ園に向かう。一目百万本という、群生地つつじはまだ蕾を開いていない。満開には少し早い蕾のつつじでも、群れを成しているので高原一帯を真っ赤に染めている。

『万葉集』には「つつじ花にはへる君子……」(巻三、四四三)「つつじ花にはへる君子……」(巻十三、三三〇九)と詠まれている。若さの象徴としては、満開よりも蕾のつつじがふさわしいかも知れない。ロープウェイ葛城山上駅へ歩き、天神社へ出る。国常立命をまつる天神社のそ

ばに、役行者神変大菩薩の祠がある。舒明天皇の時代に、御所茅原の里で生まれた役行者小角は、葛城山で魔王権現を感じたとき、この地に山岳修験道を開いたという。葛城山にはその昔、土蜘蛛のような手足の長い土着民が棲息していた。『日本書紀』に記された由来によれば、葛の蔓で編んだ網具で一族は捕えられ一掃されたという。暗い幽邃の山として伝わる葛城山だが、ロープウェイで運ばれた人々で都会並みに賑い、現在の葛城山に昔の面影など求めようもない。



天神社広場のブナとミズナラの大木との再会を果し、人込みを避けて自然研究路の遊歩道に入った。思い起こせば、「ファミリーハイク」の第1回の山行が5月の葛城山であった。当時サブの中村さんと、雪の2月と花の4月に下見を重ねた。4月に歩いた自然研究路のブナの間で、カタクリの群生に出会ったのを思い出す。

ものふの八十娘(カキ)が汲みまがふ
寺井の上の堅香子の花
(巻十九、四一四三)

古くにはカタカゴと呼ばれていたカタクリの花。寺井戸で水汲みをしている少女たち。その化身のようなカタクリの群れ。短命ゆえに美しい花を詠んだ大伴家持の歌である。春早く眠りを覚ましたカタクリは、5月になれば清い花形を絶やしてしまふ。残された葉に実を付けたのち、木々が緑の衣装を広げる頃に、姿を消して眠りにつく。

自然破壊を受けやすい大阪近郊の山で、いまなお自生のカタクリが見られる葛城山は貴重な山城である。春の草花が開けば、林間には春の女神と呼ばれるギフチョウが舞う。

泉州平野や大和盆地から仰ぎ見られる葛城山、その美しい草野の高嶺は、万葉の昔より人々のあこがれであった。美しい草野を早く知り、自分の持ち物だと標を刺しておきたかったと詠んでいる。好ましい女性が他人のものになり、今では悔しいという思いを、葛城の草野に置き



孫井山山頂

子が違う。参道の入口に立っていたバス運転手は、私たちの姿を認めるや小走り境内に入った。境内では、運転手から連絡を受けてか、2人の女性があわただしく動き、台を持ち出してポットなどを用意しているのだ。

「予想もしないもてなしに私はまさに驚愕し、ひたすら恐縮し、うろたえていた。『ありがとうございます』と声を絞りだすように言って深く頭を下げるばかりであった。

茶菓子の接待を受け、ほとんど全員がトイレを借用し、お庫裏さんと娘さんに見送られて出発した。「またご縁がありましたら」というお庫裏さんの物腰には何の気負いも感じられず、ごくごく自然であった。メンバーの中には、寺の住職と私が知り合いと勘違いした人もおり、「全く無関係」と私の説明を聞いて改めて驚きの声があがった。山旅での新鮮な出会いにバス車内はいつまでも興奮が続き、私は深く感動していた。

帰路に立ち寄った日帰り温泉「なんぶの湯」もすてきだった。施設は明るく広

け、ここが登山口である。このルートは、尾根に切られた道がよく整備されていて歩きやすい。

ヒノキの植林地にブナ・ヒメシャラ・シロヤシオが混じる。常緑樹のヤマグルマ、アケビ・ミヤマシキミなどを観察しながら、山腹をジグザグに登ると小さな台地があり、ここからひと登りで9時過ぎに南峰に到着した。

前回はこの道の往復だったので、孫井山は組み易しと考えていたが、馬込への道は予想外に険しくスリルに満ちていた。山頂に「上級者向き」と表示してあった意味を思い知ることとなった。

9時半に南峰を出発。北峰には神社があり、木曾の山にも負けないアスナロの大木が林立して「あすなるの道」という表示がなされている。

北峰を過ぎ、後半の下りの縦走は、長いやせ尾根で急坂の連続。谷に滑り落ちそうなザレ場も多く、堂々たる独立峰、孫井山の凄さを思い知ることとなった。このルートを登る人はほとんどいないのか、他のパーティには全く出会わない。

山道から林道に下り立ち、12時過ぎ、馬込登山口に到着した。ここからバスとの

待ち合せの場所まで、山里の集落を歩いた。

孫井山を奥山温泉から登り、馬込へとくだる今回の計画を練っていたとき、問題点はバスの待機場所であった。国道から馬込登山口までの集落内の道は、舗装されているもの狭く、小型バスとはいえ通過するのが精一杯で、駐車したり回転できる場所が見当たらなかった。

目についたのが集落内の寺である。日蓮宗正行寺の境内には小型バスなら十分回転可能な駐車スペースがある。思い切って電話し「山歩き会の会者」と告げて事情を説明、バスの待機場所として境内を拝借したい旨申し出た。対応した住職は「バスがここまで入って来れるのならどうぞ」と即座に快諾し、「山歩きの会なら計画書があると思うのでそれをファックスミリで送信しておいてください。それだけで結構です」とのことであった。

やがて、家々の向こうに正行寺の屋根が見えてきた。まだ日も高いので、寺には誰もいないかもしれないが、誰か関係者がいればひと言あいさつしていくつもりでいた。

ところが、寺に近づくにつれ、何か様

く、露天風呂も特な造りだった。女湯には、何と化粧個室の設備もあるという。その化粧個室で磨きかけた女性もいた反面、「無駄なこと」と最初から利用しない人もいたようだ。

(平成17年11月26日27日歩く)

▲参考タイム▼

(25日)晴れ(集合)JR岐阜駅23・00(貸切バス)

(26日)晴れのちくもり(バス)奥山温泉4・50(朝食休憩)6・35(東海自然歩道休憩ベンチ)7・30(40)田代峠8・10(30)標高点8・50(青笹山)10・05(昼食)11・35(うつろぎ山)11・40(細島峠)12・25(45)林道出合13・50(奥山温泉)14・15(泊)

(27日)晴れ(奥山温泉)6・50(奥山登山口)7・10(渡り場の頭)7・50(8・00)渡り場の頭8・10(孫井山南峰)9・05(30)太田切10・30(一ツ森)10・40(一ツ頭)11・05(馬込登山口)12・05(正行寺)12・15(35)(バス)なんぶの湯12・45(入浴・昼食)14・15(バス)岐阜駅18・10(解散)

△地形図▽2万5千(孫井山・南部)

オリジナルザック専門店
登山と山道具のアドバイザー

中型ザック紹介

◆ワイルドミユウ◆

山小屋2〜3泊。シンプルで、フロントポケット、重量にも耐えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アクティブな山行に最適。立体裁断で身体にフィット。

*カラー レッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ
マゼンダ×モノクロ
ミント×モノクロ

*容量 40L
*重量 1800g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥18,000

イモックと
頑んで下さい

IMOCK.
KOBÉ

イモック山遊行くらぶ

11月19日(日) 六甲山系を歩く
12月17日(日) 揚州の名山
七福薬師の地蔵堂をたどる

詳細はお問い合わせください。
〒552-0038 神戸市東灘区白谷町3丁目1番30号
カナノビル2F

TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528

■営業時間/10:00~20:00 ■定休日/日曜日不定休

途中からアラキ峠を経て平にくだる

折立山南方尾根を雪中登高

比良

小山 誠次

折立山の山頂に立つには、平から権現山を目指すときにアラキ峠で一服した際、荷物をデポして往復するのが一般的である。いわばついでに登高するのが一般的であるという印象である。しかし、筆者は今回、昨年より早々に降雪しているため、途中から折立山への雪中登高を考えた。

平成17年12月10日、前夜のNHKの天気予報では、滋賀県北部の降水確率は午前・午後共40%、南部では午前・午後共10%だった。しかし、今朝方の天気予報では、滋賀県南部は不変だが、北部の降水確率は午前・午後共20%と、幸いにも好転していた。また、自宅からは愛宕山がうっすらと雪化粧しているのが遠くに

見えている。さらに、今朝方のニュースによると、びわ湖パレーでは50cmの積雪とも言う。

8時45分出町柳発坊村行き京都バスに乗ろうと、券売所で「途中一枚」と告げると、「1250円です」との返事。「えっ、そんなに高いですか」「朽木橋生でしよう」「いえ、ただの途中です。花折峠の手前の……」「580円です」。どうもただの途中と言わないと、途中までの乗車券は買えないらしい。降車する人が少ないのが原因であろう。

さすがにこの時期のバスはガラ空きで、発車10分前にバス停に着いたが、誰も並んでいない。8時45分発の坊村行きは12

(写真1) 途中バス停近くから権現山を望む



月15日までの土・日曜・祝日のみ運行だから、今年は明11日が最後となる。車窓からの風景では、比叡山は窪地のみ雪が残っているようである。大原では田畑や屋根にそこそこ雪が積り、道路は除雪されている。大原から一瞬見えた権現山は、山頂辺りかなりまとまった積雪があるようだ。バスは9時26分途中に到着した。筆者

はここで降車するのは初めてである。この地点で高度計を320mにセットする。これから折立山山頂まで約2・4kmあるが、とりあえずはバス路線から東側へのアスファルト道があり、北・北東に向かっているのをこれをたどる。前方遠くに冠雪した権現山を望む地点でアスファルト道を捨て、畑の畦道を通って左手の小高い折立山南方尾根の下端部を目指す(写真1)。

尾根ののっかるのに取り付きやすそうな場所を探す。自動車がたくさん放置してある傍らを通って、なおも奥に踏み

入るが、この辺りでは一面に10cm位の積雪があり、雪の表面が粗目になっている。9時50分、ようやく山域に踏み込んだ。踏み込んだ山域は積雪も疎らで、堆積した落ち葉が滑りやすそうだ。ここから折立山は磁北15度に位置するが、とりあえずの目標を折立山南方尾根途上のピーク564に置く。地図には、20m位隆起したコブのように描かれているので、比較的わかりやすいはずである。コンパスを首から掲げて方向を定める。

尾根をたどり始めて間もなく、一面10cm位の積雪となり、表面が粗目で滑りやすいので軽アイゼンを装着する。ここから東方を眺めると、霊仙山が1km程の所に位置し、注意深く観察すると、樹間に点々と雪が積っている。

これからしばらくは、霊仙山の見える方向と高度が現在位置の判断に役立つことになら

う。

10時10分標高510mに達した。この辺りでは雪の上に多くの枯れ葉・枯れ枝が落ちている。降雪後に強風が吹いていたらしい。ただし、本日は風も穏やかで、樹間からは青空が望まれ、このままの天候が持続して欲しいと思いついて歩いて行くと、10時35分ピーク564に達した。

5分間休憩する。ここからは霊仙山が磁北95度に見える。ようやく北東から南東に見えるようになってきた。さすがに今の時期は休憩しても飲水したいとは思わないが、少しだけ飲んでおく。

ピーク564からはいったん下りの尾根となるが、実は山域に踏み込んで尾根にのったと思える頃から、今までずっと鹿のトレイルを追ってきた。どこまで続くかわからないが、道案内してくれているようである。

さて、ピーク564からの鞍部は大きく右に屈曲しているが、この地点からの景観は本コース随一で、北西方面から南方までの視界が得られる。北西には遠くに皆子山が望まれる(写真2)。写真では右端遠方に皆子山が辛うじて認められ、



折立山付近略図



(写真2) 遠くに皆子山を望む

手前の尾根は折立山南方尾根の支尾根で、現在地との間にはジャクミ谷を挟んでいる。そういえば、昨年12月11日皆子山に登ったとき(本誌85号掲載)は、暖冬で雪など全く見かけなかったが、本日は皆子山も雪化粧している。

西側を向くと、花折峠から続く尾根の最高地点としてピーク812がその全容を覗き出している。いつかは登ってみた



(写真3) 折立山山頂

が深く、斜面のヒノキには西向きの樹氷が付着し、厚みが樹幹と同じ位に成長している。12時35分アラキ峠に到着したが、全くトレイルが無い。ササがわずかに雪上に見え、位の積雪である。

さて、ここからトン谷をくだるのであるが、夏道は全く不明なので、谷底に向

い感を抱かせるに十分である。南側に目をやると、途中トンネルすぐ南方の採石場の切り出し斜面に積雪が残り、その右下には小さく途中トンネル料金所の屋根の積雪もわかる。

この辺りからはおよそ30分の積雪であるが、表面はやはり粗目である。一歩ずつの齧足ではあっても、膝まで滑ることはない。

11時10分標高660に達した。先程の鞍部からここまでは比較的急斜面なので、一歩で稼ぐ高度はピーク564までよりも効率的である。霊仙山の山頂高度に近づいているのがよくわかる。ここで鹿のトレイルとも別れることになった。

11時28分標高700に達した所で、雪質が変化してきた。比較的サラサラした新雪のままで、輪カンジキを持参しなかったことを後悔するが、麓から眺めただけではわからないのだと改めて思い直した。さて、後100分の登高であるが、ここから膝まで滑り込むことが多くなってきた。

前方の高みには先程から青空がチラホラ見えているものの、ここが夏道との相違なのだろう、すぐそこがなかなか歩

かってまっすぐぐだり始めた。アラキ峠からトン谷上部は最も雪が深く、大腿部がほとんど埋まってしまふほどである。吹き溜まりになっているのであろう。雪が締まっていけないからシリセードもできず、一歩ずつ大胆にくだって行った。しかし、本日最もおもしろいひとときでもあった。

50分位下降すると、積雪も浅くなり、谷川と山道の区別がつくようになった。ふと気がつく、人のトレイルがはつきりと雪上に残っている。では、このトレイルはどこに続くのか。アラキ峠を経ずに権現山に向かうのか? あるいは下からここまで来て予想外の深雪で登高を断念したか。少なくともアラキ峠には向かっていない。

水場にたどり着いたが、合成樹脂の管からは水が流れていなかった。後は夏道のマーキングとトレイルを追って事もなく旧道の分岐点に到ったが、結局は現国道の分岐点まで軽アイゼンを装着したままだった。13時7分平バス停到着。何と天候が回復しているではないか! 一時の悪化に騙されたか。

ちょうど1年前と同じく、13時45分発

ない。折立山山頂近くになって、本月初めて赤テープのマーキングを見た。

11時58分、やっと折立山(819)に到達した(写真3)。本年10月16日に登ってから約2ヶ月振りである。あのときの可愛らしいリンドウは雪の下で眠っていることであろう。

ここからは権現山の山頂が間近に見える。多少風が強いとはいえ、雪を固めて昼食準備にとりかかった。

昼食はいつも通りのおにぎりとかップラーメンである。3分間待っている間に、全天が高層雲で覆われていることに気がついた。しかも、乱層雲に変化してきたよう、西方から厚みのある雲が押し寄せている。急いで昼食を済ませた頃、細かな冷たいものが顔に当たった。30分間の昼食タイムであった。

折立山に到着後の予定は決めていなかった。権現山に登るか、時間切れになるかあるいはそのまま平バス停にくだるか。しかし、天候の悪化に遭えばもう考慮の余地はない。本日は重装備ではなく、軽アイゼンに見合う装備だからである。このまま平バス停に直降することとした。

折立山北面の夏道は今まで以上に積雪

朽木学校行ききの江若バスに乗った。平辺りは道路が除雪されているだけで、その他は一面の積雪なのに対して、梅ノ木を過ぎる頃からは雪も疎らで、旧朽木村に到っては全く雪を見なかった。わずかに蛇谷ヶ峰の中腹以上が冠雪しているだけである。

朽木学校バス停では、17分待ちの乗り換えで安曇川駅に向かった。15時20分発の網子行き新快速から眺めた比良山系は、ヤケオ山辺りからずっと山頂は雪に覆われ、特に谷筋上部は深雪のようだ。

本日は今冬初めての雪を染しんだ半日だったが、折立山山頂の天候に騙されたのが少々残念だった。

(平成17年12月10日歩く)

△コースタイム▽
途中バス停(16分) 折立山南方尾根取付点(43分) ピーク564(3分) 鞍部(24分) 標高660(18分) 標高700(30分) 折立山山頂(7分) アラキ峠(32分) 平バス停

△地図・地形図▽

昭文社『比良山系』(2003年版)
2万5千=花背・大原

篠立、三国川から南谷左岸尾根登高

三国岳・烏帽子岳周遊

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

雨を心配しながらどこへ行くかと考
える。雨なら多志田谷から孫太尾根、降
らなければ三国川から三国岳・烏帽子岳
周遊へ。

何となく天気が持ちそうなので、篠立、
田村川へと21時51分、出発。

毎度のことだが暗闇の集落のなか、登
山口の長楽寺への入り口がわからず、アッ
チヘフラフラ、コッチヘフラフラしてよ
うやく見つけた。こんな道、本当に車が
通れるのかという狭い道を抜け、23時30
分長楽寺に到着。こんな山奥には考えら
れない立派なお寺で、かなり山緒ある雰
囲気を漂わせているが、小生は勉強不足
で寺のことはよくわからない。

篠立林道はやはり鎖が掛かっている。
鎖を外して車で入ることは可能なのだが、
この梅雨の時期、大雨になって落石等で
壊れなくなる恐れもあるので、お寺の駐
車場に無断で止めて仮眠する(住職さん
ゴメンナサイ)。

0時10分就寝、3時起床とするがなか
なかり起きられず、出発は3時37分になっ
た。暗闇のなか、ヘッドランプで歩き出
すが、寺の番犬が激しく吠える。途中、
樹林帯のなかで何かがポッと明るく光る。
最初、動物の目かなと思ったが、上の方
でも光っている。いくらお寺のそばでも
人魂ではないだろうか? どうやら螢のよ
うだ。この辺りは螢がけっこう有名だが

南谷左岸尾根のヤマアジサイ



夜明け前に光るとは知らなかった。数え
てみると、10個以上の光が点いたり消え
たりしている。さすが山の中、町のネオ
ンと違いなかなか高貴なものだ。もし、
今ここに絶世の美女が現れて「お兄さん、
寄ってかないか?」何て誘われたら果たし
て断る勇氣があるのだろうか?

3時54分、狗留孫山への登山口を右に
通り過ぎると、左手(南側)に展望が開

けて夜景が美しい。ガスがかかって黄金
大橋がオレンジ色にボーンと浮かび上がっ
ている。明るければこの真下に白石石灰
工場を見る。現在、操業を中止している
が、昔は良質の歯磨き粉を生産していた
ようである。この工場には「篠立の風穴」
と呼ばれる鍾乳洞があり、かなり巨大なも

のらしい。許可が無ければ入れないよう
で残念である。

次第に明けてきて4時21分、鳥が一斉
に鳴き出した。この時間帯が山の中が一
番騒がしくなる。4時23分、林道が二股
になり、左のゲートを越えて降りて行き、
三国川には4時31分到着。

さてこれからどう行
くか思案する。このま
ま三国川を上りつめて
烏帽子岳に登って、三
国岳から降りる場合、
もし雨が降って川が増
水したら帰れなくなる。
逆に三国岳に登って、
烏帽子岳からタカンス
谷を降りるとすれば、
もし雨が降った場合、
谷をやめて尾根通しで
狗留孫山から篠立へ降
りればよいのでこちら
に決定。

三国岳への登りのルー
トは、昔から南谷で篠
立鞍掛峠へ抜けるのが
一般的だったが、現在

では廃道になっている。難易度は低いが
やぶがもの凄いで、南谷左岸尾根から
三国岳最高点へ行くことにする。この尾
根は以前、秋に下山したことがあるが、
あまりのすばらしさに一度じっくりとツェ
ルトでも張って一晩過ごしたいと思っ
た所だ。鈴鹿の山にはこういう所がたく
さんあるのだが、現状では連休が取れな
いので、リタイアするまでは我慢しな
ければ……。

いきなりの急登で灌木につかまりなが
ら登る。樹林帯のなかで暗くてよくわか
らないが、ヒルさんがもうお出ましの上
うだ。とても相手にはおれない。早く
も390円で炭焼きの釜跡を見る。しば
らく植林帯が続いたが、5時36分640
円で二次林の雰囲気の良い尾根となる。
お気に入りの場所は、ここかも知れない
な? 秋になったらまた来よう。

740円でやせ尾根となり、280度
へ進むが、835円ですこいやぶとなる。
この辺り、三国岳・烏帽子岳・横根のや
ぶといえたいはシャクナゲである。
これがけっこうクセモノで、そこらじゅ
うを引っ掛けたら、御前進したりして
進むが、とうとう雨が降り出した。





山想尾根のヌタバ(池?)

今回、久しぶりに鉈すゐを使用した。本来は自然破壊につながるものでなるべく使いたくはないのだが、身動きできなくなっ
ては仕方がない。「鈴鹿の山神様、お許しを」。895㍎で何とかやぶを抜け出し、7時16分、三国岳最高点(911㍎)に到着。今日初めての食事としてオニギリを一個食べた。
このまま一人でいても何もすることがないのですぐに歩き出し、三国岳(894㍎)山頂も通過する。こうしてあらた



タカンス谷、上から二番目の滝

うで気持ち悪い。しばらくすると、斜面の両側が谷になり、尾根芯をくだるようになる。右手の谷に水流が現れる。その左右の谷がだんだん深くなり合流する所に炭焼き窯があり、炭があたり堆積している。高度は680㍎。そのまま谷に沿ってくだると665㍎にも左岸に窯跡、650㍎では右から谷が合流し8㍎位の最初の流が現れ、右岸を降りる。その後

めて最高点から山頂まで歩いてみると、けっこう雰囲気の良い道だと感じる。鳥帽子岳分岐から右に折れてくだった行くが、知らないうちにマーキングだらけ。まだ新しいマーキングだが数ヶ所に付けられていて、この山想尾根もずいぶんメジャーになったようだ。尾根の一本道に果たしてこれほど多くのマーキングが必要なのだろうか?

この山想尾根という名称は、名古屋で「山想山歩の集い」という山歩きのを主催されている、加藤規四夫氏が名付けられたと聞いている。規四夫氏とは、10年前前に2月の大雪のダイヤで一度お会いしたことがあるが、お年のせいかな今はあまり歩かれていないと伝え聞いている。

7時40分、展望のよい大岩に着いたがガスで何も見えない。7時57分ヌタバに到着。雰囲気のある水溜り、今日は池と呼んでも差し支えないかな? 御池岳では、このヌタバより貧相な池(上池・山東池・霧池・無池・小竜ノ池……)がたくさんある……。

アップダウンの少ない尾根をノンビリと1時間程行くと送電線の鉄塔にたどり

五ヶ所に窯跡があり、このタカンス谷がいかにか安定した谷かが理解できる。三国岳へ突き上げているオゾ谷などは木があまり無く、窯跡もほとんど無いので、雨が降れば土石流が起きるのではないかとビクビクしながら降りなくてはならない。

650㍎で右手からガレた大沢が合流し、555㍎でも同じ位の落差のある流が現れ、落とし口を左岸から右岸へ渡る。最初の流よりは、水量もあり立派である。545㍎、505㍎でも右手から谷が合流する。ここからの谷は広くなり、たおやかな感じになってきたのでひとまず安心。465㍎では初めて左手より谷が合流する。11時16分、435㍎で右手より三国岳から落ちてきたオゾ谷が合流し、これでタカンス谷は終わり、三国川北谷と名前が変わる。

ここまでで、窯跡は右岸に三基、左岸にも三基、最上部の真真中に一基と計七基あった。そのうち、住居跡が三ヶ所にあり、左岸560㍎と右岸475㍎では珍しく住居跡が二つずつあり、なかでも560㍎地点では並列に並んでいる。これはどういう事なのか? うーん、ヒョッ

着く。昔、ガスのなか、いきなりこの鉄塔が現れてビックリしたことがある。いつの間にかこんな鉄塔が地形図を見ても載っていない。こんな一本道の尾根で道に迷ったのか? (小生なら十分ありえる)、それともキツネに化かされたのかと思っただ。下山後、早速新しい地形図を買い求めたところ、ちゃんと載っていた。地形図は時々買い換える必要がある。

そういえば昔、鳥帽子岳へ登りかけた所で、地元(たぶん)の林業のおじいさんに道を尋ねられたことがあった。まさか地元のおじいさんに道を尋ねられるなんて、ビックリしたことを思い出した。あのおじいさんはまだ元気かな?

9時50分、鳥帽子岳最高点に到着。三角点(865・1㍎)には寄らず、雨も降るので尾根歩きで下山するか谷へ降りるか迷ったのだが、ここから狗留孫山へ抜ける尾根はつまらないし、雨もこぬか雨なので谷に決定。

西側斜面を覗くと、ガスでよくわからぬ。しかしこの辺りはどこから降りても必ずタカンス谷へ降りられるので心配はない、とは言っても、ガスった急斜面を降りるのは奈落の底へ落ちていくよ

とすると、几帳面な柚人さんで、寝室と作業小屋とを、きちんと分けて生活していたのかな?

そういえば、このあたりの谷の雰囲気はどこかに似ていると先程から思っていたのだが、ふと、青川の三鉈谷を思い出した。三鉈谷の下流部もこんな感じだったような……。

11時45分、南谷出合。今朝登った左岸尾根を見上げる。藤立林道に11時51分到着。ここから三国川下流部はまだ下降し
たことがないが、暇な時にでも歩いてみたい。なぜかって? だってこれからの長く苦しい林道歩きを思うと気が重いからだ。ヒョッとするとこの林道歩きが今回の最大の苦難かも知れない……。長楽寺に12時58分、無事帰郷、あく良かった!
(平成18年6月25日歩く)

▲参考タイム▼

- 長楽寺3・37―南谷出合4・41―三国岳
最高点7・16―鳥帽子岳分岐7・37―送
電線鉄塔9・00―鳥帽子岳最高点9・50
―タカンス谷取付9・58―オゾ谷合流点
11・16―南谷出合11・45―長楽寺12・58
△地形図V2万5千Ⅱ横立

『万葉集』歌枕紀行、音羽三山を歩く

音羽山・経ヶ塚山・熊ヶ岳

宇陀

木村 太郎

関西百名山の音羽山は、万葉集に倉橋山の名で詠まれている。多武峰談山神社の東方、吉野龍門山塊の北方にある。音羽山から南方には経ヶ塚山、その奥に熊ヶ岳が峰を連ねる。音羽三山の愛称で呼ばれる登山コースは、歴史好きの岳人に歩かれている。健脚者ならば龍門岳まで足をのばせるだろう。

倉橋の山を高みか夜隠りに
出で来る月の光乏しき

(巻三二一九〇)

平成14年3月18日、西上リレーの例会に参加し、音羽山を訪ねたい念願がかなった。西上さんは、奈良山城のオーソ

リティであり、山歩きの経験も私より長い。いままでいろいろ、奈良周辺の山の情報を教えている。

晩秋の一日、思い出の音羽三山に1人で足を運んだ。桜井駅南口から、奈良交通バスの談山神社行きに乗る。紅葉シーズンで平日なのに行楽客が多い。9時5分発に乗り切れない乗客のため臨時便が出た。ほとんどの乗客が談山神社を目指すなかで、私だけが下居バス停で降りた。

梯立の倉橋川の川のしづ音我が

刈りて笠にも編まぬ川のしづ音

(巻七二二八四)

街道に沿って寺川が流れるが、この清



音羽山山頂

流が万葉集に出てくる「はしたての倉橋川」である。「右たむのみね 左おとわみち」の道標に導かれ、左へ寺川に架かる橋を渡る。音羽観音まで17丁の標を立てた辻堂から、南音羽集落への舗装路を上がる。

音羽観音の参道には、天保弘化の時代に信者が寄進した灯籠式の町石17基が並んでいる。集落が尽きる辺りに参拝者用

の駐車場があり、かたわらに「音羽山十七夜六丁」の町石が立つ。毎月17日が音羽観音の御縁日なので、十七夜をお参りする道という意味なのであろう。

すぐ二股の道になり、右は百市へ抜ける林道、左は音羽観音への参道で車止めがある。やがて舗装が終わり、山道は10丁の蔵堂、15丁の無常橋と続き、17丁から音羽観音への石段になる。途中に百度石を置く広場があり、生田蝶介の歌碑が目に入った。

万葉集を代表する柿本人麿が妻を葬った時、「大鳥の羽扇の山に我が恋ふる妹はいます(以下略)」と詠んだ。万葉集の「羽扇の山」は、この音羽山であると考えた歌人生田蝶介を記念して立てられた歌碑である。

石段を登り切ると音羽観音善法寺の本堂と鐘楼がある。若い庵主さんと尼さんが庭の手入れをしている。天然記念物のお薬付き銀杏の大木を見上げると、鮮やかな黄葉を光らせている。庭に落ちた珍

しい薬付きの銀杏の実を、尼さんに見せてもなかった。

銀杏の木の下で白木蓮の木も黄葉していたが、楓の木々はまだ紅葉していない。

庭の片隅には、季節を知らせる磯菊が育てられている。昔はユースホステルを経営していたとか、創建千二百年の古刹という話を尼さんから聞いて善法寺を辞した。

滝修行場の横から山道に入り直し、小沢に沿った谷間の道を登る。倒木が目立ち、沢道は少し荒れている。山腹にかかると歩きやすくなり、尾根にのった道がいったんくんだり、登り返すと音羽山(852丁)に着いた。灌木に囲まれて展望の無い頂である。

古事記下巻の仁徳の章に、女鳥王と速総別王との悲恋が記されている。仁徳の弟の速総別王は、天皇の命令に背き、仁徳の思い人である女鳥王と恋仲になる。姉の八田若郎女が幸福でない姿を見て、仁徳より速総別王と一緒にいたいという女鳥王の願いで、2人は結ばれたのである。

雲雀は天に翔る

高行くや速総別ささき捕らさね

(古事記歌謡一六八)

空を飛ぶ隼に託し、2人の未来を夢見て女鳥王は歌うが、天皇は裏切りを許さず、軍を集めて2人を殺そうとする。追





経ヶ塚山山頂

手から逃れ、2人は倉橋山へ逃避した。倉橋山への険しい山道を2人して登った時の速絶別王の歌が残されている。

梯立の倉橋山は険しけど
妹と登れば険しくもあらず

(古事記歌謡一七〇)

梯子を立てたような倉橋山でも、妻と2人で登れば険しいと思わない。速絶別王の女鳥王への愛情が素直に歌われてい



熊ヶ岳山頂

ように立っている。
神武東征神話によれば、天皇は宇陀の高倉(高見)山の嶺に登り、国の中の模様を眺望した。国見の丘には勇猛な八十梟師がいた。女坂には女軍を置き男坂には男軍が置かれ、天皇の軍を阻んでいたという。勇猛な八十梟師の根拠地、国見の丘が熊ヶ岳とされ、女坂が針道と言いつた。

る。

音羽山の頂を少し離れた地点に3等三角点を見つめる。縦走路に入り直し、水平道に近い尾根道が急登に転じた経ヶ塚山の頂上直下で、東方へ下りる分岐を見送った。大字陀の本郷を抜けて、かざろひの丘万葉公園方面への下山道らしい。

古事記では、倉橋山からさらに逃れた速絶別王と女鳥王は、宇陀の蘇邇で天皇の軍に殺されたという。この分岐路をくだり、伊勢の国に逃亡しようとした2人は、宇陀の曾爾高原の近くで命を絶たれたのかも知れない。

経ヶ塚山(889m)は、木の間から大字陀の町並が少し覗けるだけで展望は無い。ほとんど全山、スギとヒノキの植林帯が占める音羽三山の中で、この経ヶ塚山の頂上周辺だけが気持ちよい自然林が残っている。人工造林はそれなりに人々の暮らしを潤すが、自然林は人々の心に慰めを与えてくれる。

多武峰の鬼門に当たり、経文が埋められたのが経ヶ塚山の由来である。経文を納めた石塔は一部分が割れている。音羽三山最高峰の熊ヶ岳へ向かう。急峻な下り道になり、前方に三角錐の熊ヶ岳が見える。

いま歩いてきた熊ヶ岳は、大和朝廷側から見た場合、外敵の先住民に対する呼びかた熊襲からきているのではなからうか。今の熊ヶ岳に熊襲がいても不思議でない、クマザサに覆われたやぶ山になっている。

日本書紀に、敵軍の陣は「すべて要害の地を占め」と記述がある。男坂といわれる栗原の半坂も、女坂といわれる針道も、都祁山の道や伊勢参宮街道から大和国中に入る道筋にあった。そのため熊ヶ岳の先住民である八十梟師を滅ぼさねば大和政権の国造りができなかつたことも事実であつたらう。

(巻二十一(一八五五))

新しく作る聖道が清らかなように、恋人の身の上話を聞くことも清々しく心地よい。柿本人麻呂が詠んだ聖道(針道)の歌意で、聖道は肯定的にたとえられている。聖道は希望の道であり、宮都建設に付随した道作りでもあつたのだ。

針道の道標に従い大峠からくだればすぐに林道に合う。暗い植林の道に溪流が添う。針道の集落に入る直前の右上手に、

えだす。その左奥に吉野の山々、さらに

東方にかけて台高の山々が姿を現した。鞍部底までが深く、やせ尾根で植林されていぬ地点なので展望が開けたのだ。熊ヶ岳の登り返しでクマザサに覆われたし、ササをかき分けながらの登高になる。登り着いた熊ヶ岳(904m)の頂きは狭い。

静かな山頂で突然、ササむらがざわざわとそよいだ。その音に振り向いたが誰もいない。恐怖心にとらわれていたのかもしれないが、その時、誰もいないはずの山に、何かがいるような気がしたのだ。

熊ヶ岳からの下りもクマザサが茂り、歩き難さは変わらぬ。最後の登りで、近鉄の無線反射板が立つ859mの4等三角点ピークに出た。大峠への下りになり、やっとササから解放された。少しの間、前方に龍門山地が右に多武峰山地が見える。西遠くに望めるのは金剛・葛城の山並であらう。

南は三津峠・龍門岳、東は宮奥、西は針道の道標が大峠に立つ。旅人を見守り続けてきた石仏の小祠と、いわくありげな女坂伝承地の石碑が、古道の証明の山並であらう。

針道の集落に入ると、多武峰御破裂山の特徵ある鶏冠形が見え出す。針道公民館前の広々とした台地は、立ち聞きの芝跡である。古来より、御破裂山の鳴動異変を監視した場所という話が伝わる。

不動滝の延命橋のそばには、御破裂山鳴動の時に割れたという、割れ不動が祭られている。談山神社に通じる多武峰街道に出て、不動滝バス停へ廻る。

関西の日光、談山神社まで歩けば音羽三山の山並を見ることが出来る。多武峰の錦織に染まりたい心を断ち切り、桜井駅へ帰るバスを待った。

(平成17年11月18日歩く)

Aコースタイム
桜井駅南口(バス15分)下居バス停(20分)南音羽駐車場(30分)音羽観音(45分)音羽山(25分)経ヶ塚山(35分)熊ヶ岳(30分)大峠(25分)針道(20分)不動滝バス停(バス20分)桜井駅南口
△地形図V2万5千I欽傍山・古市場

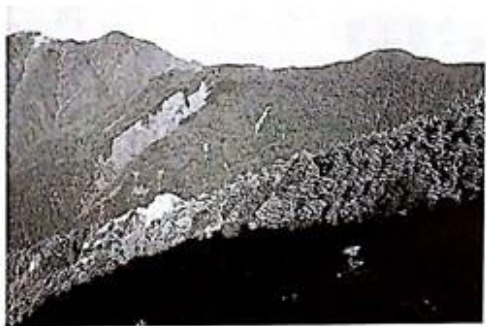
新ハイ関西91号

標高△△91mの山

越中沢岳 (2591m) 北アルプス
 光岳 (2591m) 南アルプス
 恵那山 (2191m) 東濃
 緋谷ノ高 (1291m) 台高山脈

越中沢岳

2003年の夏山は、登りの労力の少ない所という考えでコースを設定した。その年の7月は版画集『光る山』刊行直前の雑務と記念の個展を京都と東京で開いたことによる疲労の蓄積が大きかった。それで乗り物を利用して高い山にさっと上がれば徐々に元気が回復するだろうと考え、室堂から太郎兵衛平へのコースにした。以前より五色ヶ原は行きたい所だったので、テントで2泊してのんびりと静養しようと考えた。



光岳小屋付近より池口岳(左)を望む(左下に光石)

えなかった出会いのあと、次のテント場のスゴ乗越までの行程途中で越える大きな山が越中沢岳である。

おおらかな山容の越中沢岳に登り着いて黒部側を見渡すと、大きな山稜が派生している。木挽山の山塊だ。ゆったりとしていて、またひっそりとしている風情がとても魅力的だった。樹林が所どころ切れてササ原らしき明るい緑色の平坦な所が遠望できた。テントを張って一夜を明かしたい衝動にかられて、それらのササ原を熱く見続けた。

▲コースタイム (平成15年8月1日歩く)
 五色ヶ原(4時間) 越中沢岳(3時間)

光岳テント場(8時間) 光岳、加加森山、池口岳經由ゼラナギ平
 ▲地形図 V 2万5千 II 光岳・池口岳

恵那山

山の会のメンバー3人で出かけた。前夜に京都を出発して黒井沢林道の登山口に車を止め、テントを張った。当日は雨が降り出して、途中の野熊の池が幽遠な別天地に見え、深い針葉樹林の道が一層神秘的な雰囲気を感じさせていた。

山頂からの南アルプスの大展望に接することはできなかったが、名実共に山滴る夏山山行を味わうことができた。なお、最高点は三角点の少し北寄りにある。(平成元年7月2日歩く)

▲コースタイム
 黒井沢林道登山口(2時間) 野熊の池(2時間30分) 恵那山(3時間30分) 黒井沢林道登山口
 ▲地形図 V 2万5千 II 中津川・美濃焼山

緋谷ノ高

スゴ乗越テント場
 ▲地図 V 昭文社 II 『銀・立山』

光岳には二度登っている。1999年夏に聖平から光岳まで山小屋泊まりで縦走した時に、光小屋に2泊して南アルプス最南端峰の雰囲気を楽しんだ。計画ではその西の加加森山を往復するつもりだったが、単独の私は途中の地形に不安を覚えて断念したのだった。

そして10年後の夏に、高橋さんと岩井さんと3人で易老岳から池口岳へテント泊の縦走をした。下山口に車を置いてタクシーで易老岳へ行った。

3日間共よい天気、特に早朝に光岳から眺めた朝霧の上に浮かんだ青い山脈は、最も南アルプス的な奥深さがあった。

そして翌日は10年間宿題となっていた加加森山への静かで幽遠な道を進み、5年前に登った時とは登山道の様相が変貌してしまっていた池口岳へと縦走した。

▲コースタイム (平成13年8月13日歩く)

光岳

この儼めしい名前の山には、以前よりその名の響きから惹かれるものがあった。この山と、宮川貯水池を隔てて北にある古ヶ丸山とをセットして、それぞれ日帰り登山する2日間の山行を須藤さんが計画され、緋谷ノ高に登る機会がめぐってきた。

山の会5人で前日の夜より出かけた。奥香肌温泉の前で仮眠をして、翌朝宮川貯水池の新大杉橋を渡り、父ヶ谷の林道に入る。現在は途中にゲートがあって車は入れないが、当時は標高8500付近の林道分岐まで、車が入れた。

その分岐から緋谷ノ高の西尾根の末端に取り付いた。密度の濃い雑木林の尾根だった。その濃い密度の尾根に比べて、山頂だけがはっきりと小さな広場になっているのが印象的だった。展望は全く無かったが、達成感のある山頂だった。

▲コースタイム (平成7年7月15日歩く)
 父ヶ谷林道、標高8500付近車止(2時間30分) 緋谷ノ高(1時間40分) 車止
 ▲地形図 V 2万5千 II 大杉峡谷・宮川貯水池

西尾根ルートから日帰りで登った二百名山

おいずる 笈ヶ岳 たけ

山田明男

両白

岐阜・富山・石川の三県境にある二百名山の笈ヶ岳（1841m）へは一般登山道は無く、残雪期に登る山として有名である。無積雪期に日帰り可能なルートとして、雄谷から入って西尾根経由のルートがあるといわれた。このルートは秋に入るのがよいので、昨年10月1日に6名で登ってきた。

笈ヶ岳へは一昨年の6月14日、冬瓜山からやぶをかき分けて日帰りしたが、15時間半かかった。昨年の4月30日にも同じルートで雪の上を歩いて行って来たが、11時間40分かかった。

西尾根ルートは、朝5時発で12時まで

いるので、12時間以上はかかる厳しい道に違いない。

9月30日夜に自宅を出発、白山市の道の駅「瀬女」にて仮眠した。

10月1日、4時に起きて、中宮温泉スキー場の奥、中宮発電所の取水口に繋がる林道を車で奥まで入った。5月に林道入口までは来たのだが、ルートの詳細はインターネットでの資料のみで本当のところは全くわからないに等しい。車止めには三台あり、既に3グループが入っている。歩き始めは5時20分になっていてライト無しでも歩けた。車止めの先は幅1.5mほどのぼろ水平道で、脇にはロープも

笈ヶ岳山頂（後方は白山）（2005.4.30撮影）



取り付けてある。残雪時に使用するようだが、この道は取水口点検のためで、登山用ではない。

1時間足らずで取水口の堰堤に到着して休む。一般者立入禁止とあったが、登山者は先へ進んでもよいようで、堰堤の北から登山ルートが始まる。

普通の登山道と変わらない感じだが、入る人は少ないだろう。清水谷にあった



ワサビ田までは人が歩いたルートである。登って降りて、雄谷の中を少し歩く。先行者の足跡をたどって行くが、500m先で足跡が消え、その先200mから本格的なゴルジュ帯の雰囲気となり、この先に道は無いと判断して道を探すために少し戻った。

谷が雄谷に合流する部分にあるようだ。4月28日に入った人からの情報では、今年は雪が多くて水晶谷へ降りられず引き返し、12時間歩いたそうだ。今日は水が少なく石飛びで水晶谷を渡った。

水晶谷を越えたとまたロープをたどって急な登りをこなし、また水平に歩く感じで自然と清水谷に入ってしまった。「ブナの木平・トチの木平」とでも呼びたい感じで、多くのブナ・トチが見られ、実も多く落ちている。トチの実が栗馒头そっくり、拾った実はデポして帰りに回収しよう。

歩き始めてから、4時間でわさび小屋が見えたので休憩する。昔あったワサビ田は洪水で流されたようである。小屋にはワサビ田整備のブルドーザーが収納されているようだが、放置状態である。大きい小屋には鍵が掛かって入れないが、小さいほうにはテントが置かれて使用できると聞いている。テント持参なら小屋前の広場で張ることもできる。

小屋から西尾根へ繋がる支尾根を登って行く。標高1700m付近には大岩があり、シリタカ山からの尾根の繋がる場所にも同じ雰囲気の大岩がある。冬瓜山

新冬号

パンフレット完成

冬の増刊号！
暖かい南の島から北海道まで、豊富な
ツアー設定。初心者の方からの雪山基
礎講座も開催。海外ツアーも満載！

お電話
おはがき
FAX・HP
にて！

**送料・本体無料
ご請求ください！**

弊社カタログ
ラインナップ



総合カタログ



山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然
観察の旅500コース以上を掲載し
た総合カタログ。これから登山やハ
イクキングを始める方、初心者の方の
ためのための、山歩き教室カタログ。
それ以外にも、世界遺産やパードウ
オッチングのツアーもあります！
お気軽にお問い合わせください。

山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 邦チド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amuse@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377



の頂上の岩場も同じ地質であろう。
小屋前から1時間半ほどで大岩。先行
者5名がくたてきてきてすれ違った。専門
ガイドと関東の4名で、5時に小屋を出
たそう、帰りに小屋で1泊されるとか。
大岩を右から捲いて最後の急登をこなす
西尾根はけっこうやぶっぽくなっている
が、最後の登りはササ分けになった。踏
み跡はわかるのでササを分けて行けば問



シリタカ山より笈ヶ岳を望む (2005.4.30撮影)

題ない。
山頂一つ手前のピークで、下山してく
る5名の姿を確認した。男性1人と女性
で、我々と同じSHC(新ハイキングクラ
ブ)の川崎支部の人達であった。女性1
人は寝ているようで山頂手前30分の所
にリネックをデポしていた。この人達は
小屋泊で登ってそのまま下山された。
12時5分前に山頂到着。後ろは少し遅
れ、12時5分に6人全員が山頂に立った。
見晴らしはガスで無い、雨が降ってき
うで早々に食事を済ませ、記念写真を写
して12時半には下山を開始した。
くだり始めてすぐ人の声が聞こえ、5
人が登ってきた。先に小屋へ来ていたそ
うで、我々が抜いたグループだった。メ
ンバーを見てびっくりした。先頭は地元
の案内人だが、後4人は三重県の顔見知
りであった。O女史には今回同行を打診
していたが仕事で同行されなかった。ど
うやら休めたらしい。今夜は小屋泊まり
(テント)だそう。今年4月28日に入っ
ていたのはこの人達であった。
下りは登りよりもずいぶん速いが、雨
が降り出した。途中で本降りになってき
たのでカッパを着けたが、小屋前までに

はやんでくれた。
デポしたトチの実は回収してよかった。
長い下りで時間もかかり疲れたが、山
頂まで行けた喜びは大きい。17時25分に
堰堤に戻り、ライトの必要も無かった。
18時に林道途中でライトを点け、駐車地
へ18時10分に戻った。出発から12時間50
分が経過していた。
急いで民宿へ向かい、18時半には到着
した。
この西尾根ルートは、今後使用される
ことだろう、もっと道が整備されるとよ
いと思う。ワサビ田の小屋前でテント泊
すれば楽に行けるので、入山する人も増
えるだろう。残雪期は雪崩と川の増水で
まず入れない。
気温が高いと距離が長くてきついので、
やはり秋に登るのが最高である。
(平成17年10月1日歩く)

△参考タイム▽
林道車止5・20 | 取水口堰堤6・10 | わ
さび小屋10・00 | 大岩11・30 | 笈ヶ岳12・
00 (昼食) 12・30 | 堰堤17・25 | 車止18・
10
△地形図▽2万5千市原・中宮温泉

いりおもてじま

西表島を東西に横断

金谷 昭

先島諸島

最近、冬ともなれば北の雪山登山は億劫となり、南の温暖な地方の山に目が向くようになってきた。今冬は幸いにして沖縄県石垣島と西表島を訪れ、一部好事家に知られている西表島横断に参加する機会を得た。

西表島横断は、熱帯と亜熱帯の原生林に覆われている島の西側、浦内川の河口から川に沿って島中央部を逆上り、太平洋と南シナ海の分水嶺を越えて島の東側、仲間川源流から河口の大富に至る、大自らのジャングル・トレッキングである。

石垣島で沖縄県最高峰の於茂岳(5263)登山後、西表島に渡った。同島

横断とさらに最高峰古見岳(△4697)登山のため、宿で西表島の登山事情に詳しく、最近まで登山ガイドをされていた関係者に詳しくお聞きした。

古見岳には登山道は無く地形が複雑なため、また横断も過去に遭難事故が多く、共にガイドレス登山は断念すべきとの強い助言があった。当初は暗に我々に両方共諷めさせる意図を感じたものであったが、今回は古見岳登山は断念し、横断一本に絞ることとした。そして安全を考慮してガイド料は保険代と思い、ガイドを依頼することにし、何としても横断実施を強く希望したところ、我々の熱意に対してむしろ好意的となり、注意事項(下記)

カンビレーの滝



と共に最後には強いお勧めの言葉をいただいた。

①横断は過去遭難事故が大変多く、そのつど島関係者が仕事を休んで時間をかけて捜索に当たっている。何しろ未踏のジャングルなので未だ遺体が発見できず、現在も捜索を継続しているケースがある。

②横断コースについては、島関係者が道

大変滑りやすく転落死亡事故が多い。

③過去に傷害例はあるが、ハブはこの時期と昼間は90%心配はない。しかし注意は怠らないこと。

④ヤマビルは多い。塩を頻りに靴周りに付ける。

⑤中間部で分岐する古見コースは、距離は短かいがルート不明で絶対に入らないこと。

⑥支流の板敷川の徒渉が特に問題で流量多ければ引き返す。ロープは腐りやすく当てにしない。ここでの流失事故が最も多く、また徒渉後は道が極端に悪くなる。

⑦浦内川の定期便始発9時00分のポートでは日没前までの横断はできない。案内書にある全行程の標準8時間はとて

も無理で、少なくとも10時間を要し、定期便前にチャーター便にて早発すること。

⑧分水嶺を越え林道に出たからが大変長く、気の緩みで熱中症で倒れる者が多い。できるだけ軽装で行くこと。

夕食後、お願いしたガイド氏が事前説明に来られ、再度横断の注意があった。板敷川の到着(全行程の1/4)が昼12時半を経過した場合、また流量が多く徒渉不可能な場合は引き返す。板敷川出合から秘境マヤグスクの滝の往復は時間的に無理で中止するとの了解を求められた。それらを了承し、併せて横断届けを森林管理署と警察の駐在所に提出した。

④携帯電話は横断中は圏外で、分水嶺を越えた林道で初めて一社(au)のみ通信可能となる。

⑤歩道および徒渉は、苔蒸した岩や土が

比叡山1000年の道を歩く

【付】「東山」の山なみ

竹内康之著 A5判並製(十一月下旬刊)
比叡山の諸堂へと続く古道や峠道は、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円
吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道「奥駈」を著者自らが探査して、靡・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

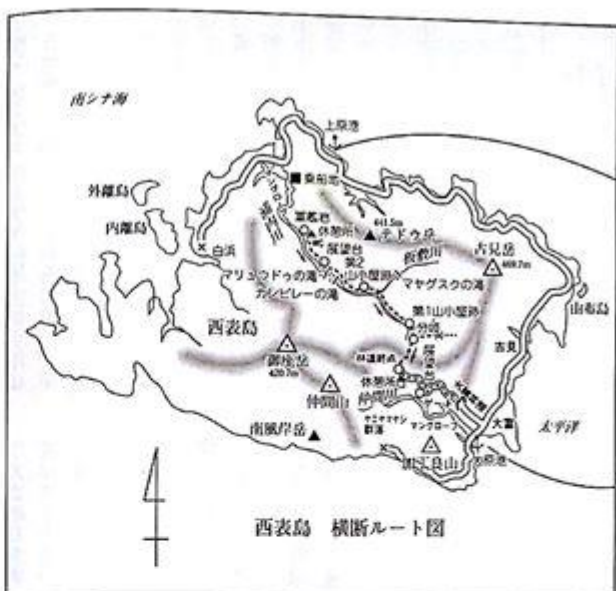
http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

近刊

早朝、ガイド氏の車で浦内川に向かう。道路並木のタイワンレンギョウの植込みをよく見ると、イリオモテヤマネコの恰好をした形に刈り込まれている。時々イリオモテヤマネコの交通事故注意の看板の絵を見るが、共にガイド氏が考案・制



作とのことであった。浦内川の船着場に着き、定期便に先立ちチャーター便にて上流へ向かった。西表島では、本州の厳冬期に当たる1月は優勢な大陸高気圧の裾野に入っ低気圧部となり、梅雨の走りて天候は良く

ない。当日も曇天時々小雨、湿度は高かったが熱中症になるほどの暑さはなく、結果的には横断日和であった。昨晚、横断後に泊まる宿から、もう一泊の報告があったが、すでに出発済みであった。入江からマングローブの森のなかを逆上りながら、遊覧ボートの女性船長から風景や動植物の説明を聞く。マングローブは一種類の樹木でなく、亜熱帯の満潮時に海水の入る河口塩沼地に生育し、こ

ヒルギを始めとする数種の常緑樹群の総称のこと。昼なお暗いジャングルは、今にもハブやイリオモテヤマネコが出てきそうな雰囲気であった。30分程で、形が軍艦に似ている大きな軍艦岩に到着した。

下船後、いよいよ浦内川右岸の歩道を行く。いきなりうっそうたるジャングルに入って毒蛇が気になる。この島には毒蛇は三種類棲息するが、問題のハブ(サキシマハブ)は沖繩に棲息するハブと違って毒性は弱く神経毒ではない。血清よりも咬まれた部分から速やかに毒を吸い出すことが第一。夜行性で昼間は一応安心だが、注意は肝要とのことであった。マリウドウの滝までは一般観光客でも行けるように歩道が整備されている。しかし、多湿のため大変に滑りやすく全神経を足元に集中してのトレッキングである。ガイド氏の歩調は速かったが、自然観察指導員だけに時々歩行を止めて出てくる動植物の懇切な説明があった。我々に疲労と焦りを感じさせないようにと、スリッパ事故にも配慮したものであった。常夏の島だけに草花は絶えることなく、この時期にエゴノキ・ツワブキの花等が

最後まで楽しませてくれた。

やがてマリウドウの滝の高台にある展望台に出て、正面に滝を見る。落差は5〜6m、滝壺の水深10m位、幅の広い滝であった。例年より水量が多く渾水期の約三倍幅との説明で、先の板敷川の徒渉が気にかかる。滝を右下に見ながらさらに行くと東屋の休憩所が出て来て、カンピレーの滝が現れた。この滝のCANは神、ピレーは坐るの意の古い方言で、「神が集い坐る」滝、古来から敬い奉られてきた聖地である。川底の地形が板状節理による川幅いっぱい背の低い何段かの滝群で、我々はその脇の一部水の流れる板状露岩の上をガイド氏の踏み跡をたどって水に入っていく。全く乾いている岩か、むしろ水に浸している岩のほう



マリウドウの滝遠望

この頃から小雨が降り出したが密林のため、そんなに雨はかからない。また気温もさほど上昇せず熱中症の心配はなく歩行は快調に捗るが、いよいよヤマビルのお出ましとなった。多湿のため自動カメラは残念ながら操作不能となってしまった。めずらしい板根と呼ばれる波板状の根が四方にびていて、サキシマスオウ・ヤエヤマヤシ・タイワンウマタバ・ヒカゲハゴ・タカマラビ、竹はホウライダケ等の亜熱帯植物に埋め尽くされたジャングルは本州で見られないもので、樹木観察にゆっくりと時間をかけた所である。

いよいよ問題の板敷川の徒渉となった。歩道の途中からいったん浦内川本流に降り、右岸の流れの脇を行き、支流の板敷川との合流地点の徒渉地に出た。流失し

たらしくロープは無い。文字通りの板石を敷き並べた川は多量の流水が水しぶきを立て、目がくらむようであったが、ガイド氏によればこれでも水量は少ないと言う。足元のみならず先の方もよく見て思い切りよく水の中を行くように指示があった。所どころにある鉄分の多い土質の化学変化による岩の落とし穴にも注意を払わねばならない。

問題の徒渉点を何とか無事通過し、ガイド氏はここまでの我々の歩行速度や体力・経験を見て、横断する能力に合格点を与えてくれたようである。場合によっては引き返す羽目になっていたであろう。この徒渉点ではロープをショートカットしたらしい。先行パーティを追い越したらしく、後の昼食時に彼らは追いついて来た。

その後、何回かの支流の徒渉があり、徒渉した対岸に踏み跡が同じようにあるものの、必ずしも順路でないようだ。ここでも徒渉点を少し逆上った地点であり、大変滑りやすい崖をよじ登り、そしてへつりとなった。麻ロープが張られているが、高温高湿で腐りやすく信頼がおけない。ガイド氏の指示通りロープを使



内浦川と板敷川合流地点付近の徒渉

わずに何とか最大の難関を突破できた。ここからさらに悪路となった。平坦部は少なく滑りやすい岩混じりの道や崖のへつりの連続となり、緊張のため時間がかかるようになったが、ガイド氏は時々立ち止まって出会う動植物の説明してくれる。我々が焦らないようとの心配り

である。展望台を兼ねる風の通る小平坦地に着き昼食となった。ガイド氏の奥さん手作りの握り飯をいただいていると、後方から話し声が聞こえ、先行パーティが追いついた。某旅行代理店による若いガイドのいる5人パーティであった。彼らは横断後の長い林道歩きを避け、仲間川をボートをチャーターしてくだり、我々と同じ旅館に泊まる予定だとか。我々はボート便乗には始めから関心無く、あくまで林道歩きを考えていた。

昼食後、広場といえる程もない展望台を兼ねた中間広場にて少休憩し、いったん尾根が上がった。次に出てきた支流の徒渉は、降雨時には急に水嵩が増す板敷川に次ぐ曲者で遭難が多いとのことであった。徒渉後さらに行くくと、第一山小屋跡の小広場が出てきた。地図では古見分岐近しと思えたが、ここからもけっこう距離があった。何回かの支流を徒渉して、登り着いた小尾根の稜線でやっと古見分岐が出てきた。

古見岳へのルートは、尾根の右山腹を捲いてあまり明確でない道が登っている。進入注意の看板は無くなっていてオーブ

ンであった。大富へのルートは尾根稜線に付けられた今までにない良い道で、ほとしたのも東の間、尾根から川に降り、徒渉後は川幅の狭くなった左岸をへつるようになり、相変らず滑りやすい悪路に変わりなかった。

三回の徒渉後は源流の様相を呈してきた右岸に行く。ガイド氏が指差す水の淀んだ所にはいつも大鰻が顔を出すとの話だが残念ながら見られなかった。

源流近くになって上部に山の稜線が望めたので分水嶺かと問うとまだまだとの返事である。古見分岐からそんなに急登降はなくゆるい登りとなった。古見分岐から約1時間40分で支流の源流点を右に見て湿地帯を過ぎ、滑りやすい坂を登り切ると、太平洋と東シナ海を分ける分水嶺(標高3000m)に着いた。

分水嶺から10分も歩くとも空が急に明るくなり、暗いジャングルを抜けて大富林道の終点に下り立った。後は時間がかかって夜になって間違うことのない気楽な林道歩き、一同はとすると共に達成感がわいてきた。

大富林道は西表島の東西を結ぶために建設を開始したが、イリオモテヤマネコ

の発見などあり、自然保護の観点から途中で中止された。幅3m以上もあり、森林管理署の管理下で整備されていて一般車は進入禁止となっている。

終点からすぐに東屋の休憩所があり、休憩を兼ねて足元に付いたヤマビル除去に当たった。スポンジの掘をガムテープで縛り石鹸と塩を塗り込んでいたので、スパッツの内外と靴に数匹のヒルがいたものの幸い無傷であった。ここで初めて携帯の通話が可能となり、ガイド氏は奥さんに迎えの車を要請した。

時々小雨の降る林道でも、ガイド氏の懇切な動植物の説明を聞く。自然観察指導員だけに大変おもしろく長い林道歩きも苦にならない。

植物ではバイナップルに似ているアダン、これも食用植物のパッションフルーツ。里芋を大きくしたようなクワズイモは、有毒だが鑑賞用植物として本州では高価で取り引きされているとか。突然、至近距離の木枝に何か果実がぶら下がっていたが、何と大蟻螂で我々に気づいて1mほど近くもある羽を広げて近くの枝に飛び移った。普通の蟻螂と違って超音波ではなく有視界で飛行し、耳が小さく猫の

ような頭で大変可愛らしい。首回りが黄色なので雌との話、一同珍獣に出会えて大喜びである。

時々蝶も飛び交う。その中でもオオゴマダラは鳥蝶となっている日本最大の蝶で、有毒のホウライカガミを餌とするため天敵の野鳥も手を出さず、水の中のサナギは黄金色であった。その他この時期に本州で見られない多くの蝶に出会った。

珍しい動植物や昆虫を観察しているうちに展望台が出てきた。ウブンドルのヤエヤマヤシ群落の遠望所となっている。

さらに行く仲間川展望台である。西表島の亜熱帯マングローブの大樹海の風景の宣伝写真が撮られる所であるが、先のジャングルの湿度によるカメラ故障のため撮影できなかった。ここで仲間川の船着場への歩道が分かれているが、興味津々の林道歩きに我々はボート便乗には全く関心なく、後続パーティを待つことなく先を行く。

やがて17時前に林道ゲートに鎖が掛かる浄水場が出てきて、ようやく横断トレッキングにピリオドをうった。昨夜の助言通り全行程に約10時間を要した。10分も

すると奥さんの迎えの車が来て、温かいコーヒーや果物のサービスを受け、大富の宿へ送っていただいた。

宿に着くと宿の女将はやはり我々の横断が気になっていたらしく、顔には安堵の微笑みがあり、同行の華奢な体躯の女性の快挙に驚きの表情をうかべている。

古見岳登山の断念はあったが、ガイド付きとはいえ本州では体験できないジャングル・トレッキング後の充実感と達成感とは異なる満足を得た。

(平成18年1月21日歩く)

▲参考タイム▼

- 浦内川船着場8・25(船) 軍艦岩8・55
- 浦内川展望台9・25 | マリュウドウの滝10・15 | 第二山小屋跡11・15 | 板敷川徒渉11・45 | 展望台12・55(昼食) 13・25 | 中間広場13・40 | 第一山小屋跡14・12 | 古見分岐14・25 | 分水嶺16・00 | 大富林道終点休憩所16・10(休憩) 16・30 | 林道ゲート浄水場17・55(車) 大富18・

△地形図▼

2万5千 | 船浦・美原・西表大原

年末に高知の山旅

・ 蟠蛇森・妹背山

(付…白旗山と三上山)

中島 仁志

四国

年末は高知の山を訪れることにし、例によって「ムーンライトながら91」で西に向かった。なお、往路・復路の途中の山は白旗山・三上山とした。

白旗山(440呎)

初日の白旗山は、形に特徴のある山でも特に展望に優れた山でもないが、歴史的には、南北朝時代に大きな役割を果たしている。後醍醐天皇を支持して鎌倉倒幕に活躍した赤松則村(円心)が、建武政治への不満から足利方に組し、尊氏が九州から東進したときに新田義貞の率いる官軍が西に進むのをこの白旗城で止め、これが尊氏に京都への道を閉めている。

私は則村はこの時代を代表する人物の一人と思っており、その意味で機あれば白旗山を訪れたいと思っていた。

大垣から姫路・相生と乗り継ぎ上郡下車、タクシーで赤松集落の細野登山口から往復した。沢に沿った杉林下の道から尾根上の乗越白旗山分岐に出れば落葉樹の道で、明るく気持ちがいい。登山口から1時間半弱で本丸跡・1等三角点のある広い山頂。周囲は常葉樹で遠望は得にくい。雰囲気は非常によい。

下山時にピークの檜丸跡に寄り道する。深緑の常葉樹の白旗山本峰を眺め、千種川に沿う赤松集落が見下ろせた。登山口からは河野口円心駅へ。宝林寺にあ

吾桑駅付近から望む蟠蛇森



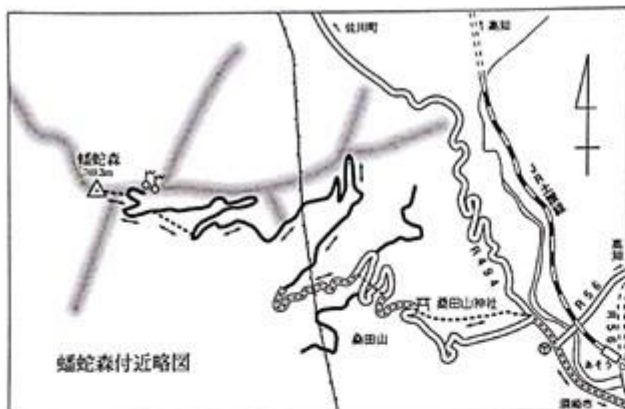
る赤松氏三代の木像を見て、列車で上郡に戻る。あとは岡山・坂出と乗り継ぐ。阿波池田駅からの列車は単車両、トイレは列車待ちの駅で足す。高知では駅近いホテルに飛び込んだ。

蟠蛇森(769呎)

蟠蛇森は須崎湾の北に悠然と海を見下ろすように立つ山。幸い晴天、早朝の列

車で土佐湾を廻り西に進むが、小山が多い。深田久弥さんの「日本は山国」の言葉を思い出す。

8時半に着いた無人駅の吾桑で出迎えてくれたのは数匹の猫、寒さか老いからかおとなしい。地図を片手にこれから登



る山を見上げ、とりあえず国道56号線に出で右折する。その先で吾桑の町に出て、酒屋で地酒を仕入れながら山の情報も仕入れる。

町はずれの桑田山方面の車道を見送ると、すぐに蟠蛇森登山コース。道標に従って整備された登山道をゆるく登ること15分ほどで、桑田山神社の駐車場を通過して車道に合流する。

このあたりから桑田山集落、標高1500、400呎の斜面にあり、開けた南面はみかん畑。生活車道は集落内をうねりながら通り、登路は所どころ近道があり、古ぼけた道標がある。適当にそれを選んだり車道をたどったりで、途中に「イノシシのワナ多数、注意」の立て看板などを見る。地図上578呎地点の右折の先で左に近道の道標があり、杉林下を適度に高度を上げる。再度車道に出ればそこは山の上部。少しうねり気味にたどると、「蟠蛇ヶ森公園」の立て札で車道は右に折れる。左折して公園に入り、数日前に降った雪を適当に踏んでゆるく登れば、「蟠蛇ヶ森山頂」の立て札と展望のある山頂の一角で、南に須崎から太平洋が大きく広がる。ひと息ついて、ま

ずは三角点の確認、展望台から西に少し行った雪原のなかにひっそりとあった。北に白いのは石鎚連山や天狗高原方面だろうか。いずれも懐かしい山々である。山頂を辞したのはほぼ正午、下山は足まかせでどんどんくだる。一度だけ休んで桑田山集落を抜け、神社から往路をゆくり町に出て、ちょうどよい時間に吾桑駅に戻った。

妹背山(404呎)

朝、まだ暗いうちに宿毛の宿を出発。片島港へは広い車道を西進すること約20分。地元の人と釣り客が乗船し、明け始めた7時に船が出る。好天で海も美しく、二港に寄ってから8時半に母島港に着いた。

妹背山への道は、まずは港から斜面にへばりつくような家並の間を石段等で登って行くのだが、案内板や道に矢印があつて迷う心配はない。集落を抜け、車道に飛び出すと校舎があり、そこで右に折れ



てすぐ「山伏神社・妹背山」の道標がある。標高は146m、港から約30分の歩程である。

登山道はスタジイが茂る南方の低山に特徴的な樹相で、まずは尾根の右側をジリジリ登る。少しシダの繁茂する所を抜けると尾根を乗り越して左側に移り、ゆるく登って行く。登山口から30分も進んだあたりでヒョイと林道のような広い道に飛び出した。道標通り横切って5分ほどで、また同じような道を横切る。すでに標高は300mを超えているが、スタジイの林で展望は全く利かない。時折咲き残りのツワブキが単調な深緑に少しばかり色をつける。少し先で淵沢を渡り、

右手に廃家を見てすぐ「山伏神社3分」の道標があり、見送って進むと広い道に合流した。この道がゆるく登っているのに進んだところ、すぐ先でゆるい下りになった。先の分岐点まで戻って、10分前後ロスをした。戻る途中

で前方に深緑のドームが横たわる。正しい登路は似たようなスタジイ下のゆるい登りである。たんと進むと10分ほどで前方が開けると、あっさりと妹背山頂に着いてしまった。

山頂一帯は切株が散在し、かつてはスタジイの林のなかだったのを四国百山とか百名山とかになったのを機に刈ったのだろう、明るくて広い。原の真ん中に建つ貧弱な櫓を登ると、27年前の新婚旅行でこの島を望んだ大堂から柏島方面が一望できて懐かしい。

帰りの船は15時過ぎ。早めの昼食をとり、時間つぶしに誰も来ない山頂で「懐かしの歌声」を1時間余で30曲余独演し

た。

正午を待って往路を戻る。こぢんまりした山伏神社に寄り、山頂から20分で二度目のクロス地点に出る。登山口と谷尻を結ぶ車道に出るだろうと進む。のんびりした大廻りのジグザグの下りで、スタジイ林で展望には不満ながら、何ら問題ない。車道に出合うあたりでイノシシが一頭斜面を走っていった。

あとは車道を港に向かうが、ドライブコースで展望はずっと良い。海を隔てた柏島方面は、先程の足元が定かでない山頂からのそれよりはるかに良い。車道は上り下りの少ない歩行で、途中で土佐藩・宇和島藩境界の標識がある。かなり古く分割で、明治4年の廃藩置県でようやく二藩が高知県に統合したのとこと。

港で船を待つ間に地元の人に聞くと、かつては島民3000人ほどいたのが、現在は過疎・高齢化が進み2000人ほどとか。仕事が漁業だけなので若い人が去り、子供も少ないと言う。妹背山が四国百山・百名山に選ばれたので訪問者もあるが、私のような遠来客は極めてめずらしいそうである。青木光一さんの「小島

通いの郵便船」は半世紀前の頃だが、そのような場所が今もあることを改めて知った。

舟で片島港に戻り、暗くなる頃に宿毛から列車に乗る。窪川で乗り換え、高知からムーンライト高知で関西に向かった。

三上山 (432m)

端正な姿の近江富士の三上山は、標高こそ低いが琵琶湖線に乗ると気になる山である。大阪で長浜行き始発列車に乗り換え、野洲下車は7時過ぎ、雲がかかっているが、三上山はすっきりと立ち、朝の光で一瞬赤く染まった。

コースは石灯籠のある表登山口から登り、裏登山道を下った。登路はやや岩が多いが要所には金属の手すりなどがある。樹間から抜けると展望台の岩にはしめ縄が張られ、鳥居と三上神社がある。最高点は杉に囲まれ展望は無く、顕著な山ながら三角点はない。裏登山道も杉などの樹林下だが、表登山道と比べて露岩はずっと少ない。

3時間少々で駅に戻り、あとは東に向かう。青春18きっぷの利用者が多く、米

原・大垣での乗り継ぎでけっこう座席が埋まる。浜松・静岡・熱海と乗り継ぎ、平塚で湘南快速にうまく接続し、20時過ぎに無事熊谷に帰った。

(平成17年12月25日〜29日歩く)

△参考タイム▼

- (26日) 上郡駅 10・10〜20 (タクシー)
- 細野登山口 10・30 | 白旗山 11・40 | 12・00 | 細野登山口 12・55 | 河野口円心駅 13・25 | 50 (智頭急行) 上郡駅 13・58 | 14・39 (JR: 岡山・坂出・多度津・阿波池田・後免乗り継ぎ) 高知駅 21・34
- (27日) 高知駅 7・15 (JR) 吾桑駅 8・30 | 桑田山神社 9・15 | (約20分ロス) | 578 地点先 10・55 | 蟻蛇ヶ森 11・30 | 12・00 | 桑田山神社 13・40 | 吾桑駅 14・05 | 11 (JR) 窪川駅 15・23 | 26 (土佐くろしお鉄道: 中村乗り継ぎ) 宿毛駅 17・42
- (28日) 宿毛市内ホテル 6・15 | 片島港 6・35 | 7・00 (船) 母島港 8・30 | 登山口 9・00 | 林道交叉 9・00 | (15分ロス) | 妹背山 10・15 | 12・00 | 林道交叉 12・25 | 車道 12・55 | 母島港 13・40 | 15・25 (船) 片島港 17・00 | 宿毛駅 17・30 |

43 (土佐くろしお鉄道) 窪川駅 19・25 | 20・00 (JR) 高知駅 22・09 | 58 (ムーンライト高知)

(29日) 大阪駅 6・03 | 05 (JR) 野洲駅 7・14 | (表登山道経由) | 三上山 8・50 | 9・05 | (裏登山道経由) | 野洲駅 10・15 | 24 (JR: 米原・浜松・静岡・熱海・平塚乗り継ぎ) 熊谷駅 20・06

△交通費等▼

- (京都起点: 29日は熊谷までも同額)
- 青春18きっぷ 3日分 6900円
- 上郡駅 (タクシー) 細野登山口 1990円
- 河野口円心駅 (智頭急行) 上郡駅 2900円
- 高知駅 (JR) 吾桑駅 710円
- 吾桑駅 (JR) 窪川駅 710円
- 窪川駅 (土佐くろしお鉄道) 宿毛駅 (往復) 3100円
- 片島港 (船・宿毛市営) 母島港 (往復) 2600円
- ホテル (高知・宿毛) 1泊各5000円
- △地形図▼
- 2万5千: 二木・上郡 (白旗山)、佐川 (蟻蛇ヶ森)、母島 (妹背山)、野洲 (三上山)

男体山と白根山

田中 明

奥日光

日光、日本人ならこの名から観光の名所だとすぐに思いつくだらう。その喧騒を秋風も追い払ってくれる11月も目前となった頃、男体山と白根山に登った。白根山(奥白根山)といえは関東以北で一番の標高をもつ2578mの山だ。

折りしも出発前夜に初冠雪とテレビ・新聞が報じた。厚手の衣服はもとよりアイゼンまでもがザックの仲間入りである。顔見知りの仲間と京都駅から長い列車の旅が始まった。

男体山

「ムーンライトながら」には旅慣れた

サ原の稜線にのると、頂上も間近かになった。稜線の登山道沿いには少し雪が残っていてこれもまた楽しい。ほどなく鉄剣が見えてくると、1等三角点の埋まる男体山(2484m)登頂である。

登山口での大快晴とは大きく異なり、山頂はガスが一面に広がって展望には恵まれない。だが、一瞬キラキラと輝いて見えた湖面は中禅寺湖であった。

富士山ほどの方角か、明日登る白根山は……と声は出ても山の姿は出てこない。360度の大展望を楽しむに登ったにしては、心なしか惨めな頂上であった。3〜4人の登山者と挨拶を交わしながら、ゆっくり大休止して同じ道を下る。

下山道はみんな速い歩きとなり、いと



男体山付近略図

白根山
白根山
白根山



男体山を望む

越しにそびえている。登高意欲は高ぶるばかりである。

ペンションのオーナーも1人で淋しく我々の下山を待っていても仕方ないのでいっしょに登ると、遠慮がちに後ろからついて来られることになった。

登り始めると徐々に勾配が増してきて、北向き斜面には初冠雪が凍っている。木の根っこや岩角を頼りに上を目指してサ

も簡単に志津乗越へ戻ってきた。帰りのオーナーのハンドルさばきも軽ろやかに尾瀬登山口にはほど近い、戸倉の「グイラ風花」に到着である。

我等の山歩きの泊まりは山小屋一本やりであるが、今回は路線バスが無いことから、駅から登山口まで都合よく送迎してくれる好評判のこのペンションを選んだ。

これまで何度か尾瀬詣での際利用したという、写真好きのNさんからこのペンションのすばらしさを聞いていた。温泉風呂も食事も部屋もすべからく山小屋とは雲泥の差、格安で特に駅からの乗り物に心配が要らない点が大きなメリットだ。それにも増してオーナーが話す人生観を聞くだけでも楽しい。「もてなしの心」

を大事にしているこのペンションにいち押し感をもったのは、私だけではなかったらう。

すこしずつ傾斜がきつくなり、じっとりと汗が滲む頃、残雪が見られるようになった。アイゼンを装着するまでいかならないまでも、踏み締める雪のキックの音が心地よい。

ハンゴンソウの花殻が枯れて立ち並ぶ姿が見られ、弥陀ヶ池にやって来た。池にはうっすらと水が張り、右上には雪を頂いた白根山が頭をもたげており、いかにも寒々とした風景である。あたりには



白根山を望む

しい道標が現れてきたが、どうやらロープウェイで上がってくる観光客用の案内板のようだ。
道も道路のように幅広くなり、山歩きはいつの間にか終わったのだらうかと思いつながり行く、開けた丸沼高原山頂駅に飛び出した。

目の前には白根山がぼちり正面を向

グケカンバが林立し、葉を落とした真っ赤なナナカマドがこんなにもきれいだっただのと改めて見直した。
さらに進むと、木の根っこなどをつつかんでの下り一方の急坂道が続いた。下り立った所は五色沼である。
五色沼はシラネアオイの群生地のように、時季(6月頃)があれば人も出もすいだらう。ここは、見上げると青空をバックにカラマツの黄葉とナナカマドの赤い実と白い雪が続いていて、何ともいえぬビューポイントである。すばらしい場所だ。マンパのこやかな顔を横目に、ひと息入れることとした。



白根山付近略図

「さあ、もう少し先の避難小屋を過ぎると今日一番の苦しい急登が待っている、頑張ろう」と声をかけて腰を上げた。

大きな石が転がっている道まで来て、ようやく登山者に出会った。「上の雪は残っていますか?」頂上に人は多いですか?」などと情報収集も抜かりないが、平日のこの時期、多からうはずがない。連続する急登に汗しながらゆっくりゆっくりと登る。紺碧の五色沼を振り返って見たり、きのう登った男体山の方角に目をやったりしたが、ほとんどガスに覆われて山の姿は見えない。

あちこちつかまりながらガレ場を越え、アゴが出るほど苦しくなってきたころ、頂上も間近かになった。岩峰が続くやや平な箇所には残雪が多くあり、踏み跡の無い所を選んで歩き、雪を楽しんだ。
ほどなく奥白根神社を祀る峰から右手の砂礫をくだつて登り返すと、白根山の山名板が岩に突き刺さっている。狭いビークで2等三角点を探すも見当たらず、他

いて坐っているではないか。これぞ白根山のパンフレットの写真そのもの、山頂駅は標高2000mだから577m下から見上げていることになる。
白根山の姿を楽しんだ後、1380mの登山口までロープウェイで15分、一気に運んでもらった。

ロープウェイからは、グケカンバの白い木肌・カラマツ・ミスナラに、カエデ類の黄葉やサワグルミ・ウリカエデなどを楽しみながら山麓駅に降り立った。
ペンションオーナーが車中より手を振って出迎えてくれた。途中で真っ赤なりんごを手土産に買い、J.R沼田駅前の日帰り温泉で山旅の汗を流し、往路と同じ電車の行程で帰京した。
(平成17年10月25〜26日歩)

▲参考タイム▼

- (24日) J.R 京都駅 21・29 (電車) 大垣駅 23・19 (電車)
- (25日) 東京駅 4・42 (電車) 沼田駅 7・53 (車) 志津乗越 11・20 男体山 12・40 (昼食) 13・40 志津乗越 15・20 (車) 戸倉ウイラ風花 17・00 (泊)
- (26日) 宿 7・20 (車) 菅沼 8・00 一跡

の登山者に尋ねても誰も知らないと言う。三角点などに興味もないのか、それとも登りが辛くて声も出ないのか、まともな返事はなかった。

記念写真に収まって奥白根神社前に戻って大休止としたが、きのうに引き続いて一面ガスってしまった、お目当ての展望も無い。山の天候の難しさを改めて知る思いであった。

しかし誰にも文句は言えない。しょぼしょぼと丸沼高原を目指してくだる。10月の時季に雪を踏みしめて歩けたことが喜びだったと自分を慰めながら、つづら折れの樹林帯を黙々と歩いてみると、カニコウモリの枯れた花穂たちが悲しげにわれ等を見ているように感じた。

避難小屋そばには七色平の湿原があり、「今はもう秋、何もない秋」という唄の文句どおり、枯れ草の向こうにはグケカンバや雑木林が淋しげな風景を見せている。これも鹿の食害から護るべく電線があたりに張り巡らされ風景を台無しにしている。

大日如来の銅像は意外に小さな像で、岩上に石を載せて家内安全をお祈りした。進むとあたりにやたらと自然観察の真新

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!

・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンのカーからドリンクスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

陀ヶ池 10・00 五色沼 10・25 50 白根山 12・15 (昼食) 13・10 七色平 14・30
ロープウェイ山頂駅 15・10 50 (ロープウェイ) 丸沼 16・05 (車) ユニーク湯沼田 17・00 (入浴・夕食) 19・30 (車) 沼田駅 20・10 (電車) 東京駅 23・43 (電車)
(27日) 大垣駅 6・53 (電車) 京都駅 8・28 (解散)
△地図▽昭文社「日光白根山・男体山」(宿泊先)
ペンション「ウイラ風花」
0278 (58) 7051

愛知県内ルートI

柴田昭彦

筆者は、本誌の「旗振り通信の研究」の連載記事、HP「旗振り通信ものがたり」、初めての単行本「旗振り山」(ナカニシヤ出版、平成18年5月)の中で、全国の旗振り場の調査結果を公表してきた。岐阜県各務原市の面手氏からのメール情報によって、従来は知られていなかった旗振り場である「のべぶり岩(金比羅山西尾根)」と「小牧山」を発見することができた(詳細は、本誌90号のコースガイド参照)。

平成18年5月25日、HP「小屋番の山日記」(西山秀夫)に「旗振り山」の紹介記事が掲載された。この中で未知の旗振り場が「今の(名古屋市)緑区辺りにも

あるかも知れない」とあった。これは、西山氏によると、芭蕉のパトロンが鳴海にもいたらしいことから想像したものであることだった。このパトロンというのは、富豪の下里知足のことである。桑名・名古屋を中心に旗振り通信網が張り巡らされていたことは間違いないが、愛知県・岐阜県での旗振り場情報は少なく、筆者の従来調査が不十分であることを痛感せざるを得なかった。旗振り通信は、まさに「忘れられた歴史」であり、その情報は、待っていては得られない。筆者は、平成18年6月8日に、三重・愛知・岐阜・静岡各県の郷土資料の悉皆調査を実施してみた。その結

果、愛知県と岐阜県において、従来、全く知られていなかった旗振り場を、10カ所以上、見つけることができた。発見の経過については、HP「小屋番の山日記」において、西山氏とのやりとりの中で、情報交換をしながら、詳しく記録しておいたので、ご覧いただければ幸いである。ここでは、新たに整理しながら、地域別に旗振り場の発見を報告して、読者の参考に供したいと思う。

【三重県の旗振り場】

三重県立図書館での調査(平成18年6月24日)では、新たな旗振り場は見つからなかったが、未見の資料を発掘できたので紹介しよう。

〈鈴鹿市の旗振り場〉

『新編鈴鹿市の歴史』(社団法人鈴鹿青年会議所、昭和50年)(改訂版、平成4年)には「米相場と銀行」の項目に次のようにある。

「(前略)桑名、四日市、津などに米市場ができる、米相場でもうける人、失敗して家屋敷を失う人も出てくる。

今の株式と同じで、その日の取引所の値段を一刻も早く知って、売買するために、長距離電話も、ラジオもない明治三〇年ごろまでは、旗の信号をリレーして伝えたという。

岸岡山には旗振り山というのがあり、四日市から日永を経て高岡山で合図するのを望遠鏡で見て、それを又南の上野村へ旗を振って知らせたという。岸岡では、その家のことを「旗振りさん」と呼び、今も千代崎の浜中家に、その時の真鍮製の望遠鏡(遠目鏡といった)が保存されている。」

文中の「真鍮・遠目鏡」は、「真鍮・遠目鏡」が正しい。「鈴鹿市史第三巻」(平成元年)には旗振りについての詳しい記事があって「遠眼鏡」との記載も見られる。

『遠鏡図説・三才類管・写真鏡図説』(江戸科学古典叢書38、恒和出版、昭和58年)に収められた「遠鏡図説」(安政3年完成)には、「望遠鏡、遠鏡、遠鏡」といった表記があり、望遠鏡は、1856年当時、「遠鏡」とも書かれていたことがわかる。したがって、『旗振り山』(105頁)で、西大平山での旗振りにふれた明

治29年の文献に「遠鏡」とある理由が氷解したのであった。

なお、HP「今は昔の物語」(白子町・江島町の話)は、岸岡山での旗振りにふれていて、「とおめがね」は酒屋の浜中さんが買い取って保存されている、と記述されている。

〈桑名市の旗振り場〉

『中京民俗第29号 多度町の民俗』(中京大学民俗学研究会、平成4年)には、次のような記述が見られる。

「また電信電話の敷設されていない明治初期から、二〇年頃に至る間、三本杉の旗振りというのが行われていた。大阪、名古屋、桑名の間を遠く旗信号によって、米穀取引場の米相場を通信する信号所が三本杉の山上に設けられていた。時計と望遠鏡を備えて赤旗・白旗を大きく振って鈴鹿山を通して来る大阪相場を桑名取引所の二階の窓から見張る望遠鏡に知らせ、名古屋、岐阜に送信していた。」

【愛知県の旗振り場①】

愛知県図書館(7月1日・23日、8月4日)と名古屋市鶴舞中央図書館(7月29

日)での調査で、新たな旗振り場を、10カ所以上、見つけることができたので、2回に分けて、紹介することにした。記載のある郷土資料は今まで指摘されたこともなく、今回が初めてのレポートということになるだろう。

〈大府市の旗振り場〉

『大府町史』(昭和41年)の「明治前後通信の変遷」には次のような記載が見える。

「明治以後は、望遠鏡を使って最寄りの信号所と手旗信号で、米相場を電話の代りに通信し合い、阿久比方面へ伝達していたといわれている。これは観音寺山の南部で行なわれたと古老が語っている。横根山でも岡崎方面と手旗信号で伝達していた。」

観音寺山の場所について、大府市歴史民俗資料館に問い合わせたところ、次の通りであった(平成18年7月29日付返信)。

「観音寺山と言う地名は無く通称名ともわれませんが現在はこの呼び名ではつかわれておりません。阿久比方面への手旗信号と言うことから考えますと、桜木町



比町域ではなく、さらに南の半田(取引所)の可能性が考えられる。横根山は、大府市歴史民俗資料館によると、次の通りである。「横根山と言う地名は無く通称名です。概ね現在の梶田町から横根町名高山の周辺です。」旧版地形図を見ると、現在の太府市梶田町6丁目・北山町3丁目付近が、かつては横根山という集落であった。

高30㍎、周辺は標高55㍎の等高線を持つ丘陵地帯である。旗振りが行われた具体的な地点は不明だが、岡崎方面に送信したということから、東寄りに位置するピークを用いたのだろうと考えられる。

〔西尾市の旗振り場〕
 『西尾町史 上』(昭和8年)の「米会所」の項には次のような記述が見られる。「又、古老の談に依れば、明治の初め、東京の米相場は、多く山の如き高所を利用し、旗を振りて、順次に、各地に通報せられたるものにて、西尾の如きは、八ツ面山嶺に於て、望遠鏡を手にし、知立一里山の暗号旗を望見し、直に旗を振りて、之を丁田門外の観受者に伝へ、かくして、東京の相場は、桑名・名古屋・桶狭間・一里山・八ツ面山等を経て、一日の中に西尾に達したりと云ふ。」
 西尾の米会所は明和の頃(1764、72)に設立され、明治9年8月まで存続していた。
 丁田門は、名鉄西尾線西尾駅の北西450㍎、現在の西尾病院の南西、会生町・高砂町境付近である。かつての西尾城の外郭ラインは、北は鶴城公園南側、南は



知北平和公園(大府市・東海市)の展望台(観音寺山の南峰と推定される地点)(標高72㍎)

地形を見ると、桑名、岡崎、西尾、半田の各中心市街と連れることなく、直接、中継できる立地にある。このような場所は、同じぐらいの高さの丘陵が続く知多郡では珍しく、場所に間違いがないとすれば、極めて重要な旗振り場であったと思われる。次回に述べるが、岡崎での伝承では、知多郡に旗振り場があったといひ、この場所を指す可能性が高い。

町史に言う「観音寺山の南部」とは、北峰(標高74・3㍎)に対して、南峰(標高75・7㍎)を指すと考えると、全ての辻褄が合う。

平成18年8月20日、観音寺山の現地調査に出かけてみた。名鉄河和線八幡新田駅から歩いて、知北平和公園へ向かう。知北平和公園西バスの横の階段を上

がり、整備された遊歩道を右へたどると、南峰の場所に高さ9㍎ぐらゐの展望台があった。上がってみたが、周囲は樹木が茂り、北側が展望できるだけである。現在の南峰の標高は72㍎であり、整備の時に3㍎ほど削られたのだろう。この展望

台の存在が、大府市の最高地点である。この唯一のアピールポイントだろう。

階段近くに戻ると、桑名方面が見える。低い森が遮るよう思えるが、地形的には見通すことができる立地で、伊勢湾が隠れてしまうから、むしろ、桑名の町を遠望しやすかつたのかも知れない。

階段から反対方向の左をとれば、北峰へ出られる。北峰の三角点は、南側の遊歩道の植え込みのとぎれた所から一番高い場所を指すといひ。樹木が茂り、展望は全くない。

『大府市誌 資料編民俗』(平成元年)の152頁によると、この最高地点は、地元の人々が「高根山」と呼んでいるという(根は嶺・峰の意味)。観音寺山という呼称は、ごく一部の人だけが用いていて、今では全く忘れ去られてしまったのであろう。

観音寺山からの通信方向に阿久比方面とあるので、阿久比町教育委員会社会教育課に尋ねてみたが、「阿久比町誌等にはそのような記述がなく、また古老の言ひ伝え等もわかりませんでした」という返答であった(平成18年7月20日付返信)。「方面」とあるので、旗振り場は、阿久

というところで、確定はできないが、太府市の南端、知北平和公園の北西側の74・3㍎三角点(昭和28年選定の4等三角点「緒川」付近が、旗振り場であったようである。

2万分の1地形図「刈谷町」(明治23年測図)と現在の地形図を比べてみると、今の74・3㍎三角点の南方120㍎に、もう一つのピーク(標高72㍎)があり、かつて、標高75・7㍎の三角点であったことがわかった。

5丁目に74・3メートルの標高の場所があり可能性が高いと考えられます。尚この場所が以前には観音寺山と呼ばれていたようですがはつきりしたことは不明です。」

西尾公園東側を通り、丁田門は、その東端ライン中央に位置する。

西尾市教育委員会文化振興課文化財担当によれば、八ッ面山での旗振りの資料は『西尾町史』以外には見当たらないという(平成18年7月12日付返信)。

桶狭間は、名古屋市長区有松町桶狭間から豊明市栄町南館にかけての地域である。豊明市役所市史編さん室の小塩淳氏によれば、大正6年の『豊明村誌』以来、今日まで5回にわたる通史において、旗振りの記録はなく、郷土史に詳しい人も聞いたことがないとのことであった(平成18年7月26日付返信)。ただ、『西尾町史』にあるからには、事実としてはあったかと思われるので、明治期の地形図で当時の最高地点を調べてみては、とのことであった。

2万5千分の1地形図「鳴海」(大正9年測図)によると、桶狭間付近で一番高い地点は、古戦場伝説地の南南西600mの64・9m旧三角点であり、今では南館の泉団地(錦小学校の北西300m)となっている。今のところ、裏付けは取れないが、この辺りが旗振り地点だった可能性は高いように思われる。

なお、鳴海の歴史に詳しい郷土史家、神原邦彦氏に、桶狭間で旗振り伝承があるかどうか、知人に問い合わせてもらったが、伝承は残っていないとのことであった(平成18年8月の返信)。

知立一里山は、現在の知立市西丘町西丘である。江戸時代、東海道に一里塚があったところである(『知立市史下巻』昭和54年)。地元の郷土資料には旗振りの記述は見つからないが、秋葉神社の北側は標高15mぐらいで、ここから、桶狭間と通信することは可能な立地にある。また、八ッ面山方面の見通しも開けていて、旗振り場にふさわしいだろう。

〈豊橋市の旗振り場〉

『豊橋市史 第三巻』(昭和58年)には、次のような明治中期における旗振りについての記述が見つかった。

「当時の豊橋における米相場は、桑名の米相場を手旗信号によって情報を得ていた。すなわち、知多半島の八面山から蒲郡の遠峰山で信号を受け、そこから豊橋ではさらに八名郡嵩山の山上へ伝え浜松へ通じたという。信号は望遠鏡でのぞきながら伝えたので、信号をする人を「眼

鏡師」ともいった。この連絡方法で大阪の米相場が豊橋に伝わるまでには、わずか二分間しかかからなかったといわれる。しかし、八面山は現西尾市にあり、何らかの誤りを含んでいると思われる。」

この記述の出典は、内田多計男編輯『豊橋商工会議所五十年史』(豊橋商工会議所、昭和18年)の442〜3頁で次の通りである。

「当時の豊橋の米相場は桑名の米相場を信号(旗を振る)によって取り入れたものであつて、知多半島の八面山から蒲郡の遠峰(とぼね)山で信号を受け、そこから豊橋へ信号し豊橋ではその信号を八名郡の嵩山の山上へ伝へ、そこから浜松へ伝へたことである。これの信号は望遠鏡で覗かれて伝へられたので、信号する人のことを眼鏡師と称したとのこと、大阪の米相場が豊橋に伝はる迄二分間を要したのみとのことであるが、これ等のことは要するに米に対する投機の盛んであつた証拠であり、豊橋の取引所も大いに繁昌したのであつた(後略)」

豊橋米取引所は、明治27年、関屋町に設立され、明治32年には豊橋駅前の花田村字石塚に移転している。

文中に見られる「二分間」というのは、おそらく、誤植であろう。大阪の米相場の情報は桑名まで10分で伝わり、桑名から岡崎まで10分ぐらいというから、豊橋に伝わるまでの所要時間は「二十分」が妥当であろう。

「知多半島の八面山から」とあるが、八ッ面山は知多郡でなく、幡豆郡なので、明らかに間違ひである。これは、次回に紹介する岡崎での伝承と照合してみると、「知多半島を経て、八面山から」と聞き取った結果を、書き誤ったものと推察できる。

さて、八名郡の嵩山の山上とは、一体、どこを指すのであろうか。たぶん、豊橋市嵩山町の東、県境尾根のピークと考えられる。

豊橋市美術館の美術・歴史グループからの回答(平成18年7月21日付)によると、「当時の市史編纂担当者、嵩山町の郷土史家の方々にも連絡を取り確認いたしました。嵩山山上で米相場の手旗信号が行われた事実を証明するもの、伝承並びに類似するような事実も確認されておりません」とのことであった。

実際、豊橋市立嵩山小学校『郷土誌

嵩山』(豊橋郷土誌刊行委員会、平成5年)や、『三ヶ日町史上巻・下巻』(昭和51・54年)には、旗振りの話は、まったく見当たらない。昭和18年当時には、まだ残されていたはずの伝承も、今では途絶えてしまったようである。

豊橋の取引所と通信できる立地から推定すれば、石巻山で連なる坊ヶ峰(本坂山)は不適で、その南の三角点(標高426・9m)か、さらに南の富士見岩(415m)が適している。三角点では展望がなく、それに対して、富士見岩での展望は広大である。筆者の推定ではあるが、旗振り場は、おそらく、富士見岩が一番ふさわしいのではないだろうか。

旗振り伝承が嵩山町に残されていないことについては、「①旗振り場は全く別の地点であった」「②旗振りをした人が地元以外の人だった」の二つが考えられる。筆者は豊橋商工会議所の関係者の証言が残ることから、後者であった可能性が高いと見ている。

〈蒲郡市の旗振り場〉

豊橋市の文献で紹介したように、「蒲郡の遠峰(とぼね)山・遠峰山」で旗振

りが行われたとの記述が見られた。蒲郡市の北西には「遠望峰山」がある。そこで、蒲郡市博物館に問い合わせたが、郷土資料には旗振りの話は見当たらないとのことであった(平成18年7月17日付返信)。

ところが、『塩津村誌』(平成10年)の102頁には、次のような記述があった。「旗振り場 遠望峰山の山頂にある2坪余りの石室は、明治10年代まで続いた岡崎・豊橋の各米穀商が米相場を望遠鏡と大旗信号で通報し合った重要な中継所であった。」

最後の旗振り役は柏原村の杉浦作次郎であったと聞いている。

昭和29年4月、塩津村・蒲郡町・三谷町の合併によって蒲郡市が誕生している。平成10年に合併前の村誌が刊行され、しかも、その中に古老の話を聞き書きした貴重な資料が残されていることに感動させられた。愛知県図書館で、平成18年7月23日に村誌を開いて、この記述を発見した時は本当に驚くばかりであった。

(つづく)

(平成18年8月11日成稿)
(平成18年8月21日増補)

連載

三角点を訪ねて ④3

中央分水嶺を歩いて 根来坂から三国峠へ

朽木

磯部 純

前月の「中央分水嶺を歩く」山行では、シチクレ峠から百里ヶ岳を越えて北へ向かい、駒ヶ岳を踏んで標高点7443円で歩いた。今回は根来坂から南へ向かい、三国峠を踏んで地蔵峠まで歩いた。

計画では林道を根来坂近くまで車で登り、シチクレ峠西の分水嶺分岐までピストンすることにしていたが、台風のために林道が寸断されてしまい、小入谷から歩かざるを得なくなりました。

8時に坊村の広場へ集合し、この日参加の19名が五台の車に分乗し、小入谷の広場へ向かう。一台をブナ原生林駐車場に置き、小入谷を出発したのは9時5分だった。

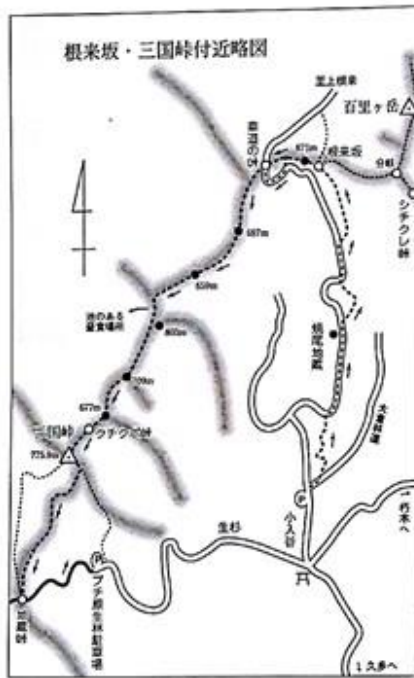
広場から谷を渡って大倉林道を歩き、もう一度谷を渡った所が根来坂への取付点。谷の中間尾根を登るのだが、尾根には鞍馬街道の延長である古い道跡が刻まれている。取り付きから先頭を歩き、ジグザグ道を登って行く。この日の参加者はいずれも健脚揃いで、後から追い立てられるような気がして、実力以上に歩調が速くなってしまふ。登り出して間がないのに汗がしみ出てくる。あたりは雑木の林だが、紅葉している葉はほとんど無い。

25分も登ると林道に飛び出す。この林道は朽木の小入谷から若狭の上根来へ乗り越す林道で、前年の10月に開通し、車

井長政の背反に合い、敗走の最終を努めた家康が通った峠でもある。また、この峠を通過して小浜から京へと鯖を運んだことから、鯖街道とも呼ばれた。

鯖街道の道筋は、「小浜」上根来「根来坂」小入谷「桑原」経ヶ岳「久多」オグロ坂「フジ峠」大見「杉峠」鞍馬「京」と続いていた。ただ現在でも、この古い道の、経ヶ岳と久多の間だけは特定されていない。

峠には地蔵尊が祀られており、時代を見守ってきた太いブナの古木も残っている。



西の一段高みには「大乗妙典 一石一字塔」と彫られた石塔が立っている。この石塔は地蔵峠と古屋から岩谷峠へ登る途中にある「般若心経 延命地蔵 一石一字塔」と彫られた石塔と共に、寛政九年に置かれたと伝えられるが、何のためのものかはわからない。

峠から尾根を西へ向かうとすぐ標高点871mのピーク。山頂にはスズメバチの巣があり、蜂がブンブン飛び廻っている。刺されては大変なので、迂回して逃げることはばかり考えて、このピークで計測することなど頭から消えてしまった。山頂を迂回して西の尾根をくだると、下の鞍部に林道が来ている。尾根をそのまま進めば、切り通しになっていて降り

根来坂の「一石一字塔」



でも通行可能である。道は平坦、この林道を車で登れなかったことが残念でならない。林道に出て300mほど歩くと焼尾地蔵。以前は古道脇にこぢんまりと鎮座していたが、今では林道脇の立派な小屋に祀られている。福井県側にある池ノ地蔵と共に、ここを通る人々の安全を見守ってくれていたのだろう。地蔵小屋前から古道に入り、尾根を歩いて上の林道へショートカット。その後、すぐ林道の上を通る登山道に入ると急な尾根となる。左に斜面を切るように登って行くと、やがて根来坂へ着いた。



標高点803峰から見る地藏谷峰

を登って行くと、木々の間から前方に標高点803峰から東にのびる尾根が見えている。いったんくだって登って行くと、県境が左へ曲がるピーク。山頂は凹地になっていて池があった。地形図からは読み取れない池で、辺りの林の情景といい、情緒ある場所だった。時間はすでに12時

になっており、この場所まで至福のひとときをもつ。
12時40分に出発する。池を廻って南へ向かうと、すぐ急登が始まる。標高差800m程のすり落ちそうな急斜面を登ると、その500m程東に標高点803峰のピークが見える。何人かは動こうとしなかったが、せっかくなのだからと行ってみると、東方の展望が開けている。すぐ手前の尾根の向こうに地藏谷峰が天を突き、遠くには蛇谷ヶ峰が横たわっている。
標高点803峰から下りの尾根は少し急だがすばらしい二次林の疎林。アチラコチラに太いブナの木も見られる。勾配がゆるみ、しばらくはゆるい下りが続くが、またまた、急登が待ち構えていた。わずかに標高差400m程の登りだが、これまでに地形図では読み取れないアップダウンの連続、足への負担が大きい。どうも最初の登りで急ぎ過ぎてしまった「ツケ」が今になって回ってきたようだ。
標高点709峰をくぐって広い尾根を登って行くと、ここにもすばらしい二次林が広がっている。ブナ・ミズナラ・リョウブ、知っている木はこれくらいだが、気持ちよい自然林の歩きである。広い山

頂から方向を定めて急勾配の斜面をくだり、登り返すと標高点677峰のピーク。そこには標識が立っていて、三國峠が近いことを知らせてくれた。
そこから西南へくだり、小さなコブを越えるときクチクボ峠に着いた。この峠は朽木の生杉から名田庄村の永谷へ越える峠である。両集落を結ぶだけでなく、朽木方面と久田川沿いの村落とを結ぶ街道の役割をもっていた峠で、大正期まではよく使われていたらしい。40年前頃には、生杉側は芒ヶ原で永谷側はブナの樹林帯だったというが、今では生杉側は杉の植林帯に永谷側は雑木の林にと変わっている。峠には例に漏れず、地藏尊が祀られている。
この峠からは三國峠へ古い登山道がのびている。急な尾根を登り、左から尾根を合わせてさらにひとフンバリすると、頂上直下のフヌ場へ登り着いた。三國峠山頂は1500m程急坂を登った所にある。最後の登りとばかり登り始めると、両ももを襲う激痛。標高点709峰あたりからだましまし歩いて来たのに、ついにももが壊ってしまった。もう5峰も登れば山頂に着くのにもならず、ズボン



クチクボ峠から三國峠へ

をずらして太ももにエアサロンパスを吹きつける。上からワイワイ言っている人の声を聞きながら、ひたすら痛みが引くの待った。
14時25分、三國峠山頂へは最後に登り着いた。三角点は広場の中央に立っている。三國峠は標高775・9峰、3等三角点で、点名も「三國峠」。標石はちょうど北東を向いている。この三國峠は丹

波・近江・若狭の三國に跨る山である。この南にある三國岳は丹波・近江・山城に跨がり、いずれも三國に跨がっている所から「三國」の名が付けられた。このように旧三國の境にあるので三國の付いた山名は、全国でも30を数えている。
この山に「峠」の名が付けられているのは、この辺りの丹波地域では、ピークを「峠」と呼んでいたことから「三國峠」と呼ぶようになったという。近くにあるブナの木峠・傘峠・天狗峠がこれに当たる。これはピークの近くを峠道が通っていたことから、そう呼ばれるようになったのかも知れない。
三國峠からくだるには、今登ってきたクチクボ峠への道のほか、ブナ原生林駐車場へ直接くだる道、枕谷から長治谷へくだる道がある。今回は分水嶺である滋賀県・京都府の県境を地藏峠へとくだる距離は短い、この日一番の読図力が求められる区間といつてよい。
ブナ原生林駐車場へ向かう一般道をくだる。尾根をくだると一般道は西の支尾根をくだって行くが、分水嶺の県境を行くには目の前の小山を越えなくてはならない。難しい分岐で、間違わないように

尾根にのることが必要になる。ピークを一つ越え、次のピークでやぶの細尾根を南へくだると、その下は急斜面。くだったと思ったらすぐ急坂の登りになる。地形図で見ると以上にアップダウンがキツイ。尾根を曲がってササやぶをくだって行くと、突然、「ドッ、ドッ、ド」という音と共に、200m程先のやぶから鹿が一頭飛び出して逃げて行く。あれが熊でなくよかったですとホッとす。最後のピークを登ると標高点727峰。そこから東南へ向かって急斜面をくだると地藏峠。15時55分の到着だった。
峠の東にある「一石一宇塔」に手を合わせた後、運転者が先に車を取りにブナ原生林駐車場にくだり、最終、坊村の広場で、17時45分に解散となった。
(平成16年10月24日歩く)
AコースタイムV
小入谷広場(1時間10分) 根来坂(20分)
林道の峠(1時間) 標高点803峰(1時間40分) クチクボ峠(35分) 三國峠(1時間25分) 地藏峠(30分) ブナ原生林駐車場
△地形図V2万5千1古屋

エリア別徹底研究

いのう
伊能ウォーク INやまと②④ (最終回)

JR笠置駅～南笠置～柳生～柳生村～飛鳥路～JR大河原駅

上田 倅弘

伊能忠敬・測量日記

文化11年3月10日〔11814・4・29〕

曇天。(手分両手六ツ時後〔17時頃〕北笠置村出立、本陣、笠置峠、下有市村、上有市村、北大河原村、嶋ヶ原宿(支應)永井、箱田、保木、佐助、無測一里余大和国添上郡柳生飛騨守在所陣屋元表門前より初、即小柳生村という。江戸街道測、左三十間斗「ばかり」引込式内夜支布山口神社当時牛頭天王という。祭神素戔鳴尊、稲田姫命、合殿春日大明神、八幡宮、神主百姓喜兵衛。右二町斗山の上に御朱印二百石臨濟大徳寺派神護山法徳寺。柳生川石橋六間。字下村、字油田坂峠、字十里山峠、国界迄二十四町九間。城州相楽郡柳生領飛鳥路村。左に猿取岩、野々川十五間、小休百姓武兵衛。南大河原村、木津川舟渡四十二間、中央境。北大河原村、本街道出別手の残⑨印に繋、一里十五町二十六間、街道惣測二里三町三十五間。此より無測八ツ頃〔14時頃〕北大河原村駅着。止宿本陣問屋兼帯森池平左衛門。
〔伊能忠敬・測量日記〕第五巻 佐久間達夫編著より引用

陣屋跡を出たすぐの所に柳生八坂神社があるが、伊能さんは山口神社と間違っていたようである。右手に芳徳寺、左手に家老屋敷を見つ、元米た道に出る。柳生川に架かる谷川橋を渡る。「石橋六間」とある。しばらく山道を歩く。「ここから歩測開始!」の先生の声がかかり、「水資源開発公園 川西南警報所」前から歩測を開始する。今日は距離が長いようだ。布目川沿い

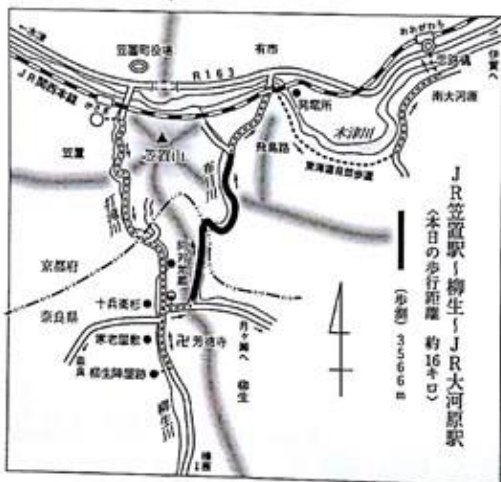


柳生陣屋跡にて

の地道を皆さん無言で黙々と歩く。道中は関電の取水口、木々の緑、水の流れ、鶯の鳴き声等見聞しつつ、計器を動かす。周りの景観を楽しめるのは当番の役得か?。程なく到着点である「名無し橋」に着いた。

ここから飛鳥路、大河原に向けて出発する。道中「庄屋庄七翁終焉の地」の石標がある。飛鳥路を通り、JR関西本線の踏切を渡る。のどかな風景が続く、さらに関西本線の煉瓦造りの橋脚をくぐる。対岸に落差3・3mのダム式の相楽発電所(出力710KW)が見える。さらに行くと、十一面観音磨崖仏が見られる。天文三年(1534)甲丑3月18日の作。しばらく行くと恋志神社(天満宮)があった。

いよいよ最後である。木津川を渡ると国道163号線に入る。木津川を渡る橋の名前は何とかな「恋路橋」。この橋は沈水橋で欄干が無い。3時10分大河原駅到着。大変お疲れさま。本日は、「伊能ウォー



ク INやまと」最終回になるので全員参加の打ち上げが開かれた。今まで使用してきた地図をオークションにかけ、希望者に使ってもらうことにした。大和の地図は中里、日本地図は森田さんが落札した。打ち上げは和氣蕨と、次回からの近畿自然歩道的话题で大いに盛り上がった。
△地形図√2万5千√笠置山・柳生 (記録・中里太郎)

●実施日 平成14年4月29日(祝) くもり
●参加人数 11名

今回も前回4月27日に続き、伊能さんが九州からの帰りに歩測した追加である。JR奈良駅に8時40分集合。電車で笠置に向かい笠置駅9時19分着。先生の挨拶の後、早速ウォーキング開始。程なく坂道に上がり、S字状の急坂が続く。柳生までの道中は山藤が満開。奇岩が点在し見所が多く、飽きないウォーキングであった。笠置は京都府、柳生(奈良)との県境に「従是東奈良縣管轄」の石標がある。しばらく行くと打滝川沿いに、阿対地蔵(石仏)があり、お参りする。「源祐」との路あり、室町時代の作。

柳生に向け出発。右手に十兵衛杉(枯れている)を見つ、柳生村に入る。下町に「柳生村道路元標」あり、近隣の地主人が元標について説明をしてくれる。11時24分、柳生陣屋跡に到着。12時15分まで昼食。今日もおいしい紅茶をいただく。伊能さんは笠置から陣屋跡までは計測していない。ここから先で計測に入ったとのこと。我々は北門から入り、表(東)門から出る。

彦根城を訪ねて

松永恵一

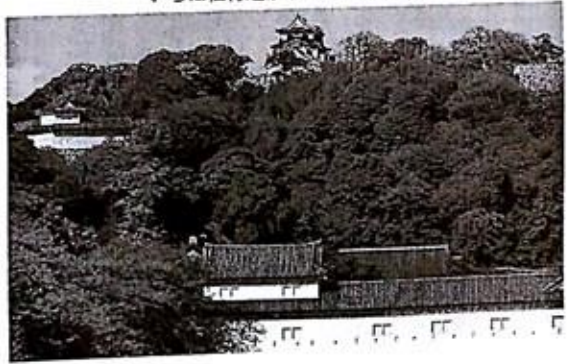
彦根城
彦根は、中山道と北国街道が合流し京に至る軍事的要衝の地。豊臣秀吉は石田三成を、徳川家康は徳川四天王の一人、井伊直政をこの地に配した。

碧い琵琶湖を背景に白亜三層の美しい姿を誇る国宝天守閣、数多くの櫓・門、大名庭園玄宮園・楽々園(国指定名勝)、内堀・中堀二つの堀に囲まれた城郭がほぼ往時のまま残され、国の特別史跡に指定されている。明治六年(1873)の廃城令で数多くの城が失われるなか、明治十一年十月、北陸巡幸を終え彦根を通られた明治天皇は、保存するようにと大命を下された。随行の参議大隈重信が消失を惜しみ、天皇に奉上了たという。

慶長五年(1600)関ヶ原の戦功に

より、井伊直政が18万石を領して石田三成の居城であった佐和山城に入城した。「治部少(石田治部少輔三成)に過ぎたものが二つあり島の左近に佐和山の城」と謳われた堅城佐和山城であったが、豊臣色の一掃と政權交代を印象つける効果を狙ってか、慶長八年琵琶湖に浮かぶ金亀山に彦根城の建設を開始した。公儀御奉行3名が付けられ、七ヶ国(伊賀・伊勢・尾張・美濃・飛騨・若狭・越前)12大名が手伝いを命じられる天下普請であった。近江国内の旧城郭の部材が転用された。天守は京極高次の大津城の四層の天守を三層に縮小して移築したという。西の丸三重櫓は小谷城、天守櫓は長浜城、太鼓

いろは松付近から天守閣を臨む



門櫓は佐和山城から移築した。佐和山城は石田三成色を払拭するため、徹底的な「城割り」により破壊され彦根城に移された。元和八年(1622)二十年の歳月をかけて完成した。井伊氏は加増を重ね譜代筆頭の三十五万石を領し、役職も老中の上席大老に就任した。桜田門外の変で倒れた井伊直弼は十三代目の当主。

井伊の赤備え

朱色の甲冑が戦場に現れたのは戦国時代。朱は目立つ。臆病者は使えない。強者にとってのみ格好よく冴える。武田信玄麾下で「甲山の猛虎」と謳われた飯富虎昌、家康を追い詰めた真田幸村。井伊直政は、甲州計略に功をたて、勇猛のはまれ高い武田氏の旧臣を家康から預けられる。武田の赤備えで知られた山県昌景の配下を吸収し、自らの部隊を赤備えとし勇猛な軍団を編成した。大将の居所を示す金箔押取形馬印、朱色に染めた絹地の垂れがつく。朱地に金で井桁の紋の旗印。大将から足輕にいたるまで軍団の全員が、身にまとう甲冑を朱漆塗りとし、兜には金色の天衝、騎馬の大旗や旗指物、足輕の指物にいたるまで軍備のすべてを朱色で統一した。井伊の赤備えは、小牧・長久手の戦いで先鋒を務めて奮戦し、関ヶ原の合戦や大坂の陣など主要な合戦で抜群の功を立てその名を高めた。

赤備えは鎧から兜まで朱一色を使ったまことに派手やかな戦闘集団であった。井伊の赤備えは徳川の先手として、戦場でひとときわ異彩を放った。

彦根城博物館

彦根城博物館は、昭和六二年(1987)に江戸時代の表御殿を復元したもので、歴代藩主井伊家の豊富な文化財、井伊家を象徴する赤備えの甲冑や刀剣、能面や茶道具、雅楽器などの美術工芸品、国宝「彦根屏風」などが展示されている。

古絵図・起し絵図や発掘調査の成果をもとに復元された表御殿は、二つの機能を備えていた。一つは藩の政務をつかさどる彦根藩庁としての表向き、もう一つ藩主が日常生活を営んだ奥向き。表向きは展示室。木造で復元された奥向き。居間や茶室などふすまで仕切られた多くの部屋、趣のある風格が漂い大名文化の世界を実感することができる。

中央に建つ能舞台は、江戸時代の表御殿の中で現存する唯一の建物。明治以降、他の場所に移されていたが、博物館の建設にあわせて戻された。能や狂言などの公演が定期的に行われている。

奥向きに面して造られた庭園も、発掘調査により復元された。古絵図に描かれた樹木・燈籠・手洗鉢などが再現されていて、四季折々に変化する風景をゆったりと楽しむことができる。

彦根屏風

正式には国宝「紙本金地著色風俗図」。彦根藩主井伊家に伝えられたため、「彦根屏風」の名がある。江戸時代寛永年間(1624-44)を代表する風俗図として知られる。本来は六曲の屏風であったと思われるが、まくりの状態では伝えられ、現在は額装されている。

全面に金箔を貼った空間に配置されたさまざまな姿態の15人の男女。当時の京の遊里、六条三筋町の様子と推定される。男女の表情や緊密な構成から、遊楽のもの憂い雰囲気を感じさせる。唐輪描をはじめとする多様な結い髪、絞りや摺箔をふんだんに使った華やかな小袖等、線描と賦彩は精緻を極め、一種なまなましい印象を与える。

南蛮貿易でもたらされて急速に広まった煙草。ペットの犬。琉球渡来の三味線や中国渡来の双六に興じる人々。中央手前の女性は、恋文をしたためている。漢画の伝統的テーマである「琴棋書画」の見立てであり、画中国画の屏風は室町末期を下らない本格的な漢画の技法をとる。卓越した素養と手腕をもつ画家の手になると考えられる。



井伊直弼大老像

コース概観

彦根は井伊氏の城下町、中山道の高宮宿や鳥居本宿の宿場町として盛えた。琵琶湖を望む小高い丘にそびえる白亜三層の天守閣、琵琶湖の水を引き込んだ堀、四季折々に情緒ある趣を見せる玄宮園、武勇を示す赤色をまとった最強の軍団井伊の赤備え、シンブルで大胆な構図の彦根屏風に会いたく、紅葉に照らされ秋色に染まった彦根城を訪ねてみた。

JR彦根駅下車。井伊直政の勇ましい騎馬像が出迎えてくれる。井伊直政は徳川四天王の1人、井伊の赤備えと恐れられ常に徳川軍の先鋒を務めた。関ヶ原の合戦の大功により、石田三成の佐和山城を与えられたが、合戦で受けた傷がもとで42歳の若さで一生涯を終えた。まっすくのびる「駅前お城通り」を少し歩くとお城が見えてくる。彦根護国神社には「花の生涯」で知られる大老井伊直弼の歌碑が建つ。

あふみの海 磯うつ波の いく度か 御世にころを くだきぬるかな
安政七年正月、正四位上左近衛中将の正装をした画像に、この和歌を讀して井伊家菩提所清涼寺に納めた。三ヶ月後の3月3日、江戸城桜田門外で凶刃に倒れた。不遇の青年時代を過ごした「埋木舎」が護国神社の裏に残る。

世の中をよそに見つても埋もれ木の 埋れておらむ 心なき身は
藩主の十四男として生まれ、一生「部屋住み」のまま世の中に埋れていく身であったが、ここ埋木舎で茶道・居合・禪・能・歌道に打ち込み、後に腹心になる国学者の長野主膳や村山たか女に出会った。

「いろは松」を見る。佐和口多聞櫓と中堀が現れ、白い堀に圧倒される。二の丸佐和口門から入る。両側に並んだ櫓を佐和口多聞櫓という。佐和口門という櫓門があり、両方の櫓はこの門の上で続いていた。西側の櫓は佐和山城から移された建物で重要文化財。東側の櫓は昭和三年に井伊大老百年祭記念事業として復元されたもので、市民ギャラリーとして利用されている。

彦根藩主の駿馬十数頭が飼われていた御馬屋がある。現存する遺構は珍しい。こけら葺きの美しい稜線をもつ屋根と、白壁に彫子下見板張りの外周との調和が素晴らしい。
平成16年2月に掛け替えられた表門橋を渡ると表門跡。表御殿を復元した彦根城博物館がある。表門と相對する位置に大手門が設けられている。二つの門は、時代の経過と共に、その役割を変え、築城時、大坂への備えとして大手門が南に設けられた。豊臣家が亡びると、江戸向きの表門が大手門の役割を担った。
大手道と表門道は天秤櫓下で合流する。ここは彦根山の尾根を断ち切って造られた堀切となっていて、堀の底を歩いてい



る。彦根城の縄張りには、姫路城のように渦郭式の曲輪配置ではなく、標高163mの彦根山の尾根に沿って主な曲輪を直線上に配置する連郭式が採用されている。天秤櫓と鐘の丸の間の堀切に掛けられた廊下橋の下を通り、左側の石段を登って馬出曲輪の鐘の丸の方へ廻り込むと、重要文化財の天秤櫓正面に出る。廊下橋のたもと近くに与謝蕪村の句碑がある。

踏すしや彦根の城に雲かかると
天秤櫓は長浜城大手門を移築したという。廊下橋を中心に左右対称に櫓が並ぶ姿が、

天秤に似ていることから名が付いた。

さらに坂道を上り廻り込むと、重要文化財の太鼓門櫓に突き当たる。本丸の表口を固める堂々たる風格。東側に壁が無く、登城合図の太鼓を置いた。佐和山城の城門を移築したと考えられている。

本丸には付櫓を持つ複合式三層三階の天守がそびえる。国宝四天守閣の一つ。牛蒡積の石垣の上に、白亜の壁、漆塗りの唐破風に金箔押し飾り金具を付けた美しい姿で輝いている。内部に入り天井を見上げると美しい曲線の梁が縦横に走る。匠の技に目を見張る。「井伊年譜」は、「天守は京極家の大津城の殿守也」と記す。着見台（月見櫓）から城下町を見る。鈴鹿の山並から琵琶湖まで湖東湖北の眺望を楽しむ。

天守閣を後ろに見ながら西の丸へ進む。多聞櫓に連なる重要文化財の三重櫓がある。小谷城からの移築と伝える。

城山をくだる。黒門橋で内堀を越え藩主の下屋敷菜々園に向かう。菜山菜水、民楽しむ後に楽しむ。延宝五年（1677）四代藩主井伊直興の造営。大老井伊直弼は、この屋敷で生まれた。大書院、地震の間、雷の間、菜々の間等が残る。

隣接する玄宮園は、唐の玄宗皇帝の離宮になぞらえた下屋敷の大池泉回遊式庭園。天守閣を背景に、池に突き出すように臨池園が立ち、築山には賓客をもてなすための客殿鳳翔台がある。瀧、相八景にちなんだ近江八景を模してつくられている。紅く彩られた彦根城の秋の情緒を楽しむ。今度は、中堀にかかる京橋から南へ向かう。切妻屋根の町家風建物に統一されたお食事処や土産物屋が並ぶ。

コースV

彦根駅（15分）彦根護国神社―表門―彦根城博物館―天秤櫓―太鼓門櫓―天守閣―着見台―黒門―菜々園―玄宮園―夢京橋キャッスルロード―彦根駅

△地形図▽2万5千≡彦根東部
△費用▽

埋木舎観覧料	3000円
彦根城・玄宮園観覧料	5000円
彦根城・彦根城博物館セット券	9000円
（問い合わせ先）	
彦根市観光課	0749(30)61200
彦根城博物館	0749(22)61000
彦根観光協会	0749(23)00001

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑩

「タコラ山」

西尾 寿一

その昔、大阪の大登山家、仲西政一郎さんに地形図を何枚か送り、地名を書き入れてもらったことがあった。その際、仲西さんはずいぶんたくさん山や谷の名と共に峠・タワなどの名前も書き入れてくださった。その図面は今でも貴重な宝物のように大切に保存している。

そのうちの一枚「名張」図幅には実にたくさん不思議な土俗的な地名があるのに気づいていた。

おそらくそれらは土着の方言に近いもので、仲西さんは自分の足で聴き取りを続けられた結果に違いなかった。

その中に「タコラ山」が四個もあり、カタカナ表記のままだから、聴き取りの際にも意味が理解できなかったものと思われる。同じ地名が何個もあり、しかもカタカナ表記のままだから口伝であり、どこかの資料の写しでは無いことがわか

る。これはいかなる意味をもつ名称なのか、長い間気にかかっていたながら日を経て今日に至る。まずこの名称について特徴をいくつかあげる。

- 一 漢字化される以前のローカルネームであり、口伝地名の可能性が高い。
- 二 同じ名称の地が一定の地域に点在している。
- 三 この名称の土地は、低湿地や開拓地などではなく、丘陵または高地である。
- 四 この地名の所在地は、村落および社寺とは無関係とみられる。
- 五 この地名は高い山頂を意味せず、他の山のスロープ状の部分にも存在する。
- 六 登山者が登行意欲をもつ対象とはなりにくい。

以上の要件を満たす山となれば、登山者とは縁が薄く、どうでもよい山とうつるかも知れない。

まず例によって手持ちの地名辞典の類を片っ端から開いてみるが不調である。何処、有名山岳でもなく登山者の好む山

以上の二例が最後まで残ったが、決定的なものでは得られずには過ぎた。

そのうち地名辞典で、「太郎」が山間の小平地、もしくは少し弛んだ野に近い平地を指すことがわかり、曾爾の太郎生が地形語である可能性が出てきた。つまり高地性集落らしい。

続いて、三多気が怪しくなった。ミタキのうちミは美称であるなら、タキが残る。この語も崖地であり、露岩や崩土をもつ雄大な山地もしくは広義の瀑布とあるから、大洞山がそれに概当する。

三多気をミタケと読む場合にはさらに御嶽信仰とつながってくる。三多気という高地性集落が何によって成立したかによってその謎が解けるだろう。現在、眞福院が三多気の奥にあるが、それ以前に大洞山に御嶽信仰がなかったか調べる必要が出てきた。

何気なく「地名風土記」(池田末則著)の頁をめくっているうち、短かいながら決定的な部分が発見することになる。つまり、「吉野郡内では、高原が「タカラ」に、ついで「タコラ」に転じた(母音交

替)例もみられる」という一文である。

高原・タカハラがタカラになり、ついにタコラに転じるとは鮮やかな展開である。一方、タコラは吉野だけでなく他地方でも存在するが、その全てをこの説で説明できるとは限らないが、説得力のある解釈である。

タコラ地名の地形的特徴をこの説に当てはめてみて、成程と納得する場面は「高原」であった。これを「コウゲン」と読むのは現在である。

前にも書いたが、タコラは山頂よりも、広い高原状の部分に指している。同じ地形の他の地域にも同じ名称を残す理由もこれで説明ができる。

タコラ山は本当なら山の字が不要であった。土地の人が山との交流のなかで一定の特徴ある地形の部分に名付ける、ごく一般的な名称だったのである。同じ名称が一定の場所に集中しているのも、そのことを物語るものだろう。

この説を展開すると飛騨の上宝村などは実態通りだし、九州の宝山なども高原の一角のピークであるから、全く同一の解釈ができる。

でもないからである。しかし、こんな山こそ山の実態をそのまま現代に伝えているはずだし、調べ甲斐のある山である。

その後、昭文社の山と高原地図「赤目・俱留尊高原」(調査・執筆、高田榮久、現在廃刊)を見て驚いた。この地図には「タコラ山」がたくさん記載されているからである。しかも、いずれの山も登山の対象にならない目立たない山ばかりなのである。山名探索の意欲もそがれがちになるが、実はここからがおもしろいところなのである。

高田氏の登山地図の中で一山のみ「多古良山」とルビの振ってある山がある。小太郎生岩の奥山である。その山の東にはタコラ谷があって中山を水源とする一帯は南に急崖を成しているものの、上部やラコラ山は、その地形的特徴を源流とする地形語ではないかと思われるが、他の要因も完全に否定できなかった。

- 一 タカラ等の鉾山関係用語
- 二 高原状の土地、高地を指す方言

山の本紹介 9月新刊

西内正弘著
「ハイキングマップで歩く
鈴鹿の山 万能ガイド」

中日新聞社刊
B5判・240ページ
定価1800円(税込)

前作「地図で歩く鈴鹿の山」の姉妹本です。本書と合わせて240山(約460ルート)を収録し、鈴鹿山地のハイキングルートをほぼ集大成した最終版です。「鈴鹿五十名山」「三角点巡り」「三百山ピークハント」「東海自然歩道」「山麓でくたく旅」の五部構成にカラー口絵16頁を加えて内容豊富。
*書店販売のほか著者販売も行います。
(送料着者負担・代金後払)

〒510-0302
津市河芸町千里ヶ丘32-18
(電・F) 059(245) 3730
西内 正弘

特選コースガイド① 福南若狭

(里山シリーズ36 敦賀)

野鳥轉る静かな尾根道

小河口から夕暮山

一般コース(★)

長宗 清司

敦賀市街から、国道8号線を南下してJR小浜線をくぐり、約5kmの所にある集落「小河口」バス停が、今回の出発点である。

登山口は、これより約900m尾根道を入った関電の巡視路からだ。そこまでは軽自動車が入れる程度の林道(離合不可)なので、もしもマイカーで来て駐車が必要ならば、国道付近の民家をお願いするしかない。

小河口バス停から、国道と直角の林道に入り、養蜂場を右に見ながら笹の川に架かる橋を渡る。JR北陸本線の下り線のガードをくぐり、さらに上り線の踏切を通過すると、農家の横に出る。

林道はここで二分するが、今日のコースは右の道をとる。やがて、金網で囲った施設(うり坊(猪の子)を飼育、運動させて、猟犬の訓練に役立てる)を過ぎると、青い屋根の小屋がある。この先で関電の巡視路に入る三差路に着く。左折。巡視路は、始め約500m程幅広い林道を歩くが、やがて袖道となり谷筋に入る。

このあたり、道はやや不明瞭になるが、踏み跡や先人の付けた赤テープを確かめながら、左の小さな流れを渡り、左の支尾根に取り付く。あとは鉄塔への急登をジグザグに登る。

やがて、頂上に最初の鉄塔が見え、容易にたどり着く。二番目の鉄塔へは荒地を直登する。ここからは第三鉄塔の位置がわかる。ゆるやかな尾根道に入り、展望が利く所からは、小河口集落や国道対岸の山々が見え、天気が良ければ、その奥に福村ヶ岳が望める。

尾根道はさらに歩きやすくなり、三番目の鉄塔が立つ地点は、やせ尾根の小さな鞍部で、左右の景観も展げ、風の通る心地よい地点である。右には、敦賀の市街地西部が眼下に望め、野坂岳の雄姿も



第二鉄塔から第三鉄塔を見る

視界の端に入る。

標石「岩籠」の三角点標373・5はここから約100m先の草むらにあって、見落とすところだった。関電の巡視路は、この先約150m程で右にくだが(記しは無い)、今日のコースはこのまま尾根を直進する。

水平だった尾根道が急登になり、花崗岩塊がゴロゴロと点在する地点に差しか

かるが、決して危険ではなく登り難くもない。登り切った所は、小さな岩の上の展望台である。左前方には岩籠山の雄姿が眺められる絶好の休憩場所だった。

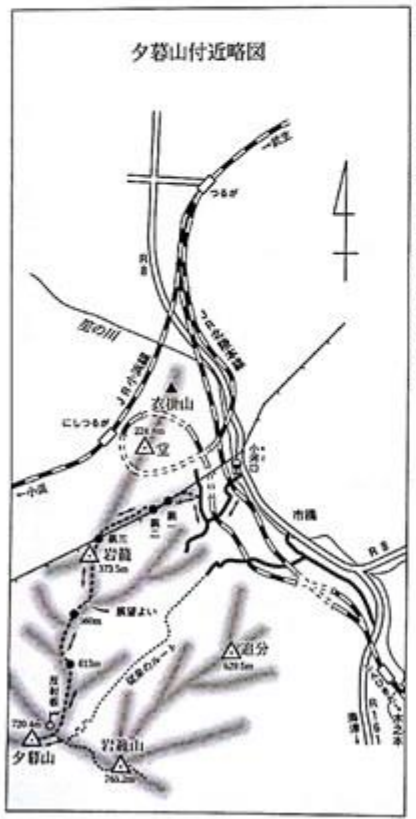
560を過ぎて次の小ピーク二つと613はピークを避けて腹巻き道を行く。夕暮山の反射板がちらほら望めるあたりからブナの木が目立ちだした。若葉や紅葉の季節には周囲の色に染まりそうな樹林風景である。

終わりは、胸高のササのなかを突き抜けて、岩籠山と夕暮山を結ぶ縦走路にポンと出た。夕暮山の反射板下へは、ここから右へ、上り5分で着く。三角点は少し先にある。

帰路は、往路を引き返すが無難で、今一度、見落とした所を再確認しながら下山するのがよいだろう。



登山道沿いのブナ巨樹



夕暮山付近略図

健脚の人は、市橋へとくだる従来の谷を巡る道をとるか、夕暮山からさらに西にくだって、「山」集落からJR小浜線の西敦賀駅か栗野駅に出るのもよい。現在、岩籠山のインディアン平原から、国境スキー場への長い尾根を調査・開発中なので、将来は、途中で新正田駅への下山も可能になることを付記しておく。(平成18年6月3日歩く)

▲コースタイム▼
JR敦賀駅(タクシー10分)小河口(15分)登山口(20分)第一鉄塔(25分)第

二鉄塔(10分)第三鉄塔(5分)岩籠三角点標(8分)巡視路との分岐点(20分)岩上展望台(20分)560(30分)反射板確認地点(30分)岩籠山と夕暮山縦走路(5分)夕暮山反射板下(2時間)小河口バス停
△地形図▽2万5千Ⅱ敦賀・駄口(問い合わせ先)
敦賀市役所(商工観光課) 0770(21)1111
敦賀市観光協会 0770(22)8167
敦賀タクシー 0770(22)1414

航空灯台のあつた山

くがやまにしきたやま
久我山(西北山)

初級コース(★)

柴田 昭彦

山と高原地図「御在所・鎌ヶ岳」(昭文社、2002年版、絶版)を見ると、JR関西本線に沿って、航空灯台が二ヶ所に見つかる。これは、5万分の1地形図「亀山」(昭和12年第二回修正測図)に初めて記載されており、戦前に設置されたものであることがわかる。

昭和8年、東京・大阪間十六ヶ所、大阪・福岡間二十四ヶ所に航空灯台が完成し、中島P1型郵便専用機が夜間飛行を行っていた(山口修「航空郵便沿革史」郵政事業史論集第一集、ぎょうせい、昭和60年)。(岡山精助「日本航空郵便物語」日本郵政出版、昭和61年)。

当時、飛行ルート沿いに設置された航

空灯台の多くが山中深い高台にあり、日没になると自動点灯する装置が付けてあったので、その怪しい光を見て、各地でキツネの嫁入りや鬼火伝説が巻き起こったりしたという。

昭和7年には富士塚(横浜市泉区)と伊豆十國峠に、昭和8年には平塚市(神奈川県)と知多本宮山(愛知県)に航空灯台が設置されたといひ、関町(現亀山市)の二ヶ所の航空灯台も同じ年代の設置であらうと思われる。

二ヶ所のうち、三重県亀山市・伊賀市境にある大柚山(標高428㍎)については、西内正弘「地図で歩く鈴鹿の山」ハイクング100選(中日新聞社、2003年)によいガイドがあるので参考にするとよい。このガイドの中の湖畔の喫茶店ムースは今では閉鎖されている。大柚山直下の祠に祀られた役行者像は、昭和に入って山が削られるまでは、旗山(標高649・5㍎、米相場の旗振り山)に祀られていたという(池田裕「伊賀忍者的真説49の足跡」平成13年)。大小二体のうち、小さい像は別の場所に移されたという。もう一つの航空灯台のあつた山は、亀山市関町の4等三角点「久我」(標高29

久我山の山頂のプレート



4・1㍎)である。この山は、関町郷土調査会編集「関町郷土誌」(昭和12年)の「関町略図」には「久我山」と明確に記載されている。

JR関町で下車。駅の観光案内所で「関宿イラスト案内図」をもらい、駅前(歩道橋脇)の鈴鹿茶房司店でもオリエンテーリングのための「関宿コース」の地図

(100円)を入手すれば、準備OKである。ただし、この地図の久我山への登り口は曖昧で、荒れた道しか記入していないことを付け加えておこう。

関町から北へ向かい、右に「くらぞう」が現れると東海道筋に出合う。左折して、関宿のまちなみを楽しみながら、西道分へ向かう。休憩施設でトイレも利用できる。



ら南下して大和街道(国道25号線)をたどる。川沿いに歩くと正面に三角形の久我山が見えてくる。左手に休憩所がある。大和橋を渡ってすぐ、左手の西畑橋を渡る。道なりに進み、亀山市関宿衛生センターのそばを過ぎて、上り坂となった、最初の切り通しに着く。右側のブロック壁が途切れてすぐの場所に登り口がある。ここに字名の表示が見られる。左に上がり、道はトラバースしながら右の尾根に向かって上がってゆく。足下にシダ類が茂るが、やがて小さなピークに着く。

小さなピークと、そのままくたて行つた先の鞍部には、おもしろい形の岩が見られる。鞍部には左右に道があるが、久我山へは尾根道をたどる。まっすぐに進み、杉林のなかの道を上がって行く。

途中で見上げるような急坂がある。左右に岩が見える場所、まっすぐに登ると足下が危ないので、手前の足下に苔のある地点で、左に横切ってから右に登るとよい。

ほどなく、久我山の山頂に着く。この樹木に付けられたプレートには「西北山」(マウンテンキッド)という表示がある。点の記には「関町大字久我山西北山」

とあることから採用したものなのだろう。先に紹介したように、昭和12年に地元で出された郷土資料の地図には、標高294㍎の山に「久我山」と明確に記載されており、航空灯台の設置されていた時代の呼称であった。現在では、山名が忘れられているのであろう。

久我山の山頂には、大柚山の山頂ほど明瞭ではないが、三つの穴の痕跡が残っている。戦前に航空灯台があった証明となる。しばしのタイムスリップ体験ができるだろう。

元の道に戻り、南へ茶畑の間を抜けて、名阪国道の前に出る。道なりに北東に向かう。少し薄暗い道だが、やがて明るくなり、快い田園地帯に出る。久我橋を渡り、線路と国道を横断する。北に進むと途中で道は行き止まり、右に少しずれて再び、北に向かう。東海道のまちなみに出て右折し、関町に戻る。

(平成18年6月10日・17日歩く)

久我山コースタイム

JR関町(50分)登り口(35分)久我山(25分)登り口(1時間)JR関町
△地形図V2万5千II亀山・鈴鹿峠

すばらしい自然林の尾根を行く 伊賀谷山から八丁平

中級コース(★★)

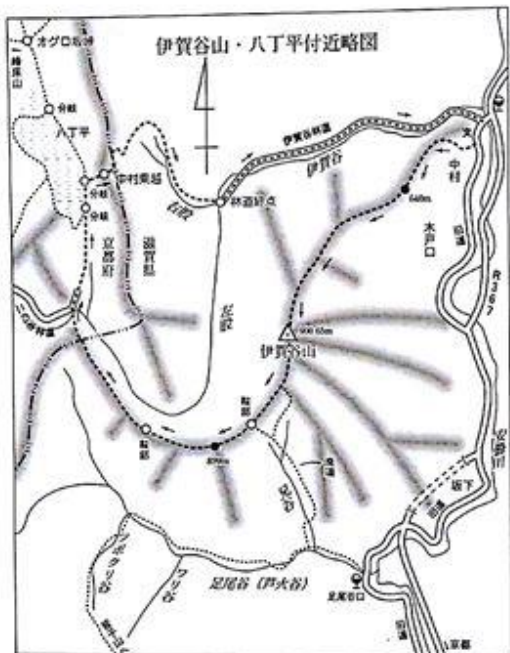
金谷 昭

伊賀谷山は安曇川の木戸口と中村集落の西背後にそびえ、安曇川支流の伊賀谷を北側に、足尾谷を南側に挟まれた山塊で、比良山から見ると、その山容は台形をなしている。東に比良山、北に峰床山と鎌倉山、南に皆子山と有名峰に囲まれて目立たない存在で、登る者も少なくいわゆる不遇の山となっている。

古米地元では、この山の南の足尾谷(野火谷)の安曇川出合との最後の支流、兄谷から足谷(山)、また大倉山と呼ばれていた。後になって登山者が名付けた伊賀谷山が一般化した。伊賀谷からの命名なら「伊賀谷の頭」と呼ぶべきであろう。



伊賀谷山山頂の三角点



3等三角点
900.65
点名置

に適している。こんな山でも登る者がいるらしく所どころの木に赤テープが付けてあり、そのうち滋賀興造林公社のプラスチックやコンクリートの境界が出てくる。下山時にもこの東北尾根を使うなら、杉林と雑木林との境界を忠実にたどり、最後は右の杉林に入ればとくに問題は無い。

快い雑木林と杉植林との境界を緩急を交えながら徐々に左(南)に振って登って行くと、杉植林は檜林に変わって南北に長い頂上台地になる。南行すると最高部ではないが、広い平地に伊賀谷頂上を示す三角点が出てくる。

3等三角点
900.65
点名置

頂上から南に向かう稜線には踏み跡と赤テープが付けてあり、明瞭な尾根で見通しの利く目であれば特に読図の必要もないぐらいである。東側の雑木林にはナラ・クヌギ・クリに混じってブナの巨木が出てきて、すばらしい樹林美を演出する。またイワカガミがぎっしりと生えている稜線は徐々に右(西)に振り、尾根はやせてきて南面の展望が利き、蓬萊山の頂上から南比良の霊仙山、そして琵琶湖や皆子山まで望めるようになる。少人数なら頂上よりもここでの展望を前にしての昼食休憩が優れている。

次の899m峰に向かって檜植林のなかを急下降する。下り立った最低鞍部は以前は見谷を通行したとどろき着いた所だが、当時の雑木林は檜植林に変わり、往時を偲ぶすがすがしい。最低鞍部からの急な登り返しは特に問題はなく、899m峰の小高い頂上と北側の檜林と雑木林との境界に沿って右に折れ西に向かうが、

以前は足尾谷口でバスを降り、足尾谷に入ってから右の兄谷からやぶを漕いで登りつめて西支尾根に登り、東に縦走して主尾根から頂上に達していた。さらに東北尾根を中村に下山していたが、現在兄谷から登る者は少なく、中村からの東北尾根が登路となっている。他に伊賀谷林道終点から西北尾根をたどるルートもあるが、やぶ漕ぎの熟練者向きとなっている。

今回、中村から東北尾根を伊賀谷山に登り、西にのびる主尾根を縦走して二の谷林道にくだり、高層湿原の八丁平に行き、中村乗越から伊賀谷にくだって出発地の中村に戻る周回コースを紹介する。

中村バス停より安曇川の橋を渡って旧道に入り、小学校前を南に行くとブールの南に舗装路が山裾の杉林に上がっている。これをたどると杉林の手前で車道は終わり、袖道入口の杉に赤テープが付いている。急傾斜の山腹に付けられ、最近あまり使用されていない袖道を行くと分岐が出てくる。右をとってしばらく行くと道は消えてしまうが、幸い下生えは無く急斜面だがどこでも歩ける。上部の

中村乗越から伊賀谷山と西尾根899m峰(右)



明るい東北尾根の稜線を目指して急登する。

稜線に出ると西側(伊賀谷)は快い雑木林となっており、ここから稜線東側の杉林との境界を登って行く。標高点640m地点でやっと傾斜がゆるみ、少休憩

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄
 ▽奈良交通所長お薦めハイキング
 「紅葉の談山神社と飛鳥路を歩く」
 11月3日 祝小雨決行(集合) 桜井
 駅南口9時〜9時30分(コース)
 桜井駅(バス) 談山神社(京都府)
 既神社(石舞台) 伝馬島警察署跡
 一飛鳥寺(山田寺跡) 阿倍文殊院
 土舞台(桜井駅) (約12分) 一般回
 参加自由・無料(バス代460円、
 は各自払。拝観料等は別途、
 奈良営業所07445(82) 22
 01
 ▽駅長お薦めフリーハイキング
 「万葉の風を感じてかぐや姫伝説
 と壬辰散策巡り」 10月4日(出雨
 天決行(荒天の場合は11月5日(回
 に延期) (集合) 大和高田駅9時
 30分〜11時(コース) 大和高田駅
 一南郷環濠集落(山王神社) 馬見
 丘陵公園(竹取公園) かつらぎの
 道(五位堂) (約12分) 一般回*係
 員は同行しません) 参加自由・無
 料(拝観料等は別途、大和高田
 駅07445(52) 24114
 ▽近鉄万歩ハイキング「露田林」
 11月5日(出雨天中止(集合) 河内
 国分駅9時30分〜10時(コース)
 河内国分駅(高井田横穴古墳群)
 雁多尾畑(龍田大社) 王寺駅(約

12分) 一般回) 参加自由・無料(拝
 観料等は別途、近鉄大阪イベン
 ト係06(6775) 3566
 ▽奈良交通所長お薦めハイキング
 「紅葉の西大台周遊コース」 11
 月6日(出雨天中止(中止の場合は
 11月7日(例)に延期) (集合) 大和
 上市駅8時30分〜9時(コース)
 大和上市駅(バス) 大台ヶ原一経
 々峰分岐(逆峰展望台) 開拓跡
 七ツ池(大台ヶ原(バス) 大和上
 市駅(約8分) 健康回) 参加自由・
 参加費ガイド料300円(バス代
 往復4000円は各自払)、吉
 野営業所07447(52) 410
 1
 ▽駅長お薦めフリーハイキング
 「秋風に吹かれ紅葉狩りへ……ら
 くらく登山道を行く」 11月9日
 (出雨天決行(荒天の場合は11月17
 日に延期) (集合) 東花園駅9
 時30分〜11時(コース) 東花園駅
 一花園中央公園(枚岡神社) 枚岡
 山展望台(らくらく登山道)
 らくらくセンターハウス(都賀山
 駅) (約9分) 健康回*係員は同行し
 ません) 参加自由・無料(拝観料
 等は別途、八戸ノ里駅06(6
 788) 0866
 ▽近鉄・南海・朝日合同企画「露



伊賀谷山山頂

ここは南の尾根に入りやすいので要注意
 である。この峰を乗り越えて西尾根をゆ
 るやかにくぐって行くと、稜線両側共が
 雑木林に変わり、稜線北側にシヤクナゲ
 の群落、また稜線足元にはイワカガミ
 の群落が出現する。ゆるやかにくぐった
 鞍部で、春ならこれらの花を愛でながら、
 しばしの休憩もよいだろう。
 このすばらしい自然林の鞍部を過ぎる

と南側に杉植林が出てきて少し下生えが
 出る。少し歩みにくくなるが最後の府県
 境界のピークに近づくと再び雑木林とな
 り、右下に八丁平に通じる二の谷林道が
 望めるようになる。このピークから林道
 に向かってくぐってよいが、やや南に
 振る稜線をさらに行き、次の鞍部から林
 道に向かってもよい。伊賀谷左股の源流に降り、徒
 渉してササやぶを漕ぎ分けると林道に飛
 び出す。ここから北に八丁平へ向かう林
 道はすぐ終点となって歩道となる。
 これが鯖街道の一つで、その道幅から
 六尺道と呼ばれ、古くから若狭から朽木
 久多を経てオグロ坂からこの道を京都に
 上る主要な交通路で、魚や炭などを積ん
 だ荷車も往来した由緒ある道である。ま
 た戦国時代に越前朝倉軍に敗退した織田
 信長が秀吉、家康と共に、この六尺道を
 通って京都に逃げ帰ったとの言い伝えが
 残っている。
 六尺道をたどり八丁平の東縁の中村乗
 越分岐に行き、時間が許せば現在京都市
 により環境保全されている貴重な高層湿
 原、八丁平の周遊コースを一周してもよ
 い。時間は約1時間程度である。

八丁平に別れを告げ下山になるが、分
 岐から中村乗越まではわずか10分程のゆ
 るい登りだ。この間もすばらしい原生林
 が続くので見納めに十分愛でよう。
 中村乗越から伊賀谷右股への下山路は、
 杉植林の成長で以前望めた比良武奈ヶ岳
 の雄姿は見られない。急降下して右股に
 沿ってくだると、伊賀谷二股の林道終点
 に下り立つ、あとは伊賀谷林道をのんび
 り歩けば出発地の中村小学校前に戻る。
 (平成18年5月14日歩く)

▲コースタイム▼
 中村(1時間10分) 640m地点(1時
 間) 伊賀谷山(10分) やせ尾根(15分)
 最低鞍部(15分) 899m峰(20分) 次
 の鞍部(10分) 府県境分岐(20分) 二の
 谷林道(25分) 八丁平中村乗越分岐(10
 分) 中村乗越(45分) 伊賀谷林道終点
 (40分) 中村
 ▲地形図V2万5千II花青
 *道標は八丁平付近を除いて無し、テー
 プはあり
 (問い合わせ先)
 京都バス 075(871) 7521
 江若交通バス 077(573) 2701

△ 郡山駅 9時30分、11時(コース) 郡山駅—総合公園—矢田寺—東明寺—自然公園—子供の森—榎木山弘法大師堂—南生駒駅(約12分) 一般向・係員は同行しません。天理駅 0743 (62) 0024

▽ 郡山駅 9時30分、11時(コース) 郡山駅—総合公園—矢田寺—東明寺—自然公園—子供の森—榎木山弘法大師堂—南生駒駅(約12分) 一般向・係員は同行しません。天理駅 0743 (62) 0024

▽ 郡山駅 9時30分、11時(コース) 郡山駅—総合公園—矢田寺—東明寺—自然公園—子供の森—榎木山弘法大師堂—南生駒駅(約12分) 一般向・係員は同行しません。天理駅 0743 (62) 0024

▽ 天野街道から天野山金剛寺を訪ねて 11月23日(雨天決行)(荒天の場合は11月29日(水)に延期) 〔集合〕河内長野駅 8時30分、10時30分(コース) 河内長野駅 寺々池公園—(天野街道)—天野山金剛寺—府宮公園—天野山地区—花の文化園—鳥羽形公園—河内長野駅(約15分) 健脚向・係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、富田林駅 0721 (23) 2014

▽ たかとり城まつり 2006 城攻めウォークラリー—高取城VS天誅組 11月23日(雨天中止) 〔集合〕高取山駅 9時15分、10時15分(コース) 高取山駅—(土佐街道)—城まつり会場—奥門—国見橋跡—高取城跡—(高取寺)・城まつり会場・キトラ古墳—高取山駅(約12分) 健脚向 参加自由・無料(拝観料等は別途、高取町観光案内所「夢創館」 0744 (52) 1150

▽ 読売ふれあいハイキング「紅葉の宇治周遊」 11月26日(雨天中止) 〔集合〕小倉駅東側公園 9時30分、10時(コース) 小倉駅—宇治橋—宇治上神社—宇治下神社—塔の島(十三重石塔)—

平等院—橋原神社—小倉駅(約15分) 一般向 参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566

▽ 奈良交通観光バスフリーハイキング「矢田丘陵遊歩道ハイキング」 11月26日(雨天決行)(集合) 生駒駅南口 9時30分、10時(コース) 生駒駅(バス) 小瀬福祉センター—生駒—橋原—廣望—広場—福盛寺—小瀬保徳寺—生駒(バス) 生駒駅(約8分) 一般向 参加自由・無料(バス代往復4200円は各自払い。拝観料等は別途、北大和営業所 0743 (78) 5368

▽ 近鉄・宇陀市橋原観光協会合同ハイキング「伊勢本街道から登山の奇岩を訪ねて」 12月3日(雨天決行)(集合) 橋原駅 9時30分、10時(コース) 橋原駅(バス) 高井—千本杉—諸木野間所跡—平井大師—橋原—立石—寝石—内牧西口(バス) 橋原駅(約12分) 一般向 参加自由・無料(バス代往復7000円は各自払い。拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566、宇陀市橋原地域事務所観光課 0745 (82) 1301

▽ 近鉄万歩ハイキング「藤原京」 12月9日(雨天中止)(集合) 橋原神宮前駅 中央改札 9時30分、10時(コース) 橋原神宮前駅—鞍馬山—山鹿(回遊)—本薬師寺跡—紀勢山—香久山山麓(回遊)—天香久山神社—藤原京(大和三山展望)—小房観音—今井町(町並散策)—八木西口駅(約12分) 一般向 参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566

▽ 郡山駅 9時30分、11時(コース) 新祝園駅 9時11時(コース) 新祝園駅—常念寺—祝園神社—橋井大塚山古墳—泉徳寺—和泉式部の墓—山田川駅(約12分) 一般向・係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、新田辺駅 0774 (62) 0058

▽ 京阪電車 京阪電鉄創立100周年記念、紅葉めぐりスタンプラリー「天ヶ瀬ダムから仏徳山へ」 11月23日(雨天決行)(荒天は中止)(集合) 京阪宇治駅 9時30分、10時

△ コース 宇治駅—塔の島—天ヶ瀬ダム—天ヶ瀬ダム—天ヶ瀬森林公園入口—志津川—(東海自然歩道)—仏徳山展望台—宇治上神社—宇治南駅(約9分) 一般向 参加自由・無料 *すべてのチェックポイント通過(スタンプ押印) 者に記念品贈呈(京阪電車ハイキング担当 06(6947) 3702

▽ スポニチファミリーハイキング「瓜生山から曼珠院・鷲森神社へ」 11月26日(雨・30日(雨)小雨決行(集合) 百万通知恩寺境内(出町柳駅下車約10分) 9時30分、10時(コース) 出町柳駅—百万通知恩寺(受付)—吉田山—真如堂—銀閣寺前—北白川仕伏町—瓜生山—曼珠院—鷲森神社(ゴール)—修学院駅(約11分) 一般向 参加自由・無料 京阪電車ハイキング担当 06(6947) 3702

▽ 近江坂・大御影山 11月2日(雨天中止)(集合) JR安曇川駅 9時5分(コース) 安曇川駅(バス) 登山口—滝谷山分岐—大御影山—近江坂—林道出合(バス) 新庄溪流の里(バス) JR近江今津

▽ 天野街道から天野山金剛寺を訪ねて 11月23日(雨天決行)(荒天の場合は11月29日(水)に延期) 〔集合〕河内長野駅 8時30分、10時30分(コース) 河内長野駅 寺々池公園—(天野街道)—天野山金剛寺—府宮公園—天野山地区—花の文化園—鳥羽形公園—河内長野駅(約15分) 健脚向・係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、富田林駅 0721 (23) 2014

▽ たかとり城まつり 2006 城攻めウォークラリー—高取城VS天誅組 11月23日(雨天中止) 〔集合〕高取山駅 9時15分、10時15分(コース) 高取山駅—(土佐街道)—城まつり会場—奥門—国見橋跡—高取城跡—(高取寺)・城まつり会場・キトラ古墳—高取山駅(約12分) 健脚向 参加自由・無料(拝観料等は別途、高取町観光案内所「夢創館」 0744 (52) 1150

▽ 読売ふれあいハイキング「紅葉の宇治周遊」 11月26日(雨天中止) 〔集合〕小倉駅東側公園 9時30分、10時(コース) 小倉駅—宇治橋—宇治上神社—宇治下神社—塔の島(十三重石塔)—

平等院—橋原神社—小倉駅(約15分) 一般向 参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566

▽ 奈良交通観光バスフリーハイキング「矢田丘陵遊歩道ハイキング」 11月26日(雨天決行)(集合) 生駒駅南口 9時30分、10時(コース) 生駒駅(バス) 小瀬福祉センター—生駒—橋原—廣望—広場—福盛寺—小瀬保徳寺—生駒(バス) 生駒駅(約8分) 一般向 参加自由・無料(バス代往復4200円は各自払い。拝観料等は別途、北大和営業所 0743 (78) 5368

▽ 近鉄・宇陀市橋原観光協会合同ハイキング「伊勢本街道から登山の奇岩を訪ねて」 12月3日(雨天決行)(集合) 橋原駅 9時30分、10時(コース) 橋原駅(バス) 高井—千本杉—諸木野間所跡—平井大師—橋原—立石—寝石—内牧西口(バス) 橋原駅(約12分) 一般向 参加自由・無料(バス代往復7000円は各自払い。拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566、宇陀市橋原地域事務所観光課 0745 (82) 1301

▽ 近鉄万歩ハイキング「藤原京」 12月9日(雨天中止)(集合) 橋原神宮前駅 中央改札 9時30分、10時(コース) 橋原神宮前駅—鞍馬山—山鹿(回遊)—本薬師寺跡—紀勢山—香久山山麓(回遊)—天香久山神社—藤原京(大和三山展望)—小房観音—今井町(町並散策)—八木西口駅(約12分) 一般向 参加自由・無料(拝観料等は別途、近鉄大阪イベント係 06(6775) 3566

▽ 郡山駅 9時30分、11時(コース) 新祝園駅 9時11時(コース) 新祝園駅—常念寺—祝園神社—橋井大塚山古墳—泉徳寺—和泉式部の墓—山田川駅(約12分) 一般向・係員は同行しません。参加自由・無料(拝観料等は別途、新田辺駅 0774 (62) 0058

▽ 京阪電車 京阪電鉄創立100周年記念、紅葉めぐりスタンプラリー「天ヶ瀬ダムから仏徳山へ」 11月23日(雨天決行)(荒天は中止)(集合) 京阪宇治駅 9時30分、10時

やせらぎ

せせらぎ投稿欄(87号)に興味あるレポを読んだ。
白山は「岩間の噴泉塔群」への温泉行、期待はずれの暇もしつかりと湯を楽しんでる。
私は、この天然温泉に三度出向きながら、思いは達せられていない。理由は簡単なこと、4月で残雪がいっぱい。落石、雪渓で岩間温泉湯元まで近づけなかったのだ。
山形氏の「一人占め、廻りを見れば一人だけ」の句に惹かれ、道の開く6月に花見の温泉へと心が動く。
残雪、妖精、芽吹き、陽光、囀り、露天温泉、甘露甘湯で青をのぼす。
(鈴鹿市 簡井克治)

今年の梅雨は、週末にことごとく降られ、晴れ間を見計らって山へ向かうが、道はどこも不通になっていた。
三ノ峰登山口への道は、鳩ヶ湯手前で山の斜面がそっくり道路上に移動し、大きな木がまっすぐに立っていた。奥には取り残された数台の車が見えた。
白山登山口の市の瀬までの道も白峰でゲートが閉まり、数台の車が下山者を運ぶに來ていた。山へ行けなくてイラついている友人から連絡が入り、猿ヶ馬場山なら白川郷の萩町から歩けば登れるだろうと出かけた。
観光用駐車場に車を置き、裏手の林道をジグザグに登るとカモンカのお出迎かえ。この道も

題字・小林玻璃三

土砂で埋まっているが難なく乗り越える。谷沿いの林道は堰堤で終わっていて堰堤横からやぶに入る。登るほどに急になり、斜面には小さな岩くずが堆積し、足はズルズルと流され止まらぬ。相棒もこりや駄目だと言うので戻ることにする。
林道をくぐる途中に分岐があり、それを行ってみるとその先に堰堤があり、左を捲く。この谷の上流、三本の支根根が合わさった所へ出ると、西からの林道が帰雲山へ通じている。山頂に大きなテレビアンテナが数本立ち、ケーブルで下の集落へつなげているのだ。
そこから三度沢を渡って猿ヶ馬場山へ登った。頂部は広大な台地状でオオシラビン樹林のなか、三角点を探すが見つからず、頂上もどこか見極めがつかなかった。
帰路わずかに人形山が見えるが、眺望は皆無。標高差1400mの長い道のりだけの山でこ苦労さんだった。
(熊谷市 山形 明)

7月2日、天候不良で甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳を止め、白山の加賀押定道を少し歩いた。雨は降ったり止んだり、花が多かった。来年は白山を中心に月歩き、2-3年かけて全てのルート歩いてみたい。
7月15-16日、槍ヶ岳に行った。15日は雨天と強風で登れず、16日に朝から登ってくださった。奥穂高岳への縦走は雨予報で止めた。槍平小屋で川止めめに遭い、奥丸山経由で帰ったが、濡れて歩いて疲れた。昨春秋に左僕から奥丸山に新ルートが出来ていたので助かった。
7月30日、例会で大目岳に行き、一服平にて主三岳点に出会った。
8月6日、例会で三界山に行き、一等三角点の少し前に御料局の境界線があった。
8月13-14日、鏡平から笠ヶ岳に行った。花は多く過去最高の1550を超える花と実を確認した。弓折から笠まで5時間余りしかかったが、弓折岳・私戸岳の三角点にも触れにくかった。クリア谷は長く歩きた。下りの錫杖岳を真下から見られたのはよかったが、また行きたい

駅(約8.5一般回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
▽神戸(ルシークウォーク)「慶線跡を歩いてみよう」11月25日(出雨天中止)集合 山陽別府駅10時(コース)別府駅→古代村(大中遺跡)→明石湾公園→山陽西二見駅(約9.5一般回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
▽火曜ハイイク「石の宝殿・元人間灯台跡コース」11月28日(出雨天中止)集合 魚屋遺登山口(有馬温泉駅下車)10時(コース)有馬温泉駅→魚屋遺→石の宝殿→奥池→元人間灯台跡→奥山浄水場→阪急魚屋川駅(約15.5健脚回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
▽木曜ハイイク「シブレス山コース」12月7日(出雨天中止)集合 木津駅10時(コース)木津駅→シブレス山→山田池→つくはら湖→藍那古道→藍那駅(約13.5一般回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
▽神鉄ハイイク「小六甲の秘境・鳴川源流探検コース」12月10日(出雨天中止)集合 箕谷駅9時35分

へコース 箕谷駅→討曲り→志久道→神戸青少年公園→鳴川上流部→志久道→箕谷駅(約16.5健脚回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
1
▽火曜ハイイク「菊水山・炭ヶ谷コース」12月12日(出雨天中止)集合 菊水山登山口(鈴鹿台駅下車)10時(コース)鈴鹿台駅→菊水山→鶴ヶ山→再度公園→徳川道→黄蓮谷→炭ヶ谷→谷ノ駅(約15.5健脚回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
▽木曜ハイイク「菊水山・鳥居野水池コース」12月21日(出雨天中止)集合 菊水山登山口(鈴鹿台駅下車)10時(コース)鈴鹿台駅→菊水山→鳥居野水池→ひよどり展望公園→滝原野池(約10.5一般回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
1
▽火曜ハイイク「紅葉谷・六甲最高峰コース」12月26日(出雨天中止)集合 ロープウェイ有馬温泉駅前(有馬温泉駅下車)10時(コース)有馬温泉駅→紅葉谷→六甲最高峰→七曲り→雨ヶ峰 風吹岩

1 阪急魚屋川駅(約13.5健脚回)参加自由・無料 神鉄グループ総合案内所078(592)4611
1
山陽電車
▽山陽ハイキング「明石公園・大蔵山遺跡ハイイク」11月5日(出雨天中止)集合 西新町駅下車、王子公園10時(コース)王子公園→明石西公園→明石公園→天文科学館→高馬川旧跡→朝霧→大蔵山遺跡→西舞子駅(約11.5家族回)参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520
0
▽山陽ハイキング「ノジギキ保存園・なきさ公園ハイイク」11月19日(出雨天中止)集合 山陽網干駅下車、揖保川河川敷右岸10時(コース)揖保川河川敷右岸→日本地蔵ノジギキ保存園→なきさ公園→グイセル異人館→山陽網干駅(約9.5家族回)参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520
3
1 2520
▽山陽ハイキング「お旅山・小富士山ハイイク」12月3日(出雨天中止)集合 妻籠駅下車、東0・5*松原八幡宮お旅所10時(コース)

1 松原八幡宮お旅所→お旅山→麻生神社→麻生山(小富士山)→中村公園→白浜の宮(約10.5健脚回)参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520
▽山陽ハイキング「舞子・垂水シーサイドから鉢伏山ハイイク」12月17日(出雨天中止)集合 舞子公園駅下車、舞子公園松林10時(コース)舞子公園松林→マリニピア神戸→塩屋→ふんすいランド→旗塚山→展望閣→子規・蕨の句碑→須磨浦公園(約11.5一般回)参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520
□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見てください。

山が増えてしまった。
(海津市 山田明男)

夏の青春18きっぷを利用して、ムーンライト九州で博多に行き、鹿児島に行き泊まった。
鹿児島に着くと、台風10号が来ていて言う。高千穂峰は無理でも開閉岳は登れそうだと、鹿児島中央駅から指宿線に乗り、山川駅でバスに乗り換えて開閉駅に行った。山は久しぶりなので自信がなく、各合目に着くたびに休憩した。六合目で百名山を目指しているという60歳位の人に会った。現在28山だそう

本にあるとおり右廻りで山頂に着いたが、蒸し暑いなんてものじゃあない。ほてった身体を冷やしたいが、指宿線は電車の本数が少ないのですぐに下山し、駅のベンチで30分寝た。山って重くて辛い遊びなんだろうと、年を重ねると共に思うようになってきた。
霧島神宮駅への途中で雨が降ってきた。宿に着くと、明日は完全に雨と言っている。やはり高千穂峰は駄目だと思ったが、夕

巨峰ぶどうを目の前にしたときには、皆子供のよう大喜びでした。
この小屋は、オーナーのポリシーでゆったりくつろげると聞いていたのですが、電話予約したとき、オーナーの竹内さんから「この日はコンサートがありましてね。混雑しますがよろしいですか」と念を押された。
コンサートとはいっても、地元の子供たちの音楽発表会くらいに考えていたのですが、なんとバロック時代の古楽器を奏でるプロの集団で、フルート・バイオリン・ファゴットのアンサンブルに女性のソプラノ歌手を加えた本物の演奏会でした。

この「夏の終わりのコンサート」はもう7年も続いていて、コンサートを目的に登ってくる登山者もいるということですが、バロック音楽ということ、私などふだんはBGでしか耳にしないのですが、大自然のなかで接するヘンデルやヴィヴァルディのバロック音楽は格別で、新鮮な感動を覚えました。
華麗な生演奏を聞きながら、ファゴット奏者の「いでたち」

クシーだけは予約して寝た。
翌朝、雨は降っていない。風が強くて高千穂河原から1時間30分なので何とかなると宿を出た。

最近の私は山ではなく史跡巡りばかりしているが、この高千穂峰に坂本龍馬とお龍が新婚旅行で登った話は有名。季節は初夏、お龍が山に登りたいと言いつつ、おやつにカステラを持って登ったそう。山頂に着いてみると、何か不思議なものが突き刺さっている。それは今私たちが見ている青銅で出来た逆鋒だが、この逆鋒をお龍が抜いてみたいと言っていると、供の者が、抜けば天から火が降ると止めたが、龍馬は笑いながら手伝わっていきしよに抜いてしまった。幕末の明日の命もわからない時代に何とかすがすがしい話だろう。龍馬とお龍のわずか3年の新婚生活の幸せなページだ。
その天の逆鋒を、台風の強風にあおられながら今見ている自分も、何て幸せなんだろうと思つた。
帰路、台風で大幅に列車が遅れていたが、宮崎から特急で小

がニッカポッカであることを見つけたら、また、つい先程、狭い洗面所の私の隣で、天水で髪を溶かしていた若い女性が名の通ったソプラノ歌手だったとわかったり、楽しくて心温まる時間を過ごすことができました。
(各務原市 鷺見守康)

山行短歌

6月21日 六甲再度山
ふたたびの夏ヤクソクし山下る
海辺の街はすみれ色に暮れ
6月28日 南紀百間山深谷
水のいろ流れよどみめ明暗に
涙こぼれるデュネスイスの森
7月4日 丹波笛吹山
まらうどの吹く笛の音に連れて
舞い顔かざしめ百合の群れ
7月10日 丹後金剛童子山
細川ガラシャを慰めたい海風よ
やぶ漕ぎ異邦人へ吹いてくれ
7月16日 但東高竜寺岳
小雨に煙り小天橋を見下ろせど
すがたなく沈黙する半島
7月31日 加賀白山
梅雨明けをましかねた白山の
クロユリは綺麗屋敷き詰めて
8月3日 白山室堂平
白山フウロよ白山コザクラよ

倉に出て、かろうじてムーンライト九州に間に合った。
(刈谷市 小出良春)

8月早々、広島県の二名山へ登った。山と溪谷社の「ふるさと富士百名山」にある似島の安芸小富士(2788)と、「中国百名山」にある江田島の古鷹山(3948)である。
しばらく山登りをしていなかったので脚力の衰えを懸念し、標高差3000前後の極低山を選んだが、真夏の酷暑下、これまでに経験しなかった厳しい登山だった。

前者は似島港(家下棧橋)から山頂へ、後者は古鷹山登山専用駐車場から三角点峰および主峰へ往復した。
えぐられた道や岩場の急登などは山登りには付きものなので覚悟していたが、30度を大きく超す猛暑で、脱水症状かと思われような激しい汗をかいた。お札類は財布の染料に茶色く染まり、万歩計も機能を失い画面が消えてしまった。二山共に上り下りは、標準タイムの2/3倍を要した。

短い夏のものいわぬ乙女たち
8月4日 白山御前峰
お日の出の光り輝く宙のはて
いかなる未来われらに待つや
8月15日 比良八瀬滝
白い翼のサギソウみつけたよ
飛び立てば湿原から消える花
8月20日 鏡山(宮下淳一君)
希望ヶ丘にノアザミの揺れる頃
君は歩いて行くどこまでも
(吹田市 木村太郎)

秋の歌・山河漫歩
ハマボウの花 咲き残る 櫛田川
思わず出会う 幸せの色
フルーツの香りがする と子供達
河口で捕んだ フクトの一枚
笹草を楯目に見つつ そそくさと
ズボン気遣い 道無き道を
夏過ぎて 茂みに潜み 時惜しむ
背筋路虫 雌黒豹紋
桐の実が突っついているよ その下で
薔に花咲き 秋風渡る
里山も 人手入らず 人知れず
猪も通わず 狸も通わず
峠道 欠々に見る 造化の妙
魔器の如き ツチアケビの実
ムカゴ探さ 昔の娘 二人居り
気さくに交わす言葉も弾む
かつて見し構機 撫子、今は無く

古鷹山頂上での昼食も、唾液不足によりパンを出す味に詰まって最後には吐き出す始末。私のような高齢者にとって、晴天下の真夏に5000以下であって、山登りは絶対に避けねばならぬことを肝に銘じた。
その代わり、頂上での眺望はすばらしかった。両山共に広島湾や奥瀬の島にそびえているので、大展望が広がっている。
古鷹山主峰で男性1人と話を交わしただけで、寂しい山だった。
(枚方市 東谷 宏)

南八ヶ岳の編笠山と権現岳との鞍部にある「青年小屋」は、オーナーのギターが味わえることおしいワインが、8月最後の土曜日、地元の高キングクラブのメンバーと泊まってきました。
ネットで青年小屋の錆びたトタン張りの外観を見たメンバーは、戦々恐々の心理状態だったようですが、小屋に入って中の広さとこざっぱりした有様にビックリ。蒲団も新しく食事もよく、デザートに出たアプリプリの

尾花、葛花、二種となりぬ
秋の茸 色とりどりの森の精
そも土師よ 汝 何者ぞ
(松阪市 藪木伸人)

昨今、年寄りいじめの記事が気になる。また、勝ち組か負け組かの討論も盛んである。当然、歳をとると体の動きも悪くなり、負け組に傾く。
新ハイ関西がスタートしたのは、平成3年秋で15年が過ぎた。まだ早いかも知れないが、中年から年寄りへの計画も実践する時ではと思ってもみる。
新ハイ山行で平成5年秋に三室高原山麓の野外活動センターで泊まった。その野外活動センターが、今秋から解体されることになった。利用者が減り、兵庫県が営業市に運営を託したが、効果が悪く経費がかかるので営業市も引き受けなかったのが原因らしい。
センターただ1人の住人、熊の「千太」が二十余年の命を一昨年秋全うした。老衰であった。命もそうであるが、文化や健康は数字で計るものでなく、将来を見据えたものでなければ

山行計画
(11・12月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「習用」のほかに参加名簿代その他の資料代費用をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース(6〜7時間コース)
 - (長〜長くコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長〜長くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようお願いいたします。

		11月		行先		定員															
25(出)	25(出)	25(出)	23(出)	21(出)	19(出)	19(出)	17(出)	16(出)	13(出)	12(出)	10(出)	8(出)	5(出)	4(出)	3(出)	3(出)	1(出)				
須磨岡	高島	狩野	稲垣	木村	仲谷	鷺見	塚元	岩野	西上	寺井	田中賢	山田	田中明	木村	岩野	山田	鷺見	森脇	村田	金谷	須磨岡
須磨岡	高島	狩野	稲垣	木村	仲谷	鷺見	塚元	岩野	西上	寺井	田中賢	山田	田中明	木村	岩野	山田	鷺見	森脇	村田	金谷	須磨岡

		12月		行先		定員													
29(出)	26(出)	25(出)	25(出)	25(出)	23(出)	21(出)	19(出)	19(出)	17(出)	16(出)	15(出)	15(出)	10(出)	6(出)	4(出)	3(出)	3(出)	2(出)	1(出)
美濃・飯盛山	京都西山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山	美濃・飯盛山
美濃	京都西山	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃	美濃

10月1日、北陸・湖西線は21日よりJRのダイヤ改正があります。集合時間は定信ハガキの案内を必ず読んでください。変更する場合があります。

府奥地線線路を歩く④
朽木・遠敷峠から三國峠
(中級向き)
期日 11月1日(休) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時15分
コース 京都駅(バス) 遠敷峠ー江若園境尾根ークチクボ峠ー三國峠ー生杉休憩所(バス) 京都駅(解散18時30分頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎金谷 昭 ◎藤部 純
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員22名(会員に限る)
百里ヶ岳の西方の遠敷(おにゅう)峠から江若園境線路を菅生の三國峠まで歩きます。雨天中止

やぶ漕ぎ山行④
京都北山・片波から雲取山
(中級向き)
期日 11月3日(休) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース 京都駅(バス) 片波草原橋ーP608鉄塔ーP829ー雲取峠ー雲取山ー雲取峠ーノ谷寺山峠ー花背高原前(バス) 京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎奥比谷美
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで
*定員35名
昔、国体で使った自然林の尾根を登って雲取山へ行きます。一部ササやぶがきつい。雨天中止

越美・権現山と金堂岳
(一般向き)
期日 11月3日(休) 4日(出) 1泊2日
集合 (3日) JR京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース (3日) 京都駅(バス) 武生インター(バス) 柳登山口ー滝廻りコースー権現山ー表参道ー登山口(バス) 深流温泉荘荘(泊)
(4日) 冠荘(バス) 廣村河内ー登山口ー松尾峠ー白倉山ー金堂岳ー松尾峠ー登山口ー河内(バス) 冠荘(入浴・バス) 京都駅(解散18時頃)
費用 約2000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千ニ縮刷・冠山・宅長
申込み ◎森脇直義 ◎磯野重治 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員25名
佐々木小次郎ゆかりの権現山、柳の五流や樹齢千年のツガ大木を見ながらゆっくり登ります。金堂岳は、松尾峠までの尾根道にすばらしいブナの原生林が残されています。雨天決行

自然観察山行②③
山梨・瑞穂山と茅ヶ岳
(一般向き)
期日 11月3日(休)夜5日(休) 前後発1泊2日
集合 (3日) JR岐阜駅22時00分
コース (3日) 岐阜駅(バス) (4日) (バス) 須玉民宿(飯飯・バス) 瑞穂山荘ー富士見平ー天鳥川ー瑞穂山ー不動滝ー天徳園(須玉民宿) (泊)
(5日) 民宿(バス) 深田記念公園(女宿) 茅ヶ岳ー金ヶ岳ーふれあいの里(バス) 岐阜駅(解散) *帰路に入浴します。
費用 約3700円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)
地図 昭文社「金峰山・甲武信」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
*10月21日まで
蟻々たる花崗岩の城壁、瑞穂山および深田久弥終焉の山、茅ヶ岳を歩きます。雨天決行(コース変更あり)

菅生定点観察9・展望の山23
京都大学菅生研究林(中級向き)
比良・オグラス(蛇谷ヶ峰)
期日 11月4日(出) 5日(出) 1泊2日
集合 (4日) JR関ヶ原駅7時15分/JR近江今津駅8時10分/道の駅朽木本陣9時00分
コース (4日) 各集合地(車) 生杉休憩所ー三國峠ー野田畑峠ーシンコボー杉尾坂ー上谷ー地蔵峠ー生杉休憩所(車) 朽木温泉てんくう(泊)
(5日) (道の駅朽木本陣9時00分集合) 朽木温泉てんくうーいきものふれあいの里ーかつら谷ーオグラスー尾根道ー朽木温泉てんくう(入浴・車) 各集合地(解散)
費用 交通費各自(車代1000円・1500円・宿泊まり約4000円)
地図 2万5千ニ縮刷・北小松・斐原野
係 ◎山田明男
申込み 〒503-0535

海津市南瀬町松山23の19
山田明男まで
*定員15名(宿泊)
*マイカーの方は日帰りかを明記ください
*日帰りか宿泊かいずれかを明記ください
菅生の紅葉はどうでしょう? 菅生は最後の観察会です。オグラスでは紅葉が楽しめます。
雨天決行
鈴鹿を歩く251
奥の畑谷から雨乞岳(飯島向き)
期日 11月5日(休) 日帰り
集合 藤切谷林道入口広場8時30分
コース 広場ー核地蔵ー奥の畑谷ー奥の畑峠ー雨乞岳ー西雨乞岳ー炭焼コバー向山峠山峠ー藤切谷林道ー広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御笠所・雲仙・伊吹」
係 ◎若野 明 ◎山田登三 ◎後藤康幸
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*マイカー山行
セラピーの奥の畑谷から雨乞岳に登り、西尾根から向山峠山事務所跡にくだります。雨天中止
ファミリアハイク96
美作・三ヶ上山(初級向き)
期日 11月8日(休) 日帰り
集合 JR新大阪駅1階止面口7時00分
コース 新大阪駅(バス) 上斎原村役場ー寺ヶ原ー放牧場跡ー稜線取付ー三ヶ上山(往路)ー上斎原村役場(バス) 上斎原温泉(バス) 新大阪駅(解散)
費用 約4500円(バス代)
地図 2万5千ニ縮刷
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854 吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで
*定員24名(会費に限る)
因幡・伯耆・備前の三国が見渡せる、役行者像が鎮座する山岳信仰の霊峰に登る。雨天中止

花流り山行34(富士見山行①)
山梨・毛無山と長者ヶ岳
(中級向き)
期日 11月10日(休) 12日(休) 2泊3日
集合 (10日) JR京都駅八条口団体バスのりば9時00分
コース (10日) 京都駅(バス) 富士インター(バス) 朝霧高原(泊)
(11日) 宿(バス) 根原一徳峠ー雨乞岳ー茅ヶ岳ー毛無山ー朝霧高原(バス) 白糸の滝(泊)
(12日) 宿(バス) 田貫湖ー長者ヶ岳ー天子ヶ岳ー白山権現ー白糸滝(バス) 入浴地(バス) 富士インター(バス) 京都駅(解散20時頃)
費用 約3900円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千ニ縮刷・八ヶ岳・上井出
係 ◎田中 明
申込み 〒617-0838 長岡京市緑が丘16-19 田中 明まで
*定員22名
*10月25日まで
富士見三昧の山行シリーズの一回目。今回は西側17ヶの至近距離

の標高1900mより大沢崩れを
真正面に眺めます。カメラ三脚持
参りどうぞ。雨天決行

展望の山25
美濃・大洞山(中級向き)
期日 11月12日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅6時50分
コース 西岐阜駅(車)道の駅和
良(車)大月の森公園一
登山口一太洞山一モング
洞一太月の森公園(車)
西岐阜駅(解散)

費用 交通費各自(車代200
0円、レンタカー使用時
は30000円)
地図 2万5千一都上市島
係 ◎山田明男
申込み 〒50310535
海津市南濃町松山62の19
山田明男まで

*定員15名程度
一等三角点の大洞山へ。シロモ
ジの黄葉はきれいか?(木誌89号
参照)。雨天中止
比良を歩く54
打見山から鷹谷山・摺鉢山
(中級向き)
期日 11月12日(日) 日帰り

城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員50名
紅葉の見頃は少し遅いと思ひ
ますが、深まりゆく秋を楽しませ
ます。新装された小処温泉に寄りま
す。小雨決行
鈴鹿を歩く252
高室山からザラノ(龍岡向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 多賀町栗橋神社前(河内
線)8時00分
コース 神社前(車)保月一巡視
路一P668一高室山一
P777一ザラノ一スリ
バチ池一林道一保月(解
散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田基三
◎後藤康幸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
保月から巡視路を高室山に登り、
北東のザラノから横現谷へ続く秘
境の尾根を歩く。雨天中止

集合 JR志賀駅8時50分
コース 志賀駅(バス)びわ湖バ
イレ前(ゴンドラ)打見
山一木戸峠一比良岳一葛
川越一鳥谷山一摺鉢山一
大橋一金峯峠一青ガレ一
大山口一イン谷口一比良
駅(解散16時30分)
*歩行6時間
費用 約1600円(京都から)
地図 2万5千一比良山
係 ◎秦 康夫
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

台高
シャッポ山尾根から千石山
(一般向き)
期日 11月13日(月)夜14日(火)
前夜発日帰り
集合 (13日)近鉄橋原駅前21
時10分/連(学校修)23
時00分
コース (13日)連(テント泊)

地図 関西み山行78
泉南・飯盛山(一般向き)
期日 11月19日(日) 日帰り
集合 南海孝子駅9時00分
コース 孝子駅一高仙寺一反駁板
一飯盛山一展望所一み
さき公園(解散)
費用 約1300円(大阪から)
地図 2万5千一淡輪
係 ◎塚元一彦 ◎中村 登
申込み 〒53610008
大阪市城東区関西4の14
の9の901 塚元一彦まで
*定員30名
新ハイキング関西支部と合同
低い山をゆっくり歩きながら、地
形図とコンパス(磁石)の勉強を
します。シルバー型コンパスを
持参ください。初心者歓迎。
雨天中止

〔14日〕連一奥ノ平谷出
合一シャッポ山尾根一十
石山一瀬戸越一十石林道
一連(車)橋原駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千一七日市・宮川
野水池
係 ◎田中賢治 ◎園早くみ子
申込み 〒51810626
名張市橋原が丘6の2の
18 田中賢治まで
*定員10名
*マイカー山行(4名ま
で乗合可能。希望者は
その旨明記ください)
急峻なシャッポ山尾根から十石
山へ登り、瀬戸越道を十石林道へ
くだります。千石谷林道が荒れて
いる時は、コース変更あり。
小雨決行

平日ふれあいハイク60
湖西・三十三間山(中級向き)
期日 11月16日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時15分
コース 京都駅(バス)龍登野一
P6951-P8381三
十三間山一倉見(バス)
京都駅(解散18時頃)

費用 約4000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千一三万・熊川
◎寺井恒夫
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員22名
近江坂を登り、三十三間山の北
尾根を歩きます。三万五湖、若狭
の海が見える展望のよい山です。
雨天中止
大台ヶ原・西大台から釜ノ峰
(一般向き)
期日 11月17日(日) 日帰り
集合 近鉄橋原神宮前駅中央口
8時05分
コース 橋原神宮前駅(バス)大
台ヶ原駐車場一六台教会
一七ツ池一開拓分岐一展
望台一釜ノ峰一林道出合
一小処温泉(バス) 橋原
神宮前駅(解散18時30分
頃)
費用 約3800円(阿部野橋
駅起点・バス代含む)
地図 昭文社「大台ヶ原」
◎西上利和 ◎東山 隆夫
◎前川和博子
申込み 〒6100121

フアミリーハイク97
宇陀・音羽三山(一般向き)
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 近鉄桜井駅南口バス一番
のりば9時40分
コース 桜井駅南口(バス)下居
一善法寺一音羽山一経ヶ
塚山一熊ヶ岳一太止池一針
道一不動滝(バス) 桜井
駅南口(解散)
費用 約800円(桜井駅から
バス代)
地図 2万5千一吉野山
係 ◎木村 太郎
申込み 〒56510854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
お薬付き観音の保護樹が色づく
観音寺から、万葉集に詠まれた音
羽三山を歩きます(木誌24ペー
ジ参照)。雨天中止

三重の山91
鈴鹿・御在所岳(中級向き)
期日 11月25日(日) 日帰り
集合 近鉄湯山温泉駅前9時
00分
コース 湯の山温泉駅(車)湯の
山温泉一香滝不動一藤内
小屋一関見峠一山上六箇

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

費用 約1000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千一池野
係 ◎警守 康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 警守康まで
*定員20名
昨年11月に中止した小島山から
ムネ山を往復します。小雨決行
火曜ハイク26
南山城・長山から万燈電山
(一般向き)
期日 11月21日(日) 日帰り
集合 JR玉水駅9時20分
コース 玉水駅一玉津岡神社一駒
岩一太止池一長山一万燈
電山一山城多賀駅(解散
16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千一田辺
係 ◎徳谷 社司 ◎沖 伸
申込み 〒6100121
城隍市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
長(うしろ)山は変わった名
前ですが、歴史とロマンに包まれ
た里山です。前半は車道歩きにな
ります。雨天中止

東山車カモンセンター
(見学) 御在所岳三角
点 武平峠 湯の山温泉
(車) 湯の山温泉駅(解
散16時頃)
費用 150円
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ©稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで

週末ハイクラ
室生・雄岳から兜岳(一般向き)
期日 11月25日(日) 日帰り
集合 近鉄大和八木駅北口広場
8時30分
コース 大和八木駅前(バス)新
宅木店前 清水山分岐
雄岳 蜂坂峠 兜岳 目
無地蔵 横輪(バス)大
和八木駅(解散17時頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ©狩野東彦

若狭の山
インディアン平原(健脚向き)
期日 11月25日(日) 日帰り
集合 J R新正田駅9時00分
コース 新正田駅(車)駄口ーイ
ンディアン平原(往還)
一駄口(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千 敦賀・駄口
係 ©高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイキング関西まで
*マイカー参加も可
駄口から岩屋山南麓を往復しま
す。雨天決行

一足早い忘年山行
播磨・高塚山と徳石山
(一般向き)
期日 11月26日(日) 日帰り
集合 J R徳路駅南口
1泊2日
コース (25日) 徳路駅(バス)
宮野 三段滝 上部池
高塚山 広域林道(バス)
福知山谷休養センター
(泊)
(26日) 福知(バス)松
ノ木橋 徳石山 板馬見
深谷 松ノ木橋(バス)
徳路駅(解散17時頃)
費用 約12500円(バス・
宿泊・忘年会費等)
地図 2万5千 寺前・長谷・
千種・西河内
係 須磨岡 福
申込み 〒671-1262
姫路市余部区上余部50の
2の11 須磨岡 福まで
*定員30名
例年のように播磨の山に登り、
一年を振り返って楽しく語り合
います。雨天決行

自然観察山行225
美濃・飯塚山から西津波
(一般向き)
期日 11月26日(日) 日帰り
集合 J R大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)飯塚山
道入口 大狗の森駐車場
飯塚山 西津波 飯塚
山 大狗の森駐車場 林
道入口(バス) 大垣駅
(解散19時頃)
費用 約4000円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千 谷汲・横山
係 ©鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名
5月に中止した飯塚山から西津
波を再計画しました。小雨決行

展望の山25(忘年山行)
鈴鹿・狗留山(初級向き)
期日 12月3日(日) 日帰り
集合 J R関ヶ原8時35分/三
岐線西野尻成敷8時30分
コース 各集合駅(車)長楽寺
狗留山(往) 忘
年会会場(車)各集合駅
(解散)
費用 交通費各自・忘年会費1
500円
地図 2万5千 占屋
係 ©山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南瀬町松山624の19
山田明男まで
*定員25名程度
昼食は用意します。飲み物は各
自持参。車の方は禁酒。電車で集
合ください。雨天決行

北山ちよと歩き83
馬場駅から唐櫃越(一般向き)
期日 11月29日(日) 日帰り
集合 J R馬場駅9時00分
コース 馬場駅 宝泉寺 みずき
山 王ヶ辻 赤掛山 ン
ヨゴ坂分岐 飯急上桂駅
(解散)
費用 約500円(京阪駅から
地図 昭文社「北摂・京都西
山」

◎奥山笠三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
山城と丹波を結ぶ旧山陰道の間
道、明智光秀の本能寺攻めの道と
して使われた唐櫃越を歩きます。
みずき山と赤掛山の二つの三角点
を踏みます。雨天中止

ター(バス)京都駅(解
散20時頃)
費用 約39000円(バス・
宿泊代等)
地図 2万5千 富士宮
係 ©田中 明
申込み 〒617-0838
長岡京市緑が丘16-9
田中 明まで
*定員22名
*11月15日まで
一回目は南寄りから約14km、シ
リーズ中で最短距離からの眺めで
す。富士山腹に口をあけた宝水火
口激しい景色が期待できます。
雨天決行

新ハイキング関西まで
*マイカー参加も可
最近出来た新コースから三方ヶ
岳へ。雨天決行
鈴鹿を歩く253
征板峠からミクネ・大杉電王
(中級向き)
期日 12月3日(日) 日帰り
集合 河内観風穴手前寺院広場
8時30分
コース 寺院広場(車)落合・汗
ふき峠 征板峠 大杉電王
落合(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ©若野 明 ○山田景三
◎後藤康幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
汗ふき峠から征板(まさいた)
峠とミクネから北にのびる、ほと
んど知られていない秘境の尾根歩
き。大杉電王(北原草堂)に参拝
します。雨天中止

湯路・養馬山(忘年山行)
(一般向き)
期日 12月3日(日) 日帰り
集合 J R明石駅改札口8時25
分
コース 明石駅 明石港(船) 岩
屋 八登岩 養馬山 岩
屋(船) 明石港(解散16
時頃)

花巡り山行35(富士見山行②)
静岡・越前岳と白鳥山
(一般向き)
期日 12月1日(日) 3日泊
2泊3日
集合 (1日) J R京都駅八条
口団体バスのりば8時30
分
コース (1日) 京都駅(バス)
沼津インター(バス)須
山(泊)
(2日) 宿(バス)愛鷹
山登山口 山神社 愛鷹
山荘 黒岳 富士見峠
富士見台 越前岳 十里
木(泊)
(3日) 宿(バス)登山
口 本成寺 白鳥山
(往還) 登山口(バス)
入浴地(バス) 富士イン

湖北の山
三方ヶ岳(一般向き)
期日 12月2日(日) 日帰り
集合 J R近江塚津駅10時00分
コース 近江塚津駅(車)沓掛区
一遊林道 P443 三
方ヶ岳 P443 西林
道(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千 木之本
係 ©高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

展望の山25(忘年山行)
鈴鹿・狗留山(初級向き)
期日 12月3日(日) 日帰り
集合 J R関ヶ原8時35分/三
岐線西野尻成敷8時30分
コース 各集合駅(車)長楽寺
狗留山(往) 忘
年会会場(車)各集合駅
(解散)
費用 交通費各自・忘年会費1
500円
地図 2万5千 占屋
係 ©山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南瀬町松山624の19
山田明男まで
*定員25名程度
昼食は用意します。飲み物は各
自持参。車の方は禁酒。電車で集
合ください。雨天決行

湯路・養馬山(忘年山行)
(一般向き)
期日 12月3日(日) 日帰り
集合 J R明石駅改札口8時25
分
コース 明石駅 明石港(船) 岩
屋 八登岩 養馬山 岩
屋(船) 明石港(解散16
時頃)

11月 271-7178
11月 072-651-6166
11月 072-657-9226
06-6359-9029
3248

費用 約1600円(船代等)
地図 2万5千〃須磨・田之代
係 ◎古賀慶一〇岡田昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上一884
の33・17A403
古賀慶一まで

かつて、菅山でかがり火を焚いて本州と連絡をとっていました。明石に戻って忘年会の予定です。(参加費5000円程度、女性割引あり)小雨決行

台高
山ノ神頭から馬ノ鞍峰縦走
(健脚向き)

期日 12月4日(明夜)5日(雨)
前夜発日帰り

集合 (4日)近鉄橋原駅前21時10分/三ノ公川明神出合駐車場23時00分
コース (4日)明神出合(テント泊)
(5日)明神谷出合―山ノ神頭西尾根―山ノ神頭―馬ノ鞍峰―カクシ平―明神出合(車)橋原駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千〃大和柏木

係 ◎田中賢治〇蘭平くさ子
申込み 〒518-0626
名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで

*マイカー山行(4名まで)
*定員10名
*集合いり可能。希望者はその旨明記ください
明神出合を起点に台高中央部の樹林の山をめぐります。小雨決行

フアミリーハイク98
京都丹波・鬼ヶ城(初級向き)
期日 12月6日(雨)日帰り
集合 JR新大阪駅1階正面口8時00分
コース 新大阪駅(バス)観音寺―鬼ヶ城―峠分岐―鳥ヶ岳―峠分岐―観音寺(バス)福知山温泉(バス)新大阪駅(解散)

費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千〃河守
係 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで

*定員24名(会費に際)
時には幻想的な雲海に出会える鬼伝説の鬼ヶ城、一等三角点の鳥ヶ岳に登る。雨天中止

ヶ岳に登る。雨天中止
湖西・阿弥陀山(忘年山行)
(一般向き)
期日 12月10日(雨)日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば9時00分
コース 京都駅(バス)安曇川町―大山寺登山口―阿弥陀山(昼食忘年会)―大山寺登山口(バス)京都駅(解散16時頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千〃豊原野
係 ◎森脇貞義 〇磯野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*定員40名
昨年思わぬ大雪で中止になりました。そのリベンジです。頂上付近の広場で鍋を準備します。雨天中止

紀泉・和泉葛城山から大石ヶ峰
(一般向き)
期日 12月15日(雨)日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時00分
コース 富田林駅(バス)牛流山

バス停―お地蔵さん登山道―和泉葛城山―展望所―和泉葛城山一等三角点―大石ヶ峰―小雲峠―編谷峠(バス)富田林駅(解散16時頃)

費用 約3000円(阿部野橋駅起点・バス代含む)
地図 昭文社〃金剛・葛城・紀泉高原
係 ◎西上利和 〇東山登夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*定員50名
信仰の山として古くから崇められてきた和泉葛城山に登り、初冬の和泉山地を縦走します。小雨決行

紀伊山地の参詣道を歩く11近世の中辺路
①那智山から大雲取越
②小和瀬から小雲取越
(中級向き)
期日 12月15日(明夜)17日(雨)
前夜発1泊2日
集合 (15日)近鉄上本町駅23時00分

コース (15日)上本町駅(バス車中泊)

(16日)(バス)大門坂―那智大社―舟見峠―八丁坂―色川辻―地蔵茶屋―越前峠―朝切坂―円座石―小口自然の家(泊)
(17日)宿舎―堂の坂―桜峠―百間ぐら―下地橋(バス)難波駅(解散19時頃)

費用 約20000円(バス・宿泊代等)
地図 詳細図を当日配布
係 ◎村田智俊 〇安倉正勝 〇奥比呂美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

*定員22名(会費に際)
那智大社から大雲取越・小雲取越を本宮へ歩く。熊野古道でも厳しいコースです。雨天決行

週末ハイク78(忘年山行)
美濃・南宮山(一般向き)
期日 12月16日(出)日帰り
集合 JR垂井駅10時00分
コース 垂井駅―南宮大社―登山口―高山神社―P404

展望台―南宮山―展望台―南宮大社―垂井駅(電車)野洲駅(解散)入浴忘年会)

費用 交通費各自・忘年会費別途
地図 2万5千〃大垣
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*12月2日まで
展望台で鷹尾平野を眺めながらゆっくり昼食をとります。帰路野洲駅で途中下車し、入浴後忘年会を実施。参加の方は(忘年会参加)と朱記ください。雨天決行

自然観察山行226(忘年山行)
奥三河
期日 12月16日(出)17日(雨)
集合 (16日)JR岐阜駅9時15分
コース (16日)岐阜駅(バス)自然の道ツォーキングセンター馬背岩―砥鹿神社奥宮―本宮山(バス)愛

知真民の森(泊・忘年会)
(17日)宿舎―南尾根―西尾根―北尾根―明宿百年記念広場―真民の森駐車場(バス)岐阜駅(解散)

*帰路に入浴します。
費用 約30000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)
地図 2万5千〃海老・三河本郷・三河大野・熊

係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
*10月31日まで

三河富士の愛称をもつ本宮山を歩き、4月に中止した知真民の森の長い尾根を縦走します。夜は忘年会を行います。雨天決行(コース変更あり)

水無山―南尾根―水無山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社〃御在所・雲仙・伊吹
係 ◎若野 明 〇山田景三 〇後藤謙幸
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*マイカー山行
水無山に登った後、専用ロッジで昼食忘年会とミーティング等を行います。料理は各自持参(マイカー運転の方は禁酒)。雨天決行

火曜ハイク27
愛宕山シリーズ13
水尾岩ヶ谷からツツジ尾根
(一般向き)
期日 12月19日(雨)日帰り
集合 JR保津駅9時00分
コース 保津駅―水尾岩ヶ谷―社務所―水尾ふれっつツツジ尾根―保津駅(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千〃京都西北部
係 ◎仲谷打司 〇沖 伸

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
水尾までは車道を歩きますが、
あまり歩かれていない岩ヶ谷の道
を登ります。昔の生活跡も感じられ
ますが、道は少し荒れている所も
あります。雨天中止

高見山山道
下津前谷左岸尾根から高見山
(健脚向き)

期日 12月19日(火) 日帰り
集合 近鉄名張駅東口8時25分
/平野(たかすみ温泉駅
車場)9時45分

コース 名張駅(車)平野→下津
前谷左岸尾根→高見山→
高見山北尾根→下津前谷
→平野(車)名張駅(解
散)

費用 交通費各自
地図 2万5千→高見山・大豆
生

係 ①田中賢治○岡平くみ子
申込み 〒518-0626
名張市桔梗が丘6の2の
18 田中賢治まで

*マイカー山行(4名ま
*定員10名

で乗合い可能 希望者は
その旨明記ください

昨年たどった北尾根の東の尾根
を登り、北尾根をくだります。天
気が良ければ簡単な年々パーティ
も。小雨決行

北山ちよっと歩き84(釜山山行
コメカイ道の落合から嵐山へ
(一般向き)

期日 12月20日(水) 日帰り
集合 JR保津駅9時30分
コース 保津駅→フジ尾根→
コメカイ道→落合→下六
丁峠→小倉山→嵐山公園
(解散)

費用 約5200円(京都駅から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ①眞山繁三

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

「北山ちよっと歩き」の最終回
保津駅からフジ尾根を登り、コ
メカイ道の落合より小倉山、嵐山
公園を経て嵐山渡月橋まで、解散
後、嵐山公園で忘年会(各自負担参
をします(近くにコンビニあり)。
小雨決行
*来年度からパート2として、金

谷昭リーダーに引き受けてもら
います。長い間お世話になり、ご参
加ありがとうございました。

ファミリーハイク99(釜山山行
北摂・明ヶ尾尾山(一般向き)

期日 12月21日(木) 日帰り
集合 阪急箕面駅9時30分
コース 箕面駅(タクシ)高山
高杉場跡→明ヶ尾尾山→
鉢伏山→エキスポ90記念
の森→天ヶヶ岳→箕面大
滝→箕面温泉スパ→ガ
ダン(忘年会)→箕面駅
(解散)

費用 約5000円(タクシ
代・忘年会浴衣代等)

地図 2万5千→広根・伊丹
係 ①木村太郎

申込み 〒565-1085
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

五月山連山最奥から箕面の滝へ
歩き、箕面温泉で鍋料理を楽しむ
忘年会参加希望者は申込みハガキ
にその旨明記ください。雨天中止
京都北山歩き116
焼杉山・翠嵐山(一般向き)

期日 12月24日(日) 日帰り

集合 大原バスターミナル10時
00分

コース 大原バスターミナル→草
生尾根→焼杉山→寂光院
道分岐→翠嵐山→寂光院
→大原バスターミナル
(解散15時頃)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山」
係 ①村田智俊 ①安倉正勝
①奥比呂美

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

自然林の草生尾根を焼杉山へ登
り、翠嵐山までのミニコース。日
だまりハイキングを楽しみます。
雨天中止(雷決行)

年末にロングコースを歩く
湖南・湖南アルプスから備前へ
(中級向き)

期日 12月30日(日) 日帰り
集合 JR石山駅7時50分

コース 石山駅→バス→アルプ
登山口→太神山→田代→
黄瀬→紫香堂跡→紫香
堂宮跡(解散17時頃)

*歩行7時間

費用 交通費各自

地図 5万→京都東部・水口
係 ①村田智俊

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

恒例の年末ロングコース。太神
山から山間をめぐって信楽まで今年
最後のハイキングです。ほぼ東海
自然歩道にそって歩きます。
雨天中止

花巡り山行36(富士見山行③)
丹沢・塔ノ岳と丹沢山
(一般向き)

期日 1月6日(中)8日(日)
2泊3日

集合 (6日) JR京都駅八条
口団体バスのりば8時00
分

コース (6日) 京都駅(バス)
大井松田インター(バス)
大倉(泊)
(7日) 宿(バス) 大倉
登山口→大倉尾根→塔ノ
岳→丹沢山小屋(泊)
(8日) 小屋→塔ノ岳→
鍋割山→後沢乗越→大倉
(入浴・バス) 大井松田
インター(バス) 京都駅

(解散20時頃)

費用 約40000円(バス・
宿泊代等)

地図 昭文社「丹沢」
係 ①田中 明

申込み 〒617-0838
長岡京市緑が丘16-19
田中 明まで

*定員22名
*12月6日まで
三回目は東寄りから約40分、シ
リス中で最遠距離の眺めです。
この山域はまだ雪も少なく方への
ために軽アイゼンがあれば十分。
富士が見放題のコースであり、冠
雪のお正月の富士山が格別の思い
で眺められるでしょう。雨天決行

山行報告 (7・8月号) 新ハイキングクラブ関西

飛騨越中・三方岩岳と人形山
(自然観察山行215)

7月1日(中)2日(日) 1泊2日
(1日)くもり(集合) JR 岐阜
駅9:15(バス) 白山スーパ
ー林道三方岩岳駐車場12:00→15:
30(岩岳)13:05(昼食)13:50→
駐車場14:50→15:00(バス・観
光) 国民宿舎五箇山荘16:50(泊
(2日) 雨) 宿7:35(バス・観
光) 大日川白山登山口10:35→大
白川フナ原生林散策→白山登山口
休憩所12:10(昼食)13:10(バ
ス) しらみずの湯13:50(入浴)
14:50(バス) 岐阜駅16:50(解
散)

1日は雨も小降りでも三方岩岳を
歩いたが、2日は雨のため人形山
を断念。大日川のフナ原生林を散
策し、自然観察会となった。
(参加者) 朝倉松雄 荻野美穂
川島隆美 田中善雄 小崎由利子
徳田暢子 夏山春子 森 美香子

堀田輝子 水谷美穂子 吉野孝子
○仲谷礼司 ①鷺見守康(計33名)

鈴鹿・元越谷
7月4日(火) 晴れ

(集合) JR 貴生川駅9:20→大
河原橋手前広場10:10(車) 広場
(置車) 10:25→11:10→元越
大滝12:30(昼食)ロアワック
練習場14:55→仏谷出合15:15→
元越林道終点15:40(止場)(置車)
16:00→30(解散・車) 貴生川駅
17:30

東の間の晴天に恵まれた。流れ
に緑が映えて美しい。大滝でセル
フレスキューを目的としたロープ
の結び方や、懸垂下降の練習に時
間を使い、仏谷出合から予定を変
更して元越林道を戻った。平日
なので他のパーティはいはなく
静かな沢歩きが楽しめた。
(参加者) 阪原泰彦 湯浅みや子
井沢重正 小林 修 馬場孝子
真島知恵 近坂美栄
○岡平くみ子 ①田中賢治
(計9名)
南紀・百間山深谷
(ファミリーハイク87)

7月6日(木) ◎木村太郎
*雨天のため中止しました。

大峰・赤山から八経ヶ岳
7月7日(金) ◎西上利和
*雨天のため中止しました。

京都北山・峰床山と鎌倉山
(週末ハイイク74)

7月8日(土) 晴れ
(集合) JR堅田駅 8・40 54
(バス) 葛川学校前 9・30 40
二保10・10 15 中村乗越11・20
30 峰床山12・15 (昼食) 13・
00 オグロ坂峠13・25 30 鎌倉
山14・30 40 平尾15・00 坊
村バス停15・30 46 (バス) 堅田
駅16・20 (解散)

梅雨の真只中だが時々陽が差
し、涼しい風もあってブナ新緑を
楽しんだ。ジメジメした伊賀谷で
はヒルが多く、たっぷり血を吸わ
れた人もあった。

(参加者) 塚本中次 木本恭子
仲谷礼司 小松志信 都築由美子
宮下淳一 桜庭 栄 中嶋日出男
後藤輝子 前田初雄 馬場弥栄子
豊村雅子 福岡 章 船越みよ子
竹本 勲 竹本照子 本間響子
蓮井洋子 ○小林 桂

京都北山・桑谷山から寺谷峠

(やぶ漕ぎ山行11)

7月16日(日) くもりのち雨
(集合) JR京都駅 7・40 55
(バス) 広河原能見町長戸谷出合
9・20 30 長戸谷植林作業道取
付 9・35 30 尾根末端ヒク10・
00 植林帯から自然林へ10・15 1
P80410・40 桑谷山 頂点11・
20 30 東峰への尾根植林展望地
11・40 (昼食) 12・15 東峰12・
25 久多峠13・20 30 (バス) 交
流の森13・50 (入浴) 15・00 (バ
ス) 京都駅16・40 (解散)

長戸谷側の植林作業道から西尾
根にのり、自然林のなかを桑谷山
へ登った。東峰手前で昼食後、大
雨が降り出したので、東峰から寺
谷峠はまたの機会にして久多峠へ
くだった。「交流の森」でゆっく
り汗を流して帰った。

(参加者) 塩尻香織 小谷和子
後藤輝子 塚本中次 磯部 純
東中次夫 萩野暢子 奥田則夫
渡部和美 澤田高治 若林文夫
栗木光雄 岩本彩子 大東 哲
志水明美 小栗大直 森本幹雄
小山誠次 多賀久子 林 弘毅
○安倉正勝 ◎村田智俊 (計13名)

◎菅野東彦 (計20名)

加越・鷲ヶ岳と越前甲(大日山)
7月8日(土) 9日(日) 1泊2日
(8日) 晴れ (集合) JR京都
駅 8・20 (バス) 伊知地11・22 1
白山神社登山口11・34 (昼食) 12・
00 馬の鞍掛12・10 林道出合12・
37 林道終点13・15 鷲ヶ岳14・
12 15 00 林道終点15・25 1 白
山神社登山口16・13 (バス) たけ
くらべ温泉17・00 (泊)

(9日) くもりのち雨 宿 7・46
(バス) 越前甲登山口 8・41 取
付点 8・53 9・00 大日峰10・
45 11・00 越前甲12・00 (昼食)
12・35 大日峰13・17 40 登山
口15・45 16・00 (バス) 京都駅
20・02 (解散)

鷲ヶ岳などは、浄法寺山・高賀
山・水無山などが見えたが、越前
甲は雲のなかで暑い一日だった。
越前甲の登山口から大日峰まで道
が荒れていて時間がかかった。下
山時、ササユリが咲いていて、雲
間に別山が顔を出したのが救いだ
った。

(参加者) 栗柄崇吉 栗柄君子
堀田輝子 金森節子 船本裕子
中山節子 森本淳子 中澤與司博

台高・西大台ヶ原

(ファミリーハイイク88)

7月19日(木) ◎木村太郎
*雨天のため中止しました。

綿向山のヒミズ谷(沢歩き)
(鈴鹿を歩く244)
7月23日(日) 雨のちくもり
(集合) 西明寺表登道広場 8・30
1 ヒミズ谷 9・00 1 二保11・40 1
水無尾根道12・05 林道12・40
(昼食) 13・20 専用ロッジ13・
50 (休食) 14・50 広場15・40
(解散)

V字に切れ込むヒミズ谷は水量
も増え、白い飛沫を上げる滝の連
続。シャワーを浴びながらの直登
は最高。二保から右の直登登山道
から専用ロッジにくだり、二次会
もして、楽しい沢歩きとなった。

(参加者) 永戸鉄治 小林 修
北村正美 武村千鶴 奥野太一郎
伊東弘隆 榎田勝利 堀 寿江
◎後藤康幸 ○山田寛三
◎岩野 明 (計11名)
鈴鹿・神峰川(沢歩き)
7月25日(日) ◎田中貴治
*増水および降雨予報のため中止
しました。

村井寿和 萩野暢子 村田はる江
宮野祐子 竹内正子 川上孝代子
長沢佑美 川田洋子 熊田千夜子
岩本彩子 松尾麗子 市井ユリエ
首藤育子 小池 一郎 ◎磯野重治
◎森脇真義 (計24名)

元蔵谷(沢歩き)
(鈴鹿を歩く243)

7月9日(日) 晴れ時々くもり
(集合) 元蔵谷林道入口手前広場
8・30 元蔵谷 9・10 大滝10・
00 伏谷出合10・35 右保出合11・
30 源流11・50 (昼食) 12・35 1
猪足谷林道13・35 広場15・15
(解散)

大滝には兵庫の山岳会約40人が
ザイルを張って取り付いていた。
その横を一緒に登る。伏谷源流秘
境の右保は深い樹林に濃い霧とヤ
ブレガサの大群衆、薄暗くて神秘的
でまさに幽玄の世界。身ごと心ごと
ふりと秘境に浸る思い出深い山行
となった。

(参加者) 服部 勇 伊藤寛久男
高原芳彦 永戸鉄治 奥野太一郎
谷田 守 大石裕美 武村千鶴
池田隆一 加藤樹計 伊東弘隆
◎後藤康幸 ◎岩野 明 (計13名)

青生・京都大学研究林

(富生定点観察5)

7月29日(日) くもり一時雨
(集合) JR近江今津駅 8・20 30
道の駅「朽木本陣」 8・55 (車)
生形休憩所 9・50 三國峠10・25
1 野田畑峠11・35 広場11・50
(昼食) 12・05 上谷12・15 1 地
蔵峠分岐13・00 地蔵峠13・30 1
生形休憩所14・10 (車) 近江今津
駅15・30 (解散)

三國峠から降り出した雨は、食
事でも強い雨で楽しさも半減、バ
イケインワを化が見られず残念だ
った。主な花はクサアジサイ・ムラ
サキニガナ。ノリウツギの飾り花
がきれいだった。

(参加者) 富田雅也 今田勝子
木本恭子 竹内正子 西村文男
林正義 竹田勝英 佐古田文子
◎山田明男 (計9名)
八瀬の滝めぐり(比良を歩く5)
7月30日(日) くもりのち晴れ
(集合) JR近江高島駅 9・00 1
03 (バス) ガリバー旅行社 9・30
1 50 鴨川林道出合10・07 鴨子
ヶ湖10・35 登山道合流10・55 1
大滝林11・00 10 農舎の滝上11・
37 45 オガサカ道分岐周辺12・

栃木・日光白根山と男体山
(自然観察山行216)
7月14日(金) 17日(日)
前夜2泊3日 ◎鷺見守康
*最少催行人数に達しないため中
止しました。

鈴鹿・宮指路岳(三重の山88)

7月15日(日) 晴れ
(集合) 樺大神社駐車場 9・00
(車) 小岐須溪谷大石橋 9・30 1
小岐須峠道分岐 9・45 ヤケケ谷
1 東海展望11・45 55 宮指路岳
12・20 (昼食) 13・00 小岐須峠
13・35 1 カワラコバ谷 ヤケケ谷
道分岐15・00 大石橋15・20 (車)
樺大神社駐車場15・45 (解散)

蒸し暑さで疲れヒル対策で疲れ
前半はよれよれの状況。東海展望
から先は展望よし風良好。気力も
体力も回復してルンルンの山行
下りに電 になか雨に遭うが、合
羽を取り出すほどではなかった。

(参加者) 上田裕子 森 美香子
平 龍一 山本功子 石田真由美
中森義信 林崎 勲 宮路ちへ子
川村政信 堀江房彦 石橋佳代子
陳 壘 永戸鉄治 岡本美子
大西節郎 ◎稲垣逸夫 (計16名)

25 (昼食) 13・05 比良明神峠13・
40 55 北比良峠14・03 15 1 カ
モシヶ台15・00 05 大山口15・
37 1 イン谷口手前15・48 1
16 00 イン谷口16・40 1 JR比
良峠16・40 (解散)

梅雨明け前、流れ落ちる流の水
煙を浴び、冷気あふれる1日を過
ごした。一週間前お参りした比良
明神(次郎坊宮)の建物は見事に
取り壊されて跡形もなく、賽銭箱
だけが地蔵さんの前に移動して
ポツンと残っていた。ロープウェ
イ等の施設撤去、原状回復の一端
だろっか、北比良一帯がだんだん
寂しくなっていくようだ。

(参加者) 鈴木吉和 馬籠忠男
豊村雅子 大川直澄 蓮井洋子
後藤輝子 本間 隆 森 美香子
渡部和美 緒方由子 村上美代子
妹尾公代 西尾俊弥 松野欽也
和田勝子 小谷和子 砂原恵美子
福岡 章 塩尻香織 ○青木一雄
◎秦 康夫 (計21名)
奥美濃・大日岳(展望の山19)
7月30日(日) 晴れ
(集合) JR西岐阜駅 7・00 (車)
ひるがの高原 8・30 登山口 8・
40 1 1 びく平 10・20 大日岳15・

00 (昼食) 12・40 一いづく平13・45 登山口15・10 湯の平温泉 (入浴・車) 西岐阜駅17・50 (解散)

撤収も明けて日差しが強くなった。コースは特別きつてもなく、いづく平の「主三角点」はすぐに見つかった。花もけっこう多く春にでもまた来てみたい。
(参加者) 佐藤文枝 長坂佐知子 朝倉松雄 小林一世 伊藤重美子 稲垣豊彦 馬場桂子 佐古田文字 山田妙子 ◎山田明男 (計10名)

加賀・白山

(ファミリーハイク89)
8月3日(内)4日(外) 一泊2日
(3日) 晴れ時々くもり (集合) JR新大阪駅7:00 (バス) 別当出合12・10 中飯場13・00 15 別当観き13・50 14 00 15 之助小屋14・40 15 15 南電分岐15・40 50 黒ボコ岩16・40 50 入室17・30 (泊)
(4日) 晴れ 入室3・50 御前峰4・40 5・10 翠ヶ池5・35 45 入室6・30 (朝食) 7・50 南電分岐9・00 10 10 基之助小屋9・40 55 別当観き10・35 45 中飯場11・25 40 別当出合

12・20 30 (バス) 天望の湯13・00 (入浴) 13・55 (バス) 民宿のすけ14・00 (昼食) 15・00 (バス) 新大阪駅21・00 (解散)

昼過ぎから砂防新道を登るが別山にはガスが巻いていた。お花畑に歓声をあげ弥陀ヶ原に上ると御前峰が手招きしていた。翌日、夜明け前に御前峰に登り日の出に感涙。山池を巡りクロユリ群生地を抜け室室に戻った。観光新道が通行止めのためエコーラインをくぐった。青空の下で穂高や槍が見送ってくれた。
(参加者) 渡部和美 道平きわみ 栗橋君子 森本淳子 久保田玲子 竹田善英 岡本佳子 山中あさみ 村上喜子 松尾麗子 中澤ちず子 妹尾一正 田中延子 藤原くに代 若林文夫 大東 哲 本家洗子 西 悦子 山本富美 山形 明 ◎松井明忠 ◎西條良史 (計23名) ◎木村太郎

北アルプス・乗鞍連峰

(自然観察山行217)
8月5日(内)6日(外) 一泊2日
(5日) 晴れ (集合) JR岐阜駅9:15 (バス) 豊平13・30 40 1 剣ヶ峰14・50 15 00 豊平16

00 (泊)
(6日) 晴れ 豊平7:00 (バス) 植穂ヶ原7:05 20 乗鞍植穂9:15 25 1 白曇ヶ池10:50 1 平湯温泉スキー場12:10 30 (バス) 宿難の湯12:45 (入浴・昼食) 14:20 (バス) 岐阜駅18:00 (解散)

1日目に豊平から剣ヶ峰に登り、富士山のように秀麗な御嶽を眺め、2日目は植穂ヶ原から、平成17年に整備された平湯口コースを歩いた。晴天に恵まれ、槍・穂高など北アの大展望を満喫した。
(参加者) 伊藤 直 荻野美紀恵 金森節子 川島勝英 加納由紀子 熊木秀雄 小林 桂 田中善雄 夏山春子 堀田輝子 森 美香子 ◎三井 一 ◎鷺見守康 (計13名)

湖北・伊吹山から北尾根

8月5日(内)6日(外) 一泊2日
(5日) 晴れ (集合) JR近江長岡駅18:30 35 (バス) 伊吹登山口三宮神社18:50 1 Gondolaのりば19:00 Gondola三合目ホテル前19:10 (夕食) 19:50 1 伊吹山頂上小屋22:10 (泊)
(6日) 晴れ 小屋5:00 (朝食) 6:00 1 お花畑東コース駐車場6:40 50 1 静馬ヶ原7:40 1 北

尾根御座峰手前8:20 (撤収) 1 駐車場9:30 1 伊吹山9:45 (休憩) 10:30 1 三合目12:15 (解散) 夕方からの登山は涼しい風のか、夜景と長浜の花火を眼下に見ながら快遊に登った。翌朝、東ゴースからお花畑を満喫して北尾根へ行ったが、8時過ぎで30度を超えたので熱中症の恐れもあり、撤退して早々に下山した。
(参加者) 鮫田一郎 小川富士雄 岡崎知子 遠藤 幸 中嶋日出男 川俣 勲 山田幸子 小坂さゆり 岩佐 修 小池一郎 岡本美子 福原 章 和田直樹 石田真由美 塩尻香織 小谷和子 松上美代子 中川光郎 ◎安倉止勝 (計20名) ◎村田智俊

神崎川・白滝谷・ツメカリ谷

(沢歩き) (鈴鹿を歩く245)
8月6日(内) 晴れ
(集合) 神崎川林道奥広場8:50 1 神崎川9:05 1 白滝谷出合9:35 1 ツメカリ谷出合11:20 1 スタレの流11:55 (昼食) 13:00 1 神崎川13:35 1 取水口15:10 1 林道広場15:30 (解散)

神崎川は涼を求める人達で賑わっていた。白滝谷はナメの白流まで登り、引き返してツメカリ谷の迫力のある崖下をヘツリ、スタレの流の滝壺で泳いだり飛び込んだりと夏を楽しむ。そして神崎川の大滑とS字のゴルジュも浮輪を抱いてのんびりとくだった。
(参加者) 服部 堯 小林 修 西村 修 一芝義雄 一芝美知子 稲津謙治 井口俊介 奥野太一郎 武村千鶴 ◎後藤康幸

東濃・三界山(展望の山20)

8月6日(内) 晴れ
(集合) JR勝川駅7:30 (車) 川上村夕森公園9:00 登山口9:20 1 25 1 三界山12:00 (昼食) 12:40 1 登山口14:55 (車) 勝川駅17:10 (解散)
4月2日は道が途中で雪に埋もれ、左岸を行くが、道は右岸に続いていて機線に出られた。機線で見えがけず御料局の標石と出会えた。裏は界の文字が刻まれていたので三角点ではない。三界山の1等三角点は雨量計小屋の手前20分にあった。
(参加者) 若林文夫・伊藤重美子

朝倉松雄 村田紀生 生越重美子 小林一世 多胡節子 長坂佐知子 山形 明 横田とも子 柴田小夜子 ◎山田明男 (計12名)

北アルプス・立山から乗鞍岳

8月12日(内)16日(外) 前夜発3泊4日
(12日) (集合) JR京都駅22:30 40 (車) 立山駅6:00 (朝食) 8:00 (バス) 宝巻9:00 1 10 1 越山荘10:10 30 1 浄土山分岐富山大雪登山口11:00 1 鬼岳直下広場11:40 (昼食)



薬師岳山頂にて

12・15 1 獅子番手前13:00 1 10 1 ゼラ峠14:35 45 1 五色ヶ原山荘15:30 (泊)
(14日) 晴れ 五色ヶ原山荘6:00 高山7:00 1 越中沢乗越7:20 45 1 越中沢岳9:00 1 10 1 スゴノ頭11:00 (昼食) 12:00 1 スゴ乗越12:30 1 13:00 1 スゴ乗越小屋13:40 (泊)
(15日) 晴れ スゴ乗越小屋6:30 1 間山7:45 55 1 北薬師岳9:50 1 10 1 薬師岳山荘12:30 1 13:00 1 薬師岳平ベンチ13:40 1 14:00 1 薬師峠テント場14:40 1 太郎平小屋15:00 (泊)
(16日) 晴れ 太郎平小屋6:25 1 折立9:10 30 (バス) 有峰口駅10:35 49 (電車) 立山駅11:02 35 (車) ウェルサンピア立山11:50 (入浴・昼食) 14:50 (車) 京都駅19:20 (解散)
4日間共快晴に恵まれ、北アの大景観、お花畑、雪渓を見ながらの薬師岳縦走となった。1日目に人の多さで雄山をカットしたのがのんびり歩きの契機となった。五色ヶ原で愛知の一芝夫婦に出会い、思い出の写真も撮ってもらった。夏山縦走の醍醐味を十分に堪能し

た4日間であった。
(参加者) 沖 安田文美江 高橋雅子 中川節子 松本裕巳子 多賀周二 多賀久子 上田久子 宮野哲郎 宮野敏子 長尾節子 南 利恵 川田洋子 杉本英一 高野舞治 山形 明 ◎奥比佐裕美 ◎安倉止勝 ◎村田智俊 (計19名)

信越・苗場山と鳥甲山

(自然観察山行218)
8月17日(内)夜20日(外) 前夜発2泊3日
(17日) くもり一時雨 (集合) JR岐阜駅22:30 (バス) 越後湯沢町旅館5:00 (朝食) 6:15 (バス) 和田小屋6:45 7:00 1 下の芝7:55 8:00 1 中の芝8:55 9:10 1 小松原分岐9:30 1 神楽ヶ峰9:50 1 苗場山11:25 (昼食) 12:20 1 平太郎尾根分岐13:05 1 九合目13:15 1 小赤沢三合目15:20 40 (バス) 長野県栄村(泊)
(19日) 晴れ 宿5:30 (バス) ムジナ平登山口6:05 1 10 1 尾根7:10 20 1 方谷岩7:30 50 1 白クラの頭9:35 50 1 カミシリ岩10:30 1 鳥甲山11:25 35 1 分

峠下11・40(朝食)12・10―屋敷
登山口15・30(バス)宿16・
00(泊)
(20日)晴れ)宿8・00(バス)
野々海高原9・30(散策)10・45
(バス)トマトの園11・15(入浴・
朝食)12・30(バス)岐阜駅18・
30(解散)

3日間とも大候に恵まれて暑かつた。苗場山ではガスが出て、見晴らしは利かなかったが、4、四方にもおよぶ広大な高層高原にヒツクリ。翌日は炎暑のなか、鳥甲山に挑む。鳥甲は羊蹄山ではなかった。14人が完登したが、疲れ果てての下山だった。

(参加者) 朝倉松雄 石川 敏
金森節子 小松志信 加納由紀子
栗橋崇吉 栗橋君子 中澤典司博
田中善雄 長尾一令 林 えい子
西村文男 平田輝美 武藤由美子
山形 明 和田純子 ○鳥居信吾
○伊谷礼司 ○鷲見守康(計19名)

大峰・稲村ヶ岳
8月18日(雨) くもりのち雨
(集合) 近鉄原原神宮前駅8・05
(バス) 8・10―清浄大橋9・35
―レンゲ辻11・45―山ノ上12・50
(朝食) 13・20―稲村ヶ岳13・45

―大日山14・05―山上辻14・40―
法力峠15・40―母公堂16・20(バス)
三 洞川温泉(入浴・バス) 榎原
神宮前駅18・30(解散)

登山口付近から小雨となり、濡れた階段で滑る人やザレ場で転ぶ人とトラブル続出。雨とガスの厳しい山行になったが、温泉で汗を流して疲れを癒した。

(参加者) 渡部和実 木村 豊
塚本忠次 小栗大直 澤田高治
志水明美 岩本彩子 岐田二郎
上高義之 馬龍忠男 山根弘美
磯部 純 有兼 登 宮路ちへ子
川俣 融 竹田善英 竹田勝美
古山幸男 上西千津比古
○西原辰夫 ○前川和佳子
○東山澄夫 ○西上利和(計29名)

湖東・鏡山
(ファミリーハイク90)
8月20日(雨) 晴れ
(集合) J R 近江八幡駅10・10
―鏡山10・40―鏡山登山口11・
05―大谷池11・15―鏡山山頂
の手前11・45―50―竜山12・10
(朝食) 13・00―鏡山三角点13・
05―アンテナステーション13・35―
―城山東麓部14・25―城山14・35

―45―城山東麓登山口15・00―
希望ヶ丘文化公園西ゲート前15・
20(30(解散))
鏡山山口から貴船神社を経て鏡山に登り着く。参加申込後に急逝された宮下洋一氏を哀悼し、山頂で黙祷を捧げた。希望ヶ丘文化公園の「稜線を歩こうコース」をたどり、鏡山から城山へ歩いた。

(参加者) 渡部和実 伊東ナナ子
岩崎健司 木村富子 小塚さゆり
中村静香 西居俊弥 西原裕子
宮本真幸 宮本悦子 市井ユリエ
塚本忠次 木内範文 山岸勝雄
和田直樹 林 信男 金谷 昭
磯部 純 志水明美 渡辺美代子
黒田晴子 後藤純子 中村英雄
妹尾正一 小池二郎 中澤ちず子
磯野重治 村上嘉子 川北重美子
竹田善英 本務五夫 成川みさお
青木一雄 市野博文 ○川上久堅
○木村太郎 (計36名)

元越谷左俣から白滝山(沢歩き)
8月20日(雨) 晴れ
(集合) 元越谷林道手前広場8・
25―元越谷9・05―大滝10・00―
二俣10・25―藪澤12・30―藪澤12・
50(朝食) 13・30―大滝ノ頭13・

50―白滝山14・30―元越谷林道15・
30―広場16・10(解散)
深山谷谷の元越谷左俣は深い樹林のなかに滝・ナメ滝が源流まで続き、猛暑知らずの沢歩きを楽しんだ。下りは涼風の尾根の白滝山を越え一気にくだった。

(参加者) 服部 秀 奥野太郎
永戸鉄治 稲津謙治 武村千鶴
西村 修 一芝義雄 一芝美知子
伊東弘隆 榎田勝利 ○後藤康幸
○山田喜三 ○岩野 明(計13名)

大峰・前鬼川上渡沢登り
8月21日(雨) 22日(雨)
前後発日帰り
(21日) (集合) 近鉄榎原駅21・
10(車) 前鬼林道終点広場23・30
(テント泊)
(22日) 晴れ) 広場(置車) 7・
07―前鬼川出合7・25―8.5滝8・
20―滝上8・40―滝ノ谷出合(三
重滝) 9・50―湧水の流場10・
15(朝食) 11・13―垢離取場11・
50―前鬼丸行往復―垢離取場13・
00―前鬼宿坊14・10―広場(置車)
14・32―15・10(解散・車) 榎原
駅16・45
吊り橋のたもとから黒谷をくだり前鬼川出合に来ると、先週の台

風の影響でいつもより水量が多く谷は洗われたように美しい。徒歩点に注意しながら8時滝へ。滝は念のためロープをフックスして通過。三重滝下先の湧水流のうまい水でうどん大会を楽しむ。垢離取場から裏行場を往復し、前鬼宿坊への行脚道をたどるが、谷を離れると急に暑くなり大汗をかく。やっぱり山は涼しい! ヒルチェックをしながらい林道終点へ戻った。

(参加者) 佐古田文子
梶原泰彦 小林 修 湯浅みや子
井沢重正 真島知恵 雨 知恵子
伊藤喜久男 的場たか子
○岡平くみ子 ○田中賢治(計11名)

六甲・観音山か(1)ころころ
8月22日(雨) 晴れ
(集合) 阪急須川駅9・20―33
(バス) 観音寺9・50―55―
林寺10・10―20―観音山10・55―
11・05―ころころ岳11・40(朝食)
12・30―奥山13・45―50―芦屋川
駅14・10(解散)

真夏の暑い日に短いコースを設定したが、それでも暑さにはかなわない。そんななか、観音山への

岩登り道は美しく、純谷の下りも低山ながら奥山の雰囲気味わった。

(参加者) 河内正治 田中三恵子
中岡昌子 駒川常雄 塚本忠次
金谷 昭 志水明美 小栗大直
後藤純子 渡部和実 中嶋日出男
青木一雄 市野博文 吉藤孝次
川上久堅 塩見剛也 船本裕子
村井寿和 光川博史 光川一美子
小松志信 中川節子 宮野純子
○沖 伸 ○伊谷礼司(計29名)

比良・武奈ヶ岳周辺
(テント山行)
8月26日(出)27日(雨) 1泊2日
(26日) 晴れ) (集合) J R 近江
高島駅9・00―03(バス) ガリバー
旅行村9・30―40―大樽10・30
―40―貴船の滝10・50―11・10―
七通返の滝11・30―オガサカ道
分岐12・00―広場12・10(朝食)
13・10―まぼろしの滝屋原根
八雲ヶ原14・00―20―イブキノ
コバ14・40―広谷小庵テント場15・
00(テント泊)

27日(くもり) 広谷テント場
00―ナガオ取付点7・20―ナガオ
―釣船8・30―細川越9・00―
広谷テント場9・30(テント撤去)

10・30―アカサカ道―大樽11・
30―ガリバー旅行村12・00(朝食・
休憩) 15・33(バス) 近江高島駅
16・00(解散)

八雲ヶ原は只今整備工事中でヘリが飛んでいない。キャンプの雰囲気もないので、広谷へくたてテントを張った。全部で9張。手頃な広さであった。ナガオから釣船岳・武奈ヶ岳を目標したが、釣船岳で雨模様のため中止となり、細川越から早々に広谷に下山した。ガリバー旅行村に着くと晴れてきたので、旅行村の広場で3時間余の宴会となった。

(参加者) 川田洋子 中嶋日出男
小林 桂 遠藤 幸 光川一美子
有兼 登 宮野哲郎 宮野純子
山口敏明 林 弘毅 ○比比裕美
○安倉止勝 ○村田智俊(計13名)

養生・京都大学研究室
8月27日(雨) くもりのち晴れ
(集合) J R 近江今津駅8・45/
道の駅「朽木本陣」9・10(車)
焼尾地蔵10・00―根来坂11・30―
焼尾地蔵11・55(朝食) 12・00―
(車) 生形休憩所13・00―三國峠
13・40―地蔵峠分岐14・10―大谷

14・20―地蔵峠分岐(林道) 14・
40―地蔵峠15・20―生形休憩所16・
00(10(解散))

今回のメインがナツエビネだったので、確実に見られる百里ヶ岳の根来坂に午前中行った。午後は三國峠から枕谷をくだり、長治谷作業所前から地蔵峠に戻った。百里ヶ岳では秘密の場所がたくさん花と出会えた。研究林内でも四ヶ所バラバラとナツエビネの花が見られた。

(参加者) 馬場桂子 川戸せつ
朝倉松雄 西村文男 林 正義
栗橋崇吉 栗橋君子 大西節郎
三上伸夫 山田妙子 ○山田明男(計11名)

(7・8月の参加 延418名)

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判 352頁/定価 1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判 336頁/定価 1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判 360頁/定価 1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判 340頁/定価 1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判 328頁/定価 1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁/定価 1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 多摩100山** 守屋龍男 著
B6判 244頁/定価 1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著
B6判 362頁/定価 1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・バンク 著
A5判 232頁/定価 1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 389頁/定価 1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編
A5判 219頁/定価 1680円 山と花を愛する100人が綴った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判 234頁/定価 1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと雑々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話/Fax 03-3915-8110
振替 00130-9-146915

●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西」の定期購読者を中心にしたハイキングの集いである。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で16年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人みなさんへ入会いただけます。

入会金 5000円（ワッペン共
年会費 30000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回程度、山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアルリーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員（定期購読者）紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5223番から5226番まで（敬称略）。

【京都】 小泉定子 石川 澗
【兵庫】 堀内 潭
【福岡】 水野貞夫
(4名)

訂正とお詫び

90号（初秋）9ページ目段目次8行目の執筆者「鷲見守康」は「木村太郎」が正しい。

90号（初秋）15ページ中段15行目「朽木橋広」は「朽木橋広（たねひろ）」が正しい。同段最後から2行目も同じ。また同段17行目「通路」は「通路」が正しく、また同段最後から2行目「無動時」は「無動寺」が正しい。

90号（初秋）30ページ題名「孫太尾根」のルビ「そんた」は「まごた」が正しい。

90号（初秋）60ページ下段4行目「三高の歌」は「三高の水上部（ポート部）の歌」が正しい。

90号（初秋）79ページ一段最終行「ミヤマコアオイ」は「ミヤマコアオイ」が正しい。同ページ二段11行目「ひとしづか」は「ひと

りしづか」が正しく、三段18行目「ヒトリシズカ」は「ヒトリシズカ」が正しい。

90号（初秋）80ページ一段16行目「五ヶ所川」は他の表記に合わせ「五ヶ所川」に訂正します（本誌では山名などの助詞「か」「が」「カ」「ガ」の表記は、できるだけ「カ」に統一するようにしています。89号74ページ中段参照）。同段18行目「川縁」は「川縁」が正しい。

90号（初秋）81ページ二段最後から5行目「無尽蔵」は「無尽蔵」が正しい。

90号（初秋）101ページ二段最後から7行目「遊タイム」は「遊タイム」が正しい。

90号（初秋）102ページ三段7行目「大鏡山」は「大鏡山」が正しい。

（編集室）

書店でお求めになりたい方へ
前もって毎月ほしいと「購読予約」をされますと、どの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は隔数月の20日頃（隔月刊）の発売。